

10-522

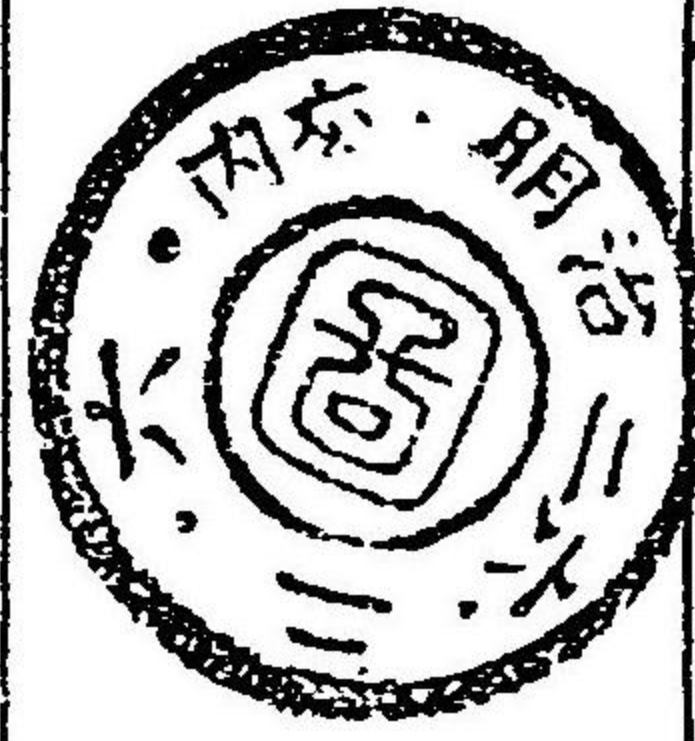
№ 217/XTV

東京
教育
世界

世界商業史

全

六條 隆吉
近藤 千吉
合著



東京
博文館
藏版

古無史之著世各商
業史多稿志可與
他如一讀也
論史之所不讀者

各說其人之多也世
上法種之生多之也
今之於知也多有困
之著述多有知之

在元高皇帝之天下
項大相文綱解之遺
去也其人之困也頗
不洽也其人之困也甚

吾說易人
上法獲
其著述
可之

有先
項六
考之
了洽

其程上安身 乍去去
之安八安之 將來多望之士
何之今因之 著之安身安身
可也之 社稷之 貴中一子義

務之之 益先者 勵斯
者之之 長才 如之之 交
也 安身安身

明治三十五年十二月廿日

山本篤之磨

六修陸吉君

山本篤之磨

中等教育 世界商業史序

試みに坤輿圖を披て觀よ其陸面に
星羅碁布せるもの之を大にしての
獨立の邦國之を小よしての附庸屬
地更に細觀すれは州郡村落其麗億
のみならず山なきの地無く水なき
の國無し水に瀕する者の漁し山に
住む者の獵し山水の中間に在る者

東京府知事富田鐵之助君序文

ハ佃す此間自ら有無相通する者な
かるべからず是れ商の由て起る所
以一州一邦既に然り萬國豈然らす
とせんや故に山國と海國との間亦
有無相通する者なきを得ず是に於
て始めて外國貿易あり外國貿易ハ
國內商業の更に其範圍を皇張した
る者に外まらず顧ふよ萬國の間外

國貿易の開けてより茲よ數千年文
明の二大原力たる蒸氣電氣の利用
未だ興らざるに當てや外國貿易も
其盛を極むる能はざれば是れ舟を瀛海
に浮へて不死の藥を求むるの類の
み蒸電二大力の一たひ貿易上に利
用せらるゝや昔日の天涯地角今ハ
一家比隣の如く茲に始めて眞成の

外國貿易を見るに至れり今や我日本は外國貿易の亂潮來りて岸を拍ち其波動の及ぶ所農商工其他凡百の事業動搖紛亂人をして殆んど適從する所と知らざらしむ然れども此動搖ハ畢竟内外商勢の平衡を得んか爲めなれば我より進んで彼れの岸に襲ふに阿らずんハ其平衡を

得る能はず吾人豈猛省せざる可けんや六條隆吉君近藤千吉君世界商業史を著はし來て余に示す余受けて一閱するに古今萬國の商業沿革を叙する極めて詳明以て既往に鑑み將來を推すの資料と爲すに足る思ふに是書の一たひ世に公けにせらるゝや我商業社會を利する鮮少

にあらざるべし余豈一言せざるを得んや聊か平昔の所感を書して序と爲す

明治壬辰十二月 富田鐵之助識

中等教育 世界商業史

例言

著者等私カニ思ヘラシク殖産興業以テ國チ富マシ國チ強クセント欲セハ須ラシク各人チシテ大ニ實業的思想チ有セシメザル可カラズ而シテ今日ハ大論奇說一世チ驚倒シ虚名チ博スルノ時ニ非ズ寧ロ既往ノ經歷チ探究討尋シテ其間前轍龜鑑チ發見シ懲戒摸倣ノ資料トナスヲ急務トスト且ツ著者等往々ニシテ商業上良歴史無キノ嘆聲チ耳ニシ自カラモ亦大ニ之ヲ實驗セリ乃チ筆チ探テ此書チ著述スルニ至レリ然ルニ商業歴史チ叙述シテ之チ完全無疵ノモノヲラシムルハ疑モナキ至難ノ大業ニシテ著者等ノ淺學無識文辞ニ拙劣ナル到底力ノ及ヒ能ハザルモノアリ左レハ稿成リテ之チ再讀スルニ當リ著者等殊更ラニ其非ナルチ感知シタリ唯ダ夫レ忍デ之チ上梓スルニ至リシハ著者等一片ノ丹心之チ以テ商業思想養成ノ一助ヲラシメンガ爲メノミ若シ然ルコトチ得ハ至幸之ニ若ク者ナカラシ

著者等爰チ以テ切ニ望ム讀者ハ其佳處——若シアレバ僥倖——チ捨テズ其缺點——若之チクンバ大幸——チ去リ叮嚀親切之チ訂正スルノ意チ以テ熟讀細査スルアラシコトチ之レ管ニ著者等ノ欣喜ニ堪ヘザルノミナラズ其商業社會チ益スルコト鮮少ニ非ザルベシ

著者等ノ参考セルトコロハ『シーツ』氏(商業沿革史、近世商業史、ゴール)『ぎびん』氏(歐羅巴商業史)『ふらんき』氏(歐羅巴經濟史)『りすと』氏(經濟學)『うえふすた』氏(世界商業)『かんにんがむ』氏(英國商工業發達史)『れびー』氏(英國近世商業史)『ふのしや』氏(歷史)『てーろる』氏(諸國歷史)『らいん』氏(日本產業本)外務省(外交志)『けりー』氏(社會學)『とむそん』氏(理財學)等ノ諸書ヲ始トシ或ハ銀行或ハ蠶業或ハ船舶等ニ關シ種々ナル書籍ヲ調査セリ殊ニ其最モ著者等ヲ助ケタルハ『ぎびん』氏『シーツ』氏著述トナス然レモ『ぎびん』氏著書ハ其体裁宜キヲ得ルト同時ニ簡易ニ過ギ『シーツ』氏著書ハ其精細ナルト同時ニ順序錯雜セリ故ニ著者等ハ之ヲ參酌スルト共ニ更ニ又兩氏ノ偏說ヲ棄テタリ蓋シ兩氏ハ共ニ自由貿易論ヲ固執シテ自由貿易以外商業ナキガ如クニ說キ書中ノ評論往々ニ偏頗ニ傾クヲ免カレズ之レ彼等ガ英國ニ生レテ英人ノ爲メニ著述セルニヨルベシト雖モ著者等ハ之ヲ以テ其當ヲ得タルモノトスルヲ能ハズ故ニカメテ公平ニ事實ヲ記述セリ書中隔履搔痒ノ感多キニ至テハ著者等ノ淺識ナルト紙數自カラ限リアルニヨル讀等幸ニ之ヲ諒セヨ

明治廿五年十二月

著者謹識

中等教育 世界商業史目錄

緒言

商業史定義—其範圍—商業史ト文明史—商業史ト經濟史—商業史ト財政史—商業史ト農工業史—商業史ト法律史—商業史ト地理學—商業史ト商品學—商業史ト交通學—商業ハ文明ト共ニ西漸ス—商業ノ發達ニハ五個ノ階段アリ—陸上貿易—隊商貿易—河流貿易—沿海貿易—大洋貿易—大洋鐵道兼用貿易—商業ハ輕蔑スベカラズ—商業ヲ興スモノハ國ノ產物ノミニアラズ—商業ハ宜戰構和ノ大原因ナリ—講究上ノ區別

第一篇 太古商業史

第一章 埃及

埃及建國—「なる」河ト埃及—埃及ハ商業國タルノ資格ヲ備ヘタリ—產物—地理—外國ノ情態—何故ニ商業國ヌラザリシカ—人民ノ氣風—法律—農業—階級制度

第二章 亞西里亞及巴比倫

建國—「ちぐりす」「いふれつ」河ト「めそぼたみあ」—產物—海上貿易—工業

第三章 印度及支那

他動的貿易—印度貿易ト亞歷撒港—支那ノ產物—國內生計ノ安易ト海外貿易ノ發達—印度支那間ノ貿易

第四章 「ふえにしわ」

目錄

太古ノ英國—地勢上ノ利便—染物—硝子—織物—金屬細工物—「ふえにしち」商品—他國ノ物品ナリ—海上貿易—西班牙發見—陸上貿易—猶太—航海業—殖民—欠点—効績

第五章 「かるせーち」

建國—産物—海上貿易—無言貿易—陸上貿易—滅亡—其原因—「かるせーち」人明所ノ觀察—爲換手形—貸借証券—冒險貸借

第六章 希臘

「ピロイック」時代ノ商業—「ふえにしち」入トノ關係—地勢—雅典—「コロんす」—殖民—「すげらた」法律—學者—商人—奴隷—通貨—銀行—營業免許—領事

第七章 羅馬

建國—非商業的國民—商業上ニ効驗アリヤ—奢侈—商業—工業—輸入超過—海上貿易—陸上貿易—道路—産物—飛脚制度—貨幣—銀行—利子ニ關スル誤説

第八章 太古商業ノ概論

商業ノ行路—商業ノ範圍—歐亞ノ關係—都會ト神殿—祭禮ト開市—銀行寺務ト寺院—與敗存亡其軌ヲ同クス—戰勝即戰敗—傭兵—奴隷

第二篇 中古商業史

第一章 「しやーれまん」帝國及び封建制度

西羅馬帝國ノ滅亡—東羅馬帝國ノ形勢—「さらせん」人ノ勃起—「まやーれまん」大王—東西洋ノ貿易—「まやーれまん」大王ノ事績—封建制度ノ流行—封建制度ノ利益—封建制度ノ害毒—獨立市府ノ發生—十字軍—十字軍ノ效果—新需要—農業ノ進歩—武器ノ製造—財産ノ移轉—奴隷ノ解放—獨立市府ノ隆盛—商工業者ノ團結

第二章 以太利市府

「あまるふー」位置及ヒ形勢—商業—學術—「びざー」トノ戰爭—滅亡—「びざー」市府ノ起因—商業區域ノ擴張—「せのあ」トノ戰爭—滅亡—「ふるれんす」市府勢力ノ擴張—「ふるれんす」ノ政体—「メッ」—學術技藝ノ發達—商業教育—製造業及ヒ銀行事務—組合—毛布及ヒ絹布—銀行規模ノ宏大—醫學ノ進歩—「かまにす」市府ノ起因—産物—職業—沿海貿易ノ擴張—造船及ヒ航海事業—黑海ニ於ケル競争者—亞弗利加ニ於ケル「アムにす」ノ勢力—歐洲内地ノ商業—工業—全盛—「カマにす」ノ遠征者—商業政界—「えーぐふでる」ノ戰爭—衰亡ノ大原因—「せのあ」商業ノ範圍—「カマにす」トノ競争—「せのあ」ノ工業—「カマにす」トノ戰爭—衰滅—「みらん」—以太利市府ノ概論

第三章 「いんせ」同盟市府

同盟ノ目的—同盟ノ發達—同盟創設ノ期日—同盟ノ元祖—同盟ノ區劃—同盟ノ勢力及ヒ商業—倫敦代理商館—「のぶこるつ」代理商館—「ぶるーぐす」代理商館—「べるげん」代理商館—同盟衰頽ノ原因—同盟ノ効績

第四章 通商線路

(第一、中古ニ於ケル南北通商線路) 水路—陸路—「らいん」同盟—「すわびあ」同盟
(第二、中古ニ於ケル東西洋ノ交通路) 「ばぐだつ」—「土耳其人」ノ跋扈

第五 章 中古ニ於ケル定期市

中世ハ太古ニ比シテ開市ノ必要大ナリ「フリンチエス」市「すみすふ」市「すたーぶり」市「ぼーけあ」市「らいぶちひ」市「にぢに、のぶ」市

第六 章 英吉利

英國上古ノ形勢「羅馬時代」あるふれつ「王ノ事績」十字軍ノ影響「大憲」ノ發布「英國」ノ羊毛「製造業」ノ進歩「商人」ノ團結

第七 章 中世ノ工業

歐洲南部ノ製造業「フランス」地方ノ製造業

第八 章 中古商業ノ概論

中古商業史ニ於ケル二期限「商業史上」ノ一階級「マヤレマン」帝國破裂ノ原因「上半期」即チ暗世「東羅馬」及「亞刺比亞」ノ商業時期「下半期」即チ曉世「中古商業」ノ太古商業ト異ナル點「以太利」及「ほんぜ」ノ商業時期「中古」ニ於ケル東洋諸邦「中古」ニ於ケル商業都府ノ運命「中古」ノ近世ニ移ツル階級

第三 篇 近世商業史

第一章 葡萄牙

太子「へんり」海路發見ヲ促セルノ原因「海路發見」ノ端緒「法王」ノ特權免狀「奴隸」喜望峯ノ發見「喜望峯」ヲ迂廻シテ印度ニ達スル航路ノ發見「リスボン」ノ繁華「東印度」占領「錫蘭」「マラッカ」

るむつ「支那」及「日本」澳門「ぶらじろ」百年ノ夢「人民」ノ腐敗「特權」外人放逐「殖民」政界「西班牙」ト合併「分立」以後「英國人」ノ勢力「チボルト」酒會社

第二章 西班牙

地理「人民」半島統一「亞米利加」發見「開龍」探險者「加奈利」島「法王」ノ特權免狀「世界一周」西班牙ノ全盛「商業」史上ノ効績「衰亡」ノ原因「殖民」ニ對スル殘酷「黑奴」輸入「殖民地」諸市府「モノポリ」殖民地ト「通商」押シ賣リ「宗教」戰爭「和蘭」ノ反乱「本國」ノ衰頹「殖民」地ノ興隆「殖民地」反乱

第三章 「ねーせるらんど」

不幸ノ國土「西班牙王」ノ壓制「英國」ノ競爭「南方」れ「ぜららんど」あんさわ「ぶ」ノ盛時「外國人」ノ來住「貨物」ノ流入「あんさわ」ノ陷落「北方」れ「ぜららんど」漁業「航海業」造船「東洋」遠征「西大陸」探險「西葡商業」ト類スル點「西葡商業」ト異ナル點「印度會社」

第四章 佛蘭西

中世ノ佛國「フランス」一世「ぶらじろ」トノ關係「へんり」四世「さり」候「農業」「ひやげ」のつミ「宗徒」放逐「くるへる」商業「會社」設立「殖民」東印度「じゅーぶれ」華美「腐敗」「じょんろ」紙幣ノ亂發「みすまっび」會社「けれ」つるこ

第五章 日耳曼

「ほんぜ」市府ノ末路「麻布」普魯西「ふれでり」第一世ノ産業保護「市府」

第六章 英吉利

社會ノ變遷—「モナストリ」領地ノ沒收—羊毛產出ノ増加—西大陸ヨリ金銀流入ノ結果—「ちゅーごる」以後
 國王政署ノ變化—主錢主義—人民ノ富榮ト王家ノ富榮—中古以後發達ノ概況—英國殖民ノ他國殖民ト異ナル
 所—探險—西大陸殖民—殖民地ニ於ケル英佛ノ争—東洋殖民地—東印度會社—「くらいぶ」—諸會社ノ設立—
 「れがまん」會社—航海條令—英國銀行—國債—南海商社—驛遞事業—亞米利加戰爭—印紙條令—茶稅

第七 章 近世商業ノ概論

國民的商業—海上ニ發見後ノ商業國—大洋貿易—商業區域ノ擴張—商品ノ變化—封建時代ノ商業—中央集權
 制度下ノ商業—西大陸金銀ノ流入—戰爭ノ補助—財政ノ窮迫—主錢主義ノ發生—稅源増加ノ目的—商況ノ活
 潑—輸出獎勵—古代及ビ近世殖民ノ差異—黃金ノ光—掠奪ノ目的—失敗ノ歷史—殖民政署—奴隸貿易—排他
 獨占主義—特許會社—重農主義—放任主義—近世商業ノ進歩—銀行

第四 篇 最近世商業史

第一 章 英吉利

商工業革新以前—「わづ」氏ノ蒸氣機械—「はーぐりーぶ」氏紡績機—「あーくらい」氏ノ水力利用—「く
 るむさん」氏ノ發明—織機ノ改良—石炭及ビ鉄ノ採掘—運河ノ勃興—農業ノ狀態—佛國トノ宣戰—財政ノ困
 難—商業上ノ損害—秘密貿易—海外市场ノ擴張—海外領地ノ増加—濠州—大陸戰爭ノ終了—穀物條令ノ發布
 —航海條令ノ廢止—穀物條令ノ廢止—瀛車ノ發明—汽船ノ發明—電信ノ發明—郵便制度—「かりふゆるにや」
 金礦ノ發見—濠州金礦ノ發見—萬國大博覽會—工業ノ沿革—輸出入—印度—「くりみあ」戰爭—支那トノ戰爭
 —亞米利加ノ内亂

第二 章 佛蘭西

大革命—紙幣ノ濫發—最高價制限法—那翁—佛蘭西銀行—排英政署—「べろりん」命令—樞密院命令—「べろ
 りん」命令偶然ノ結果—那翁ノ政署—戰爭ノ餘響—産業ノ恢復—内國博覽會—普佛戰爭—製絹業—酒造業—
 金屬製造業—海外領地—商業國トシテ佛國ノ位置

第三 章 日耳曼

英佛及ヒ英米戰爭ノ結果—貿易ノ不平均—「べろりん」命令ノ影響—英國製造品ノ壓倒—保護政署—關稅同盟
 —澳普ノ軋轢—關稅同盟ノ進路ニ當ル一障害—日耳曼帝國

第四 章 「ねーせるらんど」

佛國革命戰爭ノ影響—和蘭自耳義ノ分立—和蘭—「じやば」—自耳義—自耳義ノ製造業

第五 章 露西亞

「びーごる」大帝—英國トノ關係—大陸戰爭ノ影響—保護政署—工業ノ興起—政策變更—外國貿易ノ進歩—
 海運業—外國人—陸上貿易—「まへりあ」

第六 章 澳太利、瑞西、以太利

(澳太利)大陸戰爭—製造業—關稅同盟ト澳太利—天然產物—以太利戰爭—(瑞西)革命以前ノ産業—革命戰爭
 ノ余響—工業ノ進歩—時計業—(以太利)以太利統一—「あるぶす」山穿通—最近世ニ於ケル商業ノ進歩

第七 章 西班牙半島及ビ「すかんでなびあ」諸王國

(西班牙及ビ葡萄牙)國運ノ傾頽—「いさべら」ノ効績—内亂—「ぶらじろ」分立—「すかんでなびあ」諸王國
 瑞典—産業ノ進歩—實業教育—諾威—「丁捺」諾威トノ分立—農業及ビ牧畜

第八章 北米合衆國

獨立以前ノ産業—歐州戰爭ノ余響—砂糖貿易—航海業—「べりりん」命令ノ影響—英米戰爭—其損害—保護稅—南北利害ノ差異—南北戰爭—綿花—「かりふ」なるにあ—金礦ノ發見

第九章 印度

綿布—藍—阿片—印度ニ於ケル外國人—英國東印度會社—「ぼんべー」—「かるかつた」

第十章 支那

葡萄牙人—英吉利人—茶—阿片貿易—阿片ノ乱—五港—香港割與—新開港

第十一章 日本

太古—崇神天皇時代—神功后皇ノ三韓征伐—王仁ノ來朝—工業ノ進歩—留學生及ビ歸化移住者ノ亞細亞大陸、交通上ニ及ボシタル影響—亞細亞大陸トノ通商—弘安ノ役—僧侶ト通商—宗氏ト朝鮮—海賊ノ猖獗—秀吉征韓ノ結果—歐人初見ノ日本國—南洋—呂宋—航海業—葡萄牙人—西班牙人—歐州宗教戰爭ノ結果—日蘭貿易ノ第一期—日蘭貿易ノ第二期—「ペリ」來朝—新日本

第十二章 最近世商業ノ概論

關稅同盟—保護ノ弊害—歐州諸國ノ困難—新工業ノ發生—英國ノ勢力—侵畧主義—海軍—航海業—蘇士運河—英國ノ敵強—關稅方案—英米ノ商戰—太平洋貿易—日本ノ地位

中等世界商業史

六條隆吉 近藤千吉 合著



言

商業史ノ定義

觀察スルノ點異ナルニ從ヒ其名稱モ亦自カラ異ナリ而シテ商業史ナルモノハ過去ノ事蹟ヲ商業ノ上ヨリ觀察シテ論究スル所ノ歴史ノ一種ナレハ、其範圍モ亦商業其物ノ範圍ニヨリ

緒言

テ定マルモノナリト云ハザルベカラズ、然ルニ商業ノ範圍ナルモノハ貨物ノ交換ナリト云ヘル簡單ノ一句ヲ以テ言ヒ盡シ得ルニモ拘ハラズシテ、其關係スル所實ニ廣濶ナルガ故ニ、商業歴史ナルモノ、關係スル區域モ亦從ツテ廣濶ナラザルヲ得ズ、爰ニ商業歴史ノ關係スル所ヲ列擧スレバ左ノ如シ、

商業史ト他ノ歴史トノ關係、

商業史ト文明史

文明史、商業ト文明トハ其關係最モ密接ニシテ、世人往々之レガ區別ヲ忘却スルモノアルニ至ル、蓋シ商業ノ始マル所ハ開化ノ起レル處ニシテ商業ノ發達セル處ハ亦文明ノ進歩セル所タルノ事實ハ、人ヲシテ往々商業ハ文明ナリ、文明ハ即チ商業ナリトノ感念ヲ抱カシムルモノアリテ、若シ彼ノ文明ガ亞細亞ノ一地方ヨリ發生シ漸次ニ「ふるゑにしわ」「カトセーち」希臘羅馬等ニ移轉セルノ事實ト、商業ガ又等シク其方向ヲ共ニシテ西漸セルヲ觀察スレバ、人ヲシテ二者ノ間ニ區別ナキガ如キノ念慮ヲ懷カシムルモノアラン、然ルト雖モ二者ノ性質ハ決シテ同一ニアラズ、蓋シ商業ノ盛ナル處ハ文明ノ進ム處ニシテ、文明ノ進ム處ハ又商業ヲ誘起スルモノアラント雖モ、文明ハ必ラズシモ商業而已ニヨリテ發

生スルモノニアラズ、農業、工業、美術、學術、等ハ又商業ト共ニ文明ヲ興スノ一因ヲナスモノナリ、故ニ二者ヲ同一ナリトスベカラザルト同時ニ、二者ヲ隔離シタルモノナリトスベカラザルハ勿論ナリ、カク商業ト文明トハ密接スルガ故ニ、商業ノ歴史モ亦文明ノ歴史ト相關係スルコト大ナリト云フベシ

商業史ト經濟歴史

經濟歴史、商業ハ貨物ノ交換ナリ、貨物ノ交換ハ分業ノ結果ナリ、分業ハ土地勞力及ヒ資本ヲ長所ニ應ジテ適用スル生産ノ方法ナリ、而シテ經濟學ノ論スル所ハ生産ノ原理ヨリ分業ノ効果ニ至リ尙又交換ノ起因、原則及ヒ方法ヨリ其媒介物タル貨幣ノ事ニ及ブモノトス、然ラバ即チ商業ヲ論スルニ當リ經濟學ノ關係スル所甚ダ大ナルハ勿論ニシテ、古ヨリ經濟學ハ如何ニ發達シ、如何ナル學說ヲ出シ、此學說ハ又如何ニ制度ヲ變動セシメ、此變動セル制度ハ果シテ又如何ナル影響ヲ社會ニ及ボセシカヲ研究スル所ノ經濟歴史ナルモノハ商業史研究上ニ最モ至要ノ部分ヲ占メザルヲ得ザルナリ、

商業史ト財政史

財政史、財政學ハ國家ノ事務ヲ行フニ要スル經費支辨ノ方法ヲ研究スルモノニシテ、此方法如何ニヨリテハ商業社會ヲ動搖スルコト少クニアラズ、或ハ國債ノ募集トナリ、或ハ紙

商業史ト農工業史

幣ノ濫發トナリ、或ハ又租税ノ輕重トナリ、財政上ノ處分ガ社會ノ上ニ及ボシ來ルノ大影響ニ至テハ一々之ヲ財政學上ノ原理ヨリテ探究セザルベカラズ、
農業及工業史、農工業ト商業トハ相待ツテ其盛大ヲ致スモノニシテ、二者相互ニ原因結果ヲナスモノナリ、蓋シ農工業ニヨリテ生産スルノ物品アルモ、之ヲ交換スル商業者ナクンバ其貨物ハ徒ラニ産出セラル、ノミニシテ何等ノ効用モナカラン、又商業者アリテ貨物ヲ交換セントスルモ、農業及工業アリテ貨物ヲ産出スルナクンバ、商業者ハ只徒ニ空手ヲ擁スルノミ、故ニ商業ノ興廢消長ヲ論ズルニ當リテハ、農業及工業ノ沿革ヲ知ツテ、而シテ後之レヲ講セズンバ、決シテ其真相ヲ發見スル事能ワザルナリ、
法律史、法律ハ公權及ビ私權ノ行使ヲ論究スルモノニシテ、個人及ビ國家ノ行爲ヲ制限ス、從ツテ法律其宜シキヲ得バ商業又良ク發達スベク、若シ不幸ニシテ法律其宜シキヲ得ザレバ商業ノ興隆ヲ妨ゲ、或ハ又之ヲ邪路ニ導ビクニ至ラン、故ニ商業ノ消長興敗ヲ論究セント欲セバ、又之ヲ支配スル所ノ法律ノ如何ナリシヤヲ知ラザルベカラズ、
商業史ト他ノ諸學トノ關係、

商業史ト法律史

商業史ト地理學

地理學、商業ハ分業ノ結果ニシテ、外國貿易ナルモノハ各國ガ其長所ニ從テ貨物ヲ製産スルヨリ起ルモノトス、而シテ此長所ナルモノハ地理學ノ教示スル處ニシテ、某國ノ氣候地質ハ某品ノ産出ニ適シ、某國ノ地勢及ビ習慣ハ某品ノ需要ヲ喚起スト云ヘルガ如ク、各國ノ間ニ存在スル凡テノ差異ハ是レ交換ヲ發生セシムルノ原因タリ、而シテ此交換ヲ行フニ當リテモ又地勢位置等ノ差異ニヨリ、某國ハ便利ヲ享受スルコト多ク、某國ハ不便ヲ被ムルコト大ナルモノアルガ故ニ、時トシテハ國內富饒ナルモ商業國タルコトヲ得ザルモノアリ、又却ツテ貧瘠ナル國土ニ居ルト雖モ盛ニ商業ヲ行ヒ得ルモノモアリ、後テ商業歴史ヲ研究スルニ當リ地理學ヲ研究スルノ必要ナルコトヲ知得セン、
商品學、商品トハ商業ノ目的物ナリ、故ニ某品ハ某地ニ産シ、某性質ヲ有シ、又某需要ニ充テラル、モノナルヤノ智識ハ、商業歴史ノ研究ニ必要ナルコト勿論ナリトス、然リ而シテ商品ハ社會ノ進歩ト共ニ變遷スルモノナルガ故ニ、商業歴史ナルモノハ又或点ニ於テ一ノ商品沿革史ナリ、
交通學、交通トハ交換ヲ行フノ道程ニシテ、是レガ難易ト遠近トハ商業ノ發達ヲ左右ス

商業史ト交通學

商業史ト商品學

ルヲ決シテ僅少ナラズ、故ニ交通ノ機關、區域、及び其方法等ニ關スル智識ハ、商業歴史ノ研究ニ欠クベカラザルモノトス、此他宗教ノ如キ、統計學ノ如キ、戰史ノ如キ、皆ナ商業歴史ノ請究ニ資スルモノニシテ一々枚擧スルニ違アラズ、要スルニ商業歴史ノ關係スル所ハ甚ダ廣漠ナル範圍ヲ有スルモノト云フ可ク、之ガ適當ナル講究ヲ爲サント欲セバ、頗ル緻密ノ觀察ト該博ナル知識トヲ備ヘザルベカラズ

商業歴史ノ範圍ハ甚ダ廣シ、故ニ是ヲ講究スルノ裡幾多ノ愉快ト趣味ノ存在スルモノナカ
ルベカラザルハ論ヲ俟タズ、况ンヤ歴史ハ又古人ノ經驗ヲ今人ニ教示スルモノナルガ故ニ其成功失敗ノ形跡ハ自カラ今人ノ龜鑑トナリ、温古知新ノ利益ヲ得セシムルヲ少カラザルナリ、

商業歴史研究ノ中ニ於テ、發見セラレ得ベキ多クノ原則中、最モ著大ナルモノヲ擧レバ

(第一) 商業ハ文明ト共ニ西漸スルヲ、

文明ハ世界ノ四個所ニ於テ先ヅ起レリ、此等ノ場所ハ皆河流ノ沿岸ニシテ、其一ハ黄河揚

商業ハ文明ト共ニ西漸

子江ノ間ニアリテ之ヲ支那ノ文明トナス、其二ハ「いんだす」「がんどす」兩河ノ間ニアリテ之ヲ印度ノ文明トナス、其三ハ「ないる」ノ沿岸ニシテ之ヲ埃及ノ文明トナス、其四ハ「ちぐりす」「いゆふれちす」ノ間ニシテ之ヲ「めをばたみわ」ノ文明トス、此四ツノモノハ太古ニアリテ先ヅ地球上ニ開發セル文明ノ花ナリト雖、一ヨリ三ニルモノハ共ニ不動ノ性質ヲ有シ、一度ヒ或程度ニ達シテヨリ以來、更ニ一步ノ進歩ヲモ顯ハサザリキ、然リト雖モ第四ノモノニ至リテハ、其勢猛烈ニシテ窮極スル處ヲ知ラズ、光彩燦爛四方ニ射出シ、苟モ其發達ニ適當スベキ處ハ驥々トシテ其歩ヲ移シ、斯クシテ層又層、漸又漸、終ニ今日ノ文明ヲ作り出スニ至レリ、今其方向ヲ見ルニ、「めをばたみわ」ノ平原ヨリ起リテ「ふろにしわ」ニ移リ、是ヨリ希臘「かるせいち」ニ及ボシ、更ニ西シテ羅馬ニ達セリ、而シテ「ふろにしわ」ニ於テ全盛ヲ極メ一時其勢ヲ潛メタル後、再ビ燦然トシテ南方「グろにす」「ふろれんす」ニ榮ヘ、北ノ方「いんざ」ノ都府ニ興起セリ、是ヨリ西班牙ニ、和蘭ニ、佛朗西ニ、獨乙ニ、終ニ英國ノ嶋嶼ニ達シ、斯クシテ歐洲全土ニ其盛大ヲ極メ、更ニ一蹴シテ北米ニ波及シタリ、商業ノ發達モ亦是レト其方向ヲ同クシテ、初メハ「ふ

ゑにしわ」ヨリ興リ、今ヤ英國最モ其盛ヲ極ム、而ノ其間變遷推移スルコト少シモ文明ノ進
メル方向ト異ナルモノアルコトナシ、蓋シ是レ商業ハ文明ノ最モ必要ナル原素ニシテ、其興
敗ノ蹟ハ常ニ殆ンド一轍ニ出ツルモノ、如クナレハナリ、

商業ノ發達
ニハ五個ノ
階段アリ

(第二) 商業ノ發達ニハ五個ノ階段アルコト、

陸上貿易

人智未ダ進マズ、航海ノ術未ダ知ラレザルノ時ニ於テハ、貿易ハ只陸路ニ依リテノミ行ハレ
ザルヲ得ズ、而シテ此ノ陸上貿易イノ幼稚ナル時ニ當リテ、貨物ノ運搬ハ單獨ナル人背、
若クハ獸類ノ力ニ依リテ行ハレシナルベキモ、其漸ク進歩シテ區域ヲ廣メ來ルニ及ンデハ、
遠路深林モ之ヲ横キラザルベカラズ、曠原漠野モ之ヲ超ヘザルベカラズ、其間或ハ危険ヲ
犯シ、或ハ徒然ニ苦シムコトナシトセズ、爰ニ於テ防禦的ト慰諭的ノ兩目的ヲ以テ團結セラ
レタル多數商人ノ集合ヲ必要トスルニ至ル是レ所謂隊商貿易ナルモノニシテ、駱駝(時ニ
ヨリ象)ヲ使用シ、隊伍ヲ整ヘ、適當ノ時期氣候ヲ定メテ、各地ノ間ニ通商スルコトハ、古
代ニ於テ亞拉比亞、埃及、印度等ニ專ラ行ナハレタルモノトス、而シテ駱駝ハ何故ニ此等ノ
貿易ニ重用セラレシヤト問フニ、其性質ノ柔順ニシテ、又能ク熱帶ノ生存ニ適シ、禽獸草

隊商貿易

河流貿易

木其跡ヲ斷ツノ大沙漠ヲ横キル時ニ當リテモ、五六日ノ間ハ其飲食ヲ廢シテ步行スルコトヲ
得、且腹中常ニ清水ヲ畜ヘ飢渴ニ備フルニ足ルモノアリシヲ以テ、^{隊商}商貿易者ニ取テハ實
ニ無比ノ良具タリシナリ、或人曰ク駱駝ハ沙漠ノ船ナリト、誠ニ明言ト謂フベシ、陸路貿
易ノ進歩シツ、アル時ニ際シ、人民ハ又傍ラ河流ニ注意スルニ至ル、而シテ舟楫ノ便ヲ發明
知覺スルニ及ンデハ、其輕便ナルコト遙カニ陸上獸類ヲ驅ルニ勝ルモノアルヲ以テ、漸次ニ
河水ヲ利用スルニ至ル、是レ所謂河流貿易^(ロ)ニシテ、「ないる」^(イ)「ゆるいれ」^(ウ)ノ如キ、
即チ太古ニ於テ最モ早ク通商ニ利用セラレタルモノトス

沿海貿易

人民、河流貿易ニ經驗ヲ加ヘ、又舟楫ノ使用ニ慣レ、水上ノ智識益々増進スルニ從ヒ、遂
ニ河口ヲ出テ海岸ニ沿ヒ、交通ノ區域漸次ニ擴張セラル、モノナリ、是レ所謂沿海貿易又
ハ内海貿易^(ハ)ニシテ、此時ニ當リテハ海岸ニ於ケル、船舶ヲ泊スルニ足ルノ良處ハ、自カ
ラ多數商人ノ集合輻輳スル所トナリ、此處ニ都府ヲ興起スルニ至ルモノナリ、内海貿易益
々進歩シテ、海上ノ智識彌々増加シ、船舶ノ改良行ハレテ、航海術ノ熟達ヲナシ、而シテ羅
針盤ノ如キ有用ナル發明アルニ及ビテハ、人民既ニ海ヲ恐レズ、波浪ニ慣レ、益々遠ク航

大洋貿易

海スルノ念慮ト、勇氣ヲ發生シ、爰ニ所謂大洋貿易ニナルモノヲ起スニ至ル、如斯ク一方ニ於テ大洋貿易彌々發達シ、世界ノ商業頗ル活潑トナリ、商機ノ發動機微轉瞬ノ間ニ在リテ、時はレ千金ナルノ時代トナリシガ、恰モ好シ、近世ニ至リ汽車ノ發見アリテ、交通ノ便驚クベキノ迅速ヲ致シ、世界ノ文明各國ハ争フテ之レガ利用ヲ勉メ、陸地ノ通ズル處殆ソド鐵路ノ走ラザルナキニ至ラントス、是ニ於テ鐵道貿易ヲ興シ水陸相應シテ交通ヲ輔翼シ、彼ノ所謂水陸兼用若クハ大洋鐵道兼用貿易ホノ時代ヲナセリ、

大洋鐵道兼用貿易
商業ハ輕蔑スベカラザル

(第三) 商業ハ輕蔑スベカラザル
古來商業ハ多クノ國民ニヨリテ、賤侮スベキノ職業トセラレタリ、此論ノ誤謬タル固ヨリ茲ニ辨難スルヲ要セズト雖モ、商業史ノ研究ハ更テ予輩ニ教ユルニ、雷ダニ之ヲ賤侮ス可カラザルノミナラズシテ、却テ大ニ之ヲ尊重スベキノヲ以テセリ、蓋シ歴史ハ商業ノ特ニ盛ナル場所及ヒ時期ニ於テハ、文學技藝亦大ニ榮ユルヲ示セリ、觀ヨ希臘ノ歴史ニ於テ、商業ノ中心ハ同時ニ文學技藝ノ中心タリシヲ、又下ツテ「ゾスにす」ヲ見ヨ、「セのむ」ヲ見ヨ、「ふるれんす」ヲ見ヨ、伊太利中古ノ文明ハ全ク此等市府ニ於ケル商業繁榮ノ

結果ニ非ラザルカ、更ニ下ツテ佛朗西ガ路易十四世「こるべる」ノ獎勵ニヨリ大ニ商工業ヲ盛ナラシメ、同時ニ又文學技藝ノ上ニ著大ノ發達ヲナセシヲ見ヨ、又現今ニ至リテモ歐亞ニ於ケル英國商業ノ盛大ハ英國ヲシテ最モ富裕ナラシメ、富裕ナルガ故ニ又技藝學術ヲ盛ナラシメ、學術技藝盛ナルガ故ニ文明益々進歩スルヲ見ヨ、商業ヲ輕侮スルノ理由焉クニカアル、今若シ彼レ一種ノ愚論者ノ如クニ商業ヲ輕侮センカ、即チ又彼等ノ尊重スル學術技藝ヲモ輕侮セザルベカラズ、是レ豈彼等ノ欲スル處ナランヤ、彼等若シ學術技藝ノ進歩ヲ欲セバ、又同時ニ商業ノ尊重スベキノ認メザルベカラズ、古人云ヘルヲアリ、衣食足リテ禮節ヲ知ルト、豈夫レ只ニ禮節ノミナランヤ、社會ノ萬事皆衣食足リテ後其大効ヲ望ムベシ、而シテ衣食ヲシテ餘裕アルニ至ラシムル者ハ、商業ノ効ナリ、商業盛ニシテ國富ミ、國富テ國強ク、即チ萬事始メテ意ノ如クナラン、商業豈ニ尊重セザル可ケンヤ、

(第四) 商業ヲ起スモノハ國ノ產物ノミニアラズ
國ノ能力ハ各特所アリ、某國ノ產スル物品ハ某國ニ産セズ、某國ニ剩ル物品ハ某國ニ不足ナリ、爰ニ於テカ交換起リ、貿易生ス、是レ最モ單純自然ノ場合ナリトス、然リト雖モ商

商業ヲ起スモノハ國ノ產物ノミニアラズ

業ハ漸チ追フテ複雑ニ趣クモノナリ、此時ニ當リテヤ、某國ハ自國ニ産セザルノ物品ヲモ他國ヨリ輸入シ、是レニ自國ノ勞力ヲ加ヘテ、更ニ又他國ニ輸出スルヲ得ベシ、即チ昔時希臘人ノ爲セシガ如ク、又現時ニ於テ英人ノナスガ如シ、斯カル國ハ之ヲ製造國ト稱ス然ルニ國內、産物少ナク、製造品アルナク、而テ猶ホ盛大ナル商業國タルヲ得ルモノアリ、「ふるゑにしや」ノ如ク、「ぐるゑにす」ノ如ク、又「のんざ」ノ如キ、寧ロ此種類ニ属スルモノナリ、蓋シ是レ運送貿易ト稱スルモノニシテ、國際貿易上ノ仲買ナリ、而シテ古來此レニ依リテ國ヲ興セルモノ少ナカラズ、此等ノ國ハ其位地上ニ於テ利益ヲ有セシニ依ルト雖モ、亦其人民大ニ進取ノ氣象ニ富ミ、自カラ交通ノ機關トナリテ各國ノ間ニ出入シ、其敏捷機活ノ運動ニヨリテ然ルモノト云フ可ク、商業上ヨリ之ヲ觀察スレバ最モ高尙ナルモノナリト云ハザルベカラズ、

(第五) 商業ハ宣戰構和ノ大原因ナリ

商業ハ或點迄ハ平和ノ維持者ナリ、蓋シ貿易ニ依リ、有無相通シ、過不足相補フニ當リテヤ、甲國ノ人民ハ乙國ノ産品ニ依頼シ、乙國ノ人民ハ甲國ノ貨物ニ依頼スルガ故ニ、容易

商業ハ宣戰
構和ノ大原因
ナリ

ニ干戈ヲ動カシ、寡隙ヲ開クベカラズ、是レ明カニ國利ノ妨害ヲ致スモノナレバナリ、假ヘバ中世ニ於テ、英國ガ「ふらんだー」ト膠漆膏ナラザルノ親密ナル關係ヲ有シタルガ如キハ、全ク二國商業上ノ關係ヨリ來ルモノニシテ、是レ英ハ「ふらんだー」ノ製造品ヲ頼ミ、「ふらんだー」ハ英ノ羊毛ニ依頼セシガ故ナリ、然リト雖モ、商業ハ又時ニ國際上ノ嫉妬ヲ起シ、是レガ爲メ戰乱ヲ生スルヲナシトセズ、中古ニ於テ「せのわ」「ぐるゑにす」ノ競争甚シク、終ニ干戈ヲ以テ相抵抗スルニ至レルガ如キ之レナリ、世人或ハ曰ク、商業ハ只利ヲ見ルノミ、其極ヤ國民ヲシテ卑屈ナラシメ、一國ノ元氣ヲ消耗セシムルニ至ルト、是レ果シテ當チ得タルノ言トナシ得ベキカ、予輩商業ノ歴史ヲ研究スルニ當リ、往々此言ニ反對スルノ現象アルヲ見ル、蓋シ商業ノ民ハ最モ利害ノ判斷ニ明カナルモノナリ、彼等ノ頭腦ハ事ヲ起ス前ニ於テ、先ヅ算數的ニ思慮ヲ廻ラスモノナリ、故ニ敢テ一時ノ熱情ニ浮カサレ、輕舉シテ大利ヲ喪失スルノ愚ナサス、然リト雖モ事止ムヲ得ザルニ至リテハ、又蹶起シテ敵ヲ衝クノ勇氣凜乎トシテ生シ來ルモノナリ、而シテ此時ニ於ケル彼等ハ富ナルノ人民ナリ、富有ナルカ故ニ又強固ナル軍兵ナリ是レ之レ野豬的ノ勇アリテ持續セ

ズ、中途ニシテ挫折スルノ人民ニ比シテ何レゾヤ、嗚呼論者ノ説ノ如キハ、實ニ商業ヲ證
コルノ甚シキモノト云フベシ
其他商業歴史研究ノ間ニ於テ、發見スベキノ眞理ハ擧ケテ數フベカラズ、是等ハ各國ヲ記
述スルノ際ニ於テ論ズルコトアラン、而シテ今ヤ此趣味アル歴史ヲ研究スルノ方法如何ト尋ヌ
ルニ、年序ヲ追フテ講究スルヲ最モ普通ニシテ、又最モ便宜ナルモノトス、故ニ予輩ハ本
書ヲ別テ左ノ四區トナシ以テ講究ノ歩ヲ進メント欲ス、

講究上ノ區
別

第一 太古史

第二 中古史

第三 近世史

第四 最近世史

太古史ハ最古時代ヨリ、紀元後五世紀（四百七十六年）、即西羅馬滅亡ノ時ニ至ル、中古史
ハ五世紀ヨリ十五世紀ノ終ニ至リ、近世史ハ十六世紀ノ始ヨリ十八世紀ノ終ニ至リ、最
近歴史ハ十八世紀ノ終ヨリ現今ニ至ル、然レモ是等ノ區別ハ必竟、只便宜ノ爲メニ設ケタ

ルモノニシテ、若シ之ヲ嚴格ニ云ヘハ、太古史ハ何時ヲ以テ終リ、中古史ハ何時ヲ以テ始
マルヤ、又中古史ハ何時ヲ以テ終リ近世史ハ何時ヲ以テ始ルベキヤヲ斷言スルコト能ハス、
是レ他ナシ、商業ハ文明ト同シク其進路ニ於テ空隙アルコトナク、太古ヨリ今ニ至リ相連續
シテ分別スベカラザルモノナレバナリ、只夫レ便宜ノ爲ニ此區別ヲ設クルモノナルガ故ニ
人ニヨリテ其年代ヲ異ニスルコト隨意ナリト雖モ、漫然處ヲ擇ハズシテ區劃ヲ置ガ如キハ
不都合ニシテ又困難ナルコトナレバ、歴史家ハ概テ一大事件ノ發生ニヨリテ之ヲ區別スル
ガ如シ、即チ太古史ト中古史ノ間ニハ西羅馬ノ滅亡ヲ置キ、中古史ト近世史ノ間ニハ亞米利
加發見及ビ喜望峰ノ航路發見ヲ置クガ如ク、時世ヲ變遷セシメタルコト著大ナル事件ヲ以テ
區劃ノ期トナスハ當ヲ得タルモノト云ツベシ、

第一篇 太古商業史

第一章 埃及

太古ノ歴史ハ空漠トシテ據處ナシ、只其大要ハ口碑ニ依リテ傳ハルモノナリト雖モ、此等ノ口碑ハ多クハ宗教上ノ迷信ヨリ生スル小説的ノ奇談ヲ以テ滿サル、ガ故ニ、之ヲ以テ嚴正ナル歴史學ノ講究史料ニ供スルニ足ラザルナリ、故ニ予輩ハ太古史ノ肇頭ニ於テ先ツ埃及ヲ論究スル處アラント欲ス、蓋シ埃及ハ地球上ニ於ケル最古ノ國民ナリトハ云ヒ難カルベシト雖モ埃及ノ歴史ハ恐クハ地球上ニ於ケル最古ノ歴史タルベキヲ以テナリ、然リト雖モ埃及人ニシテ埃及ノ歴史ヲ記述セルモノハ甚タ稀少ニシテ、其材料ノ多クハ聖書、若クハ希臘記者ノ著述中ニ散見スル處ノモノトス、而シテ近代ニ至リ、埃及遺物ノ發見ハ大ニ其史上ニ光明ヲ放ツテアリシモ、此等ハ皆ナ商業史上ノ材料ヲ供給スルニ甚タ僅少ニシテ、埃及商業ノ沿革ヲ叙スルニ當リ困難ヲ感スルヲ蓋シ少クアラザルナリ、埃及ノ起源ハ漠トシテ知ルベカラズ、史家モ亦各其說ヲ異ニシ、或ハ之ヲ紀元前三千年ト

シ、或ハ之ヲ二千七百年トシ、又或者ハ之ヲ二千八百八十八年ナリトセリ、然リト雖モ此等ノ年代ハ何レヲ是トシ、何レヲ非トスベキヤ、殆ンド判斷スベラカザルナリ、蓋シ聖書ノ教ユル處ニ從ヘバ、世界ニ於ケル人類ノ發生ハ紀元前四千〇〇四年ニシテ、大洪水ノ起リシハ二千三百四十八年ナルガ故ニ、『ハビ』ノ一子『みずらいむ』ガ二千八百八十八年ニ此レヲ建國セリトノ說、信スベキガ如シト雖モ、是レ必竟、信ヲ聖書ニ置クモノニシテ、予輩ハ或ル史家ノ如ク、埃及建國ハ是ヨリモ遙カ以前ニ在リト云フヲ可ナルベシト信ズ、想フニ、『みずらいむ』ガ紀元前二十世紀ニ於テ、埃及ニ趣キシキニ當リ、埃及ハ既ニ繁盛ノ域ニ建シ、彼ノ有名ナル大三角塚ノ如キモ此時ニ於テ既ニ見ルヲ得タリシナラン、而テ近來ノ學者ガ說ク處ニヨレバ、此等ノ三角塚ハ埃及第四朝ノ王統時代ニ於テ建設セラレタルモノニシテ、即チ紀元前廿五世紀ノ頃ナリトス、サレバ埃及ノ建國ハ、此等ノ開化ヲナス以前ニ於テ尙ホ多クノ年月ヲ要シタルヲ疑ヒナケレバ、余輩ハ少クモ之ヲ紀元前三千年ノ昔ニアリト認メザルベカラズ、

建國ヨリ凡ソ六百二十年ノ間、埃及ハ王統相續テ之レヲ支配シ、第四朝、即チ廿五世紀ノ

時代ニハ、既ニ三稜塔ノ如キ巨大ノ建築ヲナス迄ノ開化ヲナセリ、之ヲ第一ノ時代トシ、其後分レテ五個ノ王國トナリ、之ヲ統一スルモノナカリシカバ、「ひくそす」人種其隙ニ乘シテ全國ヲ占領シ、凡ソ五百年ノ間其權力ヲ振ヘリ、之ヲ第二ノ時期トナス、紀元前千五百年ノ頃ニ當リ、「シーアス」ノ王子蹶起シテ、「ひくそす」人ヲ國外ニ追放シ、此レヨリ埃及ノ第三時期ヲ開始セリ、此時期ハ凡ソ一千年間ヲ繼續セルモノニシテ、紀元前千五百二十五年頃ヨリ同千二百年頃ニ至ルノ間ハ、埃及歴史中ノ最盛時代トモ稱スベク、美術建築ヨリ遠征ニ至ル迄頗ル觀ルベキモノ多シ、而シテ是レヨリ漸次ニ衰運ニ傾キ、紀元前五百二十五年ニ於テ波耳西亞王「かひびせす」ノ爲メニ打テ破ラレ、之ニ由リテ全ク其獨立ヲ失フニ至レリ、亞歷山大王出テ、其勢ヲ振フニ當リ、埃及ハ更ニ歷山大王ノ領地トナリ(紀元前三百三十二年)シガ、王ハ其海岸ニ、都府ヲ興シ之ヲ「あれきさんどりや」ト稱シ、文學商業ノ中心トナセリ、大王死スルニ及ヒ、其一將「どれみー」之ヲ受領シ、埃及ハ再々漸ク獨立セシト雖モ、其國皇、貴族ヨリ兵士ニ至ル迄、大概希臘人ナリシヲ以テ、或ハ之ヲ稱シテ、希臘的埃及王國ナリト云フモノアリ、後三百年ヲ經テ「くれおぼら」ノ時代ニ至

「ナイール」河ト埃及

リ、此國ハ遂ニ羅馬ノ範圍ニ歸セリ、之ヲ古代ノ埃及トナス、斯ク埃及ガ太古ニ於テ早ク開化ノ域ニ達セシ所以ノモノハ全ク「ないる」ノ賜物ナリトス、蓋シ「ないる」ハ其源ヲ「あびしにあ」地方ニ發シ、埃及ヲ貫流シテ地中海ニ注ク處ノ長流ニシテ、「あびしにあ」地方ノ降雨ニヨリ、毎年六月ノ頃ヨリ其水量ヲ増シ、八九月ニ至リテハ兩岸ヲ溢出シテ埃及ヲ浸潤シ、其水量漸次ニ減退スルニ及ンデハ、膏腴ノ泥土ヲ埃及全土ニ殘留スルモノナリ、故ニ埃及ハ周圍ノ荒漠地方ト區別セラレテ、其土地甚ダ沃饒トナリ、穀物ヲ產出スルヲ夥シク、埃及人ハ只種子ヲ蒔クノミニシテ自然ノ收穫ヲ得タリシト云フ、如斯ナリシカバ、人民此處ニ移リ、此處ニ繁殖シ、而シテ定住セル一ノ社會ヲ形成シ、以テ開化ノ基礎ヲ置ケリ、且ツ埃及ノ國土タル、或点ニ於テ商業的資格ヲ備ヘタリシカバ、其開化ヲシテ漸次ニ發達セシメタリ、

蓋シ埃及ガ商業國タルノ資格ヲ備ヘタリシハ、第一其產物ニ於テ之ヲ見ルベシ、抑モ埃及ハ前ニ述シガ如ク、穀物ヲ產出スルヲ饒多ニシテ、近隣諸國ハ之ヲ穀倉ナリト稱スルニ至ル、而シテ是レ實ニ「ないる」河ノ賜物ノ一ナリシナリ、次ニ麻布ハ此邦特有ノ名産ニシ

埃及ハ商業國タルノ資格ヲ備ヘタリ

テ、肉眼ヲ以テ其絲線ヲ區別シ難キ程ノ美麗ナル品質ヲ製出シ、之ヲ以テ國民ノ衣服トナ
スニ余リアリキ、其他「ばびらす」ト稱スル、植物ヨリ製スル美麗ノ紙、及ヒ良馬ノ産出
ニ於テハ甚有名ナリシモノトス、是故ニ此等ノ貨物ハ盛ニ諸方ニ輸出セラレ、猶太人ノ如
キハ最モ多ク之ヲ使用シタリ、又「たいる」人民ノ船舶ハ埃及ノ麻布ヲ以テ其帆ヲ作レリ
ト云フ、此等ノ外埃及ハ大理石、野菜、魚類、等ヲ産出セリト雖モ、多ク輸出セラル、
ナクシテ止ミクシ、其故如何トナレバ、野菜及魚類等ノ如キハ、當時未ダ之ヲ保存運搬ス
ルノ方法完備セズ、從テ多ク之ヲ輸出スルヲ能ハザリシニ由ルモノナラン、カク埃及ハ一
方ニ於テ産物豊饒ナリト雖モ、他方ニ於テハ又多クノ貨物ヲ欠乏セリ、假令ハ金屬類、蜂
蜜、木材、菓實等ゾ如キコレナリ、而シテ此等ハ「かちーん」地方、及ヒ「ふるにしわ」等
ニ於テ、多量ニ産出セシカハ、盛ニ該地方ヨリ輸入セラレタリ、加之ズ埃及人ハ屍体ヲ木
乃伊イニスルノ奇術ヲ有セシガ、此習慣ハ特ニ埃及人ヲシテ多量ノ香料、及ヒ藥材ヲ需要セ
シメタリ、而シテ此等ノモノ亦埃及ニ産出セザリシカハ、之ヲ直接又ハ間接ニ印度地方ヨリ
盛ニ輸入シタリ、是等ハ埃及ヲシテ商業國タラシメ第一ノ元素ナリ、埃及ヲシテ商業國

タルノ資格ヲ得セシメタリシ第二ノ元素ハ埃及ノ地理ナリ、埃及ハ亞非利加ノ一州ニシテ
南方及ヒ西方ハ沙漠ニ接シ、交易ヲ行フヲ能ワザリシト雖モ、北ハ地中海ニ臨ミ、東ハ紅
海ニ濱シ「すゑす」ノ地峽ニヨリテ陸路亞細亞ノ大陸ト相接近セシカハ、幸ヒニモ古代ノ
開明諸國トハ交通ノ便最モ宜シク、「ふるにしわ」人ハ埃及ノ穀物ニ代ユルニ木材、金屬、
及ヒ其製造品ヲ以テシ、「ばれすたいん」ヨリハ埃及ノ麻布ニ代ユルニ「バるむ」、(香料ノ
名)撒攪油、蜂蜜等ヲ以テシ、印度及亞刺比亞ヨリハ香料、乾藥、金銀、珠玉等ヲ輸入シ
タリ、地位上ニ於ケル此便益アルノミナラズ、埃及ハ又其内地ニ於ケル地勢ニヨリテ、商
業上大ナル便利ヲ得タリ、己ニ述ベタル如ク、「ないる」ノ長流ハ此國ヲ貫徹スルガ故ニ、
國人ハ溝渠ヲ作リテ此水ヲ導キ、以テ灌漑ノ區域ヲ廣メタリ、而ルニ此溝渠ハ、自カラ貨
物ノ運搬ニモ利用セラル、ニ至リ、埃及人ハ終ニ「ちいる」ヲ利用シテ、其輸出品ヲ地中
海ニ送輸セリ、是レ亦埃及ニ於ケル「ないる」ノ賜物ナリト云ハザルベカラズ、而シテ後日
歴山大王ガ創建セシ歴山港ノ永ク地中海中ノ要港タリシ所以ノモノモ、亦實ニ此地理上ノ
利便アリシニヨラズンバアラズ、而シテ此地理上ノ利便ハ、更ニ當時ニ於ケル社會外圍ノ

情態ニヨリテ、其重要ノ度ヲ増加セリ、蓋シ既ニ總論ニ於テ述ベタル如ク、世界文明ノ起レル所ハ皆ナ大河ノ沿岸ニ在リテ、埃及モ亦タ大河「ないる」ノ近傍ニ於テ其文明ヲ興シタリ、而シテ是等大河ノ濱ニ起リタル文明ハ、漸次ニ其區域ヲ弘メ、主トシテ其方向ヲ西方ニ進メ、遂ニハ希臘羅馬ニ達セルノ事實アリ、此時ニ當リ、世界ニ於ケル文明ノ舞臺ハ、亞細亞、歐州ノ東部、及ビ亞非利加ノ東北隅ニ限ラレ、(後ニハ希臘かるせーち)小亞細亞及ビ其南方ハ最モ進歩ヲ顯ハセリ、今此時代ニ於ケル通商ノ方法ヲ見ルニ、始メハ陸路貿易ヲ取り、沿川貿易トナリ、又進ンデ沿海貿易ヲナシタリト雖モ、未ダ大洋貿易ヲ始ムルニ至ラズ、猶太人、亞刺比亞人ノ如キハ專ラ陸路貿易ニ依リ、「ふるゑにしわ」人、希臘人、「かるせーち」人ノ如キハ專ラ沿海貿易ヲ營ミ、而シテ其間又タ沿海貿易ノ之ヲ助クルモノアリ、換言スレハ太古ノ商業ハ沿河、陸路、及ビ沿河貿易ノ併ビ行ハレタルモノトス、故ニ印度及ビ支那地方ノ貨物ニシテ、地中海岸ノ諸國ニ達セントスルコハ、其通路ハ大別シテ二個トナス「得タリシナリ、即チ一ハ波斯灣頭ヨリ河ヲ傳フテ上リ、其中途ヨリシテ隊商ノ手ヲ經テ陸路、小亞細亞及ヒ「ふるゑにしわ」地方ニ達スルモノ、或ハ直ニ亞刺比

亞ヲ横ギリテ、地中海ノ東岸ニ達スルモノニシテ、他ハ紅海ニヨリ、埃及ニ入り、「ないる」ヲ傳フテ地中海ノ南岸ニ達スルモノナリ、而シテ後者ノ場合ニ於テハ、埃及ハ實ニ東洋貿易ノ要所ヲ占有スルモノナリシガ故ニ、各國ノ商人ハ多ク埃及ニ集マリ來リ、喜望峰發見ノ時迄ハ、永ク貿易商業ノ要所トシテ、其地位ヲ失ハザリシ、埃及ハ如此商業ニ適當スルノ國土ナリシノミナラズ、國內ニハ縱令森林及ビ鑛山ノ產物ナカリシモ、近國「ふるゑにしわ」ヨリ自由ニ木材鑛物ヲ輸入シ、之ヲ以テ船舶ヲ製造シ、又自國ニ於テ多量ニ産スル亞麻ヲ以テ帆布ヲ作ル「得」加フルニ其人民ハ「ピラミッド」ノ如キ建築、及ビ「ミイラ」ノ如キ奇術ヲ爲シ得ルノ技能ヲ有スルモノナリシカバ、必ラズヤ燦爛タル高名ヲ商業史上ニ殘スベカリシコ、不幸ニモ盛大ナル海國商業ヲ營ムナクシテ止ミタリ、今マ其理由ヲ尋ルニ凡ソ左ノ數個ノ欠点アリシニ基クガ如シ、
第一 其人民ハ懶惰ニシテ、進取ノ氣象ニ乏シク、交際ヲ嫌忌シテ他人ノ愛ヲ得ズ商業ニ從事セント欲スルモノ、最モ必要トスベキ輕快ノ質ト敏活ノ能ナク、能ク人ノ嗜好ト傾向ヲ察知スルノ明チ欠キ、且ツ寡慾ニシテ、敢テ榮華ノ念ナカリシカバ、奮フテ商業ニ從事

何故ニ商業
國ヲラザリ
シカ
人民ノ氣風

法律

シ、利ヲ見テ勇進スルヲナク、外國商人ヲシテ擅マニ自國商業ノ權ヲ掌ラシムルニ至レリ是レ實ニ埃及ノ商業國タルニ至ラザリシ所以ノ一大原因ナリ

第二 其國ノ法律ハ商業上ニ妨害ヲ與ヘタリ、埃及ノ法ニヨレバ土地ハ國王ノ所有ニシテ人民ハ其產物ノ五分ノ一ヲ租稅トシテ徵收セラレ、又此土地ハ賣買スルヲ得ザリシガ故ニ、巨万ノ富モ之ヲ土地ニ使用スルヲ能ハザリキ、而シテ他ノ法律ニ於テ、政府ハ商業、寧ロ人民ノ就業、及ヒ債主ノ權利ヲ保護センヲ勉メタリシト雖、却テテ嚴格ニ失シ、民情ニ適セズ、徒ラニ人民ノ行爲ヲ畏縮セシムルニ至レリ、

農業

第三 農產物、特ニ穀物ニ富ミシカバ、之ヲ以テ満足シ、農業ノミヲ以テ立國ノ要ナリト思考シ、商業ヲ蔑視セリ

階級制度

第四 埃及ハ印度ノ如ク、階級制度ヲ行ヒシカバ、子々孫々同一ノ事務ニ束縛セラレ、能力嗜好ニ應シテ技量ヲ伸長セシムルヲ能ハザリシ、且又此制度ニヨリ、僧徒ハ專ラ政治上ノ權力ヲ有シ、商人ハ一切政治上ニ嘴ヲ容ルヲ能ハザリシガ如キハ、大ニ商業ノ發達ヲ害セリ

埃及ハ如此終ニ商業國民タルベキヲ得ザリシト雖モ、其地理上ノ便宜アリシガ故ニ、常ニ他國人ノ爲ニ利用セラレ、「ゆるぎにしあ」かるせいち「希臘」「以太利」「亞刺比亞」等ノ人民ハ相續テ埃及ニ來リテ、東洋貿易ヲ營ミシガ、近世亞非利加一周航路發見セラレシニ及ンテ、全ク其他地理上ノ利益ヲモ失フニ至レリ、而シテ更ニ最近代ニ至リ、「すえす」地峽ノ開鑿アルニ當リ、紅海ノ要所ヲ占ムル良處タルニ至リシト雖モ、其人民既ニ衰微シテ又興スベカラズ、國土ハ全ク英國人ノ爲メニ利用セラレ、ノ不幸ニ遭遇セリ、

第二章 亞西里亞及巴比倫

予輩ハ是レヨリ、「ちぐりす」「ゆるぎにしあ」「ゆいふれち」す「兩河ノ間ニ發生セル二國ノ歴史ヲ講究セント欲ス、蓋シ此地方ハ一ニ、總稱シテ「めそぼたみや」トモ云ヒ、世界ニ於ケル文明ノ一源泉ヲナスモノナリ、此地方ハ三王國ノ相繼キテ榮ヘタル處ニシテ、其始メテ起リシモノヲ舊巴里倫王國トシ、第二ニ興レルモノヲ亞西利亞帝國トナシ、最後ノモハ之ヲ新巴比倫帝國トナス、

建國

巴比倫ハ本來、「ゆるふれちす」ノ下流ニアル邦國ニシテ、北ニハ「めそぼたみや」ノ廣野アリ、此廣野ヲ超ヘテ後ニ「あるめにあ」ノ山地アリ、(此地ハ洪水後「のあ」ノ一族ガ始メテ住ヒシ處ナリト云フ) 聖書ニ依レバ、此國ヲ創建シタルモノハ「にむろつど」ト云フ豪傑ニシテ、其時期ハ紀元前二十三世紀ナリト云ヘリ、然レハ是ヨリモ遙カ以前ニ於テ、既ニ此處ニ人類ノ蕃殖スルモノアリテ、「にむろつど」ハ其分裂セル種族ヲ統一シ、爰ニ一王國ヲ建設シタルモノナラン、此地ハ埃及ノ「ないる」ニ於ケルガ如ク、多クノ利益ヲ「ゆるふれちす」河ニ得テ、漸次ニ其文明ヲ興シ、盛時ニ於テハ威望四隣ニ輝キ、巴比倫ヲ主府トシテ、遠ク「めそぼたみや」全土ヲ制御スルニ至レリ、然リト雖モ、「バビロン」ノ勢力漸次ニ衰亡シ、紀元前第十三世紀ニ至リ、亞西里亞帝國ノ獨立勃興スルアリテ、「めそぼたみや」全土ヲ振蕩スルニ及ビ、其權勢第二位ニ降レリ

亞西里亞ハ元來、「ちぐりす」ノ東側ニアル一帯ノ高地ニシテ、東北ノ方「ざぐろす」山脉ノ横ハルアリ、此山脉ハ幸ヒニモ、北方ノ蕃族ヲシテ此地ニ侵入スルヲ得ザラシメ、且ツ又「ちぐりす」ノ河流ハ内ニ多クノ利益ヲ與フルモノアリシカバ、早ク既ニ此地ハ人民ノ移住繁殖スル處トナリタリ、此國ノ起源ハ曖昧トシテ知り難シト雖モ、「バビロン」人ト同種族ニシテ、元來「バビロン」地方ニ住居セシモ、早ク「ちぐりす」ノ上流ニ轉住セシモノナルベシ、而メ始メハ微々トシテ其名ヲ知ラレズ、「バビロン」王國ノ權勢ニ服從シ來リシモノナルガ、紀元前千二百五十年ニ於テ始メテ獨立ノ旗ヲ擧ゲ、勢ニ乗シテ「めそぼたみや」ノ全土ヲ風靡シ、都ヲ「にねぐる」ニ定メ侵略主義ヲ實行シテ一大強國トナリ、其盛時ニ於テハ西ノ方、地中海岸ノ諸國、裏海ノ地方、及ビ埃及ヲ征服シ、南ノ方、亞刺比亞、及ビ波斯灣頭ニ至ル迄其權勢ヲ振ヒ、其首府「にねぐる」ニ於テハ、奢ヲ盡シ驕ヲ極メ、威風凜烈諸方皆ナ之ニ壓服セラレタリ、然レモ驕ルモノ終ニ久シカラズ、榮枯夢ノ如ク、其勢威漸ク衰ヘ來リテ、第七世紀ノ頃ニ至リ、「バビロン」ハ頻リニ反旗ヲ動カシ、「めちわ」人ト相合シテ、終ニ亞西里亞ヲ併シ、首都「にねぐる」ハ烟ノ裡ニ消果テ、紀元前六百二十五年ヲ限リトシ、再タビ起ルノ望ナキニ至レリ、此時ニ當リ、新巴比倫勃興シテ再タビ其威ヲ振ヘリ、

新巴比倫ハ第二世ノ王、「ねぶかどねざる」ニヨリ榮譽ノ絶頂ニ達シ、其兵力ヲ「ふえにし

わ」猶太等ニマデ及ボシテ之ヲ陷レ、勢ニ乘シテ驕奢ヲ極メ、「バビロン」府ヲ興シタリ、然レテ其子孫遊惰ニシテ、而カモ之ヲ守ルヲ能ハズ、僅カニ八十七年(紀元前六百二十五年ヨリ全五百三十八年迄)ヲ以テ、波斯王、「さいらす」ノ破ル處トナレリ、

「チグリス」
「ユーフラ」
「チニス」
「トメソ」
「ホレ」
「メソ」
「タミア」

抑モ「めりばたみわ」ノ原野ニ於テ、如斯開化ノ興起セシ所以ノモノハ、全ク「ちぐりす」
「ゆーふれちーす」兩河ノ賜物ナリ、特ニ「ゆーふれちーす」河ノ沿岸地方ハ最モ穀物ノ産出ニ適當シ、土地ノ報酬ハ時トシテ三百倍ニ達シ、少クモ二百倍ニ下ルヲナカリシト云フ、又到ル處椰子樹繁成シ、人民ハ之ヨリ菓實ヲ得タルノミナラズ、酒、砂糖、蜜等ヲ製セリ、斯ノ如ク人民ノ食物ニ餘祐アル處ニテハ、人民ノ生活安樂ニシテ、從ツテ漸ヤク奢侈品ノ製出ヲモナスベク、文學技藝美術ノ發達ヲモ觀ルベク、終ニハ工業ヲモ興シ、商業ヲモ盛ナラシムルニ至ルモノナリ、而ルニ今此國ニ於ケル産物ヲ吟味スルニ、穀物及ヒ椰子ノ外胡麻ノ如キ油ヲ得ルノ植物饒多ニ産出セシト雖モ無花果、橄欖、及ヒ葡萄ハ産出スルヲ少ク、又材木ニ至リテモ杉ノ如キモノヲ除キテハ、良材甚欠乏セリ、此レ或ハ此國ヲシテ航海術上ノ大進歩ナカラシメ、印度海ノ商業ヲ發達セシメザリシ所以ナラン乎、

産物

海上貿易

抑モ此國ノ人民ハ學術、特ニ天文學ニ擢テタルモノニシテ、又其土地ハ「ちぐりす」「いゆふれ」ノ如キ河流ノ貫ク處ナレバ、自カラ航海術ニ熟達セザルヲ得ザリシナリ、故ニ其海軍ハ相當ニ大數ナル船舶ヲ有シ、或人ハ之ヲ評シテ此人民ノ喚呼ハ船中ニアリト云ヘリ然ルニ其軍事ハ知ラズ海上貿易ノ權ニ至リテハ、自國人ノ手ニアラズシテ、主トシテ「ふろにしわ」人ニ在リキ、是レ前ニ述ベタルガ如ク、造船材料ノ欠乏シタルヲ其一因ナナスモノアルベシト雖モ、又國內富豊ニシテ、「ふろにしわ」人ノ如ク、海商ニヨラザレバ國ヲ立ツルヲ能ハザルガ如キ、必要不得止ノ事情ニ迫ラレザリシガ故ナルベシ、而シテ此海商ハ主トシテ兩河ノ河口ト、印度ノ西岸、及ヒ錫崙ノ間ニ行ハレタリシガ、此等ノ地方ヨリ輸入セルモノハ、種々ナル木材、砂糖、香料、眞珠等ナリ、然ルニ此商業モ亦遂ニ波斯人ノ爲ニ打破ラレタリ、想フニ巴比倫人ハ波斯ノ海賊ヲ畏怖シ、常ニ波斯人ガ大河ヲ溯リテ、國內ヲ襲撃シ、都府ヲ掠奪センコトヲ恐怖セシガ故ニ、可成海上ノ交渉ヲ避易シ、巨大ノ堤防ヲ築キテ「ちぐりす」河口ヲ禦止シ、以テ航河ノ便利ヲ阻遏セリ、爰ニ於テ南方印度トノ通商ヲ斷テ、商業上一簣ノ勇ヲ欠キシ觀アルガ如シト雖ドモ、尙古代ニ於テ一ノ

亞西里亞及巴比倫

機敏ナル商業國民タルノ名ヲ失ハザルナリ、何ントナレバ巴比倫人民ガ商業上ニ於ケル効績ノ一トシテ、予輩ハ波斯灣頭ノ「バールーン」嶋ニ、巴比倫商社ノ設立セラレタルヲ見レバナリ、此嶋ハ其近邊ニ於テ多クノ眞珠ヲ産出シ、殊ニ其西岸ニ於テ最モ多量ヲ極メタリシガハ、巴比倫ハ此レヲ得テ盛ニ本國ニ輸入シタリ、此等ノ眞珠ハ白色或ハ黄色ニシテ共ニ堅固ナル品質ヲ有シ、遙カニ錫崙ニ産出スル處ノモノニ優レリ、石材及ビ大理石ハ此國ニ産出スルナカリシモ、幸ニ甚良質ナル粘土ヲ出シ、此レヲ以テ優等ナル煉瓦ヲ作り又石油「ナヤン」ノ如キモノヲ多量ニ産出シ、之ヲ以テ「セメント」ノ代用ヲナサシメタリシガハ此等ニ依リテ壯麗宏大ナル建築ヲ起スニ足リ、今日ニ於テモ其遺物ヲ存シテ轉タ昔時ノ隆盛ヲ想起セシムルモノアリ、而テ巴比倫ノ工業ハ最モ進歩セルモノニシテ、建築彫刻ヲ始メ織物、金屬細工等ニ名ヲ得タリ、此金屬細工ヲナスニ當リテハ、石油「ナフサ」ノ如キモノ、甚ダ良好ナル燃料トナリ、人民ハ之ニヨリ種々ノ器具ヲ製造シ、以テ木材及ビ石材ノ不足ヲ補フニ足リシト云フ、

巴比倫ニ於ケル木綿、毛織物、敷物等ハ有名ナル産物ニシテ、殊ニ「シドチス」ト稱スル

工業

木綿服（恐クハ「モスリン」ノ一種ナリ）其色美麗ニ、其質緻密、常ニ王家ノ用ユル處タリキ、奢侈品、即香水、彫刻セラレタル杖、及石ノ如キモ、又其名産中ニアリテ、就中寶石彫刻ノ如キハ最モ完全ノ域ニ達シ、今日ニ於テモ模倣スベカラザル程ノモノアリ、此等ハ今マ猶ホ英國ノ博物館ニ保存セラレ以テ古代美術ノ精華ヲ發揚セリ

巴比倫人民ハ如斯文明ノ先途ヲナセル者ニシテ、亞西里亞人ハ又其文明ヲ摸倣習得セルモノナリシガ故ニ、此地ト波斯及印度ノ北方トノ間ニハ、自カラ大ナル商業上ノ交際アラザルヲ得ザルナリ、即チ巴比倫人ハ此貿易ニ依リテ、東方ヨリ金、寶石、及ビ最上ノ染料等ヲ得、殊ニ「かんだい」「かしゆみわい」ヨリハ美質ノ羊毛、及ビ「シヨール」「シヤスパ」(寶石ノ名)及ビ其他ノ寶石ヲ輸入シ、更ニ之ヲ亞細亞ノ西方、及ビ歐洲ニ轉送セリ、又其染料中「コチニール」ノ輸入ハ甚ダ盛ナルモノニシテ、希臘人ガ此蟲ニ依リテ染料ヲ得ルノ術ヲ學ビシハ、全ク巴比倫人ヨリセリト云フ、而シテ支那トノ通商如何ナリシヤハ不明ナリト雖モ、西藏「ひんぎくーし」ヲ繞レル諸國トハ盛ニ取引セシガ如シ、

巴比倫人ハ又彼ノ「ばーれん」嶋上ニ於テ綿花ノ培植ヲ企テシガ、其綿質頗ルブル良美ニ

シテ、之ヲ本國ニ輸送シ盛ニ織物製造ヲ營ミシト云フ、加之此所ニ於テハ造船用ノ良材（「テ
ルク」ニ似タルモノ）ヲ生ゼシガ巴比倫人ハ云フニ及ハズ其後「ふいにしや」人モ亦此處
ヨリ此レヲ得テ以テ造船ノ材料ニ供シタリ、

第二章 印度及ヒ支那

印度及ヒ支那ハ、古代商業上甚ダ重要ナル地位ヲ占メタルノ邦國ナリ、其地均シク大河ノ
沿岸ニ在リ、土地肥沃物産饒多ニシテ自然ノ恩惠最モ厚シ、即チ印度ハ「がんぢす」及ヒ
「しんだす」兩河ノ流ル、處ニシテ、支那ハ黃河及ヒ揚子江ノ流ル、所ナリ、共ニ埃及ノ「ち
い」ニ於ケルガ如ク、「めそぼたみわ」ノ「ちぐりす」「いゆふれ」ニ於ケルガ如キ關
係アリテ、爰ニ世界文明ノ四源泉ヲ創出シタリ、然リト雖モ「めそぼたみわ」ノ文明ヲ除
キテ、他ノ三文明ハ皆ナ不動ノ性質ヲ有シ、太古ニ於テ早ク一種文明ノ頂點ニ達セシモ
拘ハラズ、爾來遲々トシテ又進歩スルコトナク、國中常ニ種族ノ爭鬪ヲ事トシ、外國ノ交渉
甚ダ僅少ナリキ、此ヲ以テ嘗テ世界ノ驚嘆贊美ヲ得タリシニモ拘ハラズ、「めそぼたみわ」

ニ發生セル文明ガ驥々トシテ西漸シ、今日ノ如キ文化ヲ作成セルニ及ンデハ、是等ノ諸國
ハ最早世界ノ後進國中ニ輕視セラル、ニ至レリ、

印度及ヒ支那ノ起源ハ深遠彌久得テ之ヲ審ニスルコト能ハズト雖モ、之ヲ埃及及ヒ「めそ
ぼたみわ」ノ平原ニ發生セル開化ノ起源ニ比シ決シテ後レザルヲ知ル、或ハ曰フ、「のわ」
ノ一子ハ實ニ支那人民ノ祖先ナリト、
蓋シ前ニ述ベタルガ如ク、此地ハ共ニ大河ノ灌漑スル所ニシテ、土地豊饒、生活容易ナル
ガ故ニ、人民早ク此處ニ繁殖シ、其繁殖シタル人民ハ生計上余裕アリ、敢テ汲々トシテ勞
役スルニ及ハザルガ故、自カラ特種ノ文明ヲナシ、印度ニ於テハ宗教哲學ノ類最モ榮ヘ、
支那ニ於テハ文學、政治、天文學等殆ント完全シ、近代ノ人ヲシテ之ヲ驚嘆セシムルモノ
ナキニアラズ、其製造品ニ至リテハ美麗精巧、古代各國ノ嘆賞ヲ得、盛ニ之ヲ輸出シタリ、
古代ニ於テ東洋貿易ト稱スルモノ、主トシテ此等ノ二國ヲ對手トスルモノニシテ、二國ガ
供給セル交換貨物ハ多ク奢侈品ヨリ成立シ、其價格甚ダ貴重ナリキ、然レモ如何ニシテ該
貿易ヲ行ヒタリシガ、記録ノ消滅セルモノ多キト、又古人ガ格別ノ注意ヲ産業ニ注カザリ

他動的貿易

印度貿易ト
アラビヤ
インドリア

シトニ依リテ、今日之ヲ詳ニスルヲ得ズ、
 印度ハ古代ニ於テ、能ク西方人民ノ聞知セル所ナリ、然レモ自カラ遠征軍ヲ率イテ之ヲ視
 察セルモノハ波斯王『だりあす』ヲ以テ始トシ、(紀元前六世紀)其歴史上ニ注意ヲ惹起ス
 ルニ至リシハ亞歷山大王ガ全盛ヲ極メタルノ時代ナリトス、之レ實ニ紀元前四世紀ノ事ニ
 シテ、王ノ以前ニアリテハ、印度ハ埃及、「ふゑにしわ」猶太、波斯等ノ人民ト通商セシガ
 印度人ハ常ニ之レト直接ニ商業ヲ營ムヲナク、概テ他動ノ地位ニ在リテ、巨多ノ利益ヲ他
 國人民ノ爲ニ占領セラレタリ、即チ埃及貿易ニ於テハ亞刺比亞ノ隊商專ラ陸上貨物ノ運搬
 ニ從事シ、猶太トノ貿易ニ於テハ「ふゑにしわ」人其間ニ立チ、「ふゑにしわ」トノ貿易ニ
 於テハ「しとん」「たいる」商船悉ク其海路運送ニ從事シ、波斯貿易ニ於テハ波斯人自カラ
 之ヲ營ミタリ、而シテ是等ノ貨物ハ寶石、珠玉、香料、絹、象牙、金、銀、及ビ猿猴、孔雀
 等ノ類トナス、歷山大王其勇威ヲ振テ四方ヲ征服スルニ及ビ、印度ノ一部モ亦其範圍ニ入
 リシガ、大王ハ埃及ヲ經由シテ印度貿易ヲ行フノ利益アルベキヲ察知シ、「ないる」ノ河口
 ニ一港ヲ設ケ、之ヲアレキサンドリア山港ト稱セリ、幾許モナク大王死去シ、其一將「どーれみー」埃

及チ占領スルニ及ビ、能ク其遺志ヲ繼ギ、同港ニヨリテ盛ニ印度貿易ヲ行ヒ、斯クシテ同
 港ハ歐洲及ビ東洋間ニ於ケル貿易ノ中心トナリタリ、蓋シ此時ニ於テ、「たいる」ノ都府ハ
 屢々波斯兵戰ノ害ヲ被ムリ、且ツ又亞歷山大王ノ陷ル處トナリ、其勢ヒ復タ昔日ノ如クナラ
 ズ、東洋貿易ハ既ニ「ふゑにしわ」人ノ手中ヲ放レントスルノ時ナリシカバ、亞歷山港之
 ニ代リテ榮ユルヲ得タリ、而シテ王ガ此港ヲ撰設セシノ爛眼亦感スルニ足ル、印度ノ貨物ハ
 亦一方ニ於テ、「いんだす」河ヲ遡ボリ陸路「おくさす」上流ニ移サレ、更ニ此河ヲ沿ヒテ
 其下流ニ至リ、是ヨリ裏海ニ輸送シテ各地ニ分配セラレタリ、

支那モ亦廣大豊沃、南北氣候ヲ異ニスルヲ甚クシク、諸種ノ植物ヲ産出スルノ邦國ニシテ、
 其温暖地方ニ於テハ椰子、樟、月桂樹ヲ始メトシ、烟草、綿、橄欖、「インデゴ」ノ類ヲ生
 シ、竹ハ無數ノ用途ヲ此地ノ人民ニ與ヘ、甘蔗ハ此處ヨリ世界ニ傳播セラレタリト稱ス、
 茶ハ北緯二十三度廣東ノ邊ヨリ、北緯三十一度ノ邊ニ達スル一帯温暖ノ丘陵地方ニ産出シ
 テ、世界市場ニ於ケル、有名ノ商品ヲナシ、石炭鑛アリ、石油泉アリ、又鹽ヲ産スルノ鹹
 泉アリ、多量ノ「ケオリン」粘土ハ其質最モ善良ニシテ陶器ノ製造ニ適シ、七世紀頃ニ至

支那ノ産物

リテハ既ニ巧妙美麗ノ製品ヲ以テ、歐州諸國ノ讚賞ヲ得、西南緬甸ニ接スルノ地方ニ在リテハ貴金屬ヲ產出シ、銅、亞鉛、鉄ノ類又此處ニ散在ス、此等豐富ナル產物ハ以テ支那ノ富源ヲナシ、從ツテ又其文明ヲ惹起シ、太古ヨリ今ニ至ルノ間連綿トシテ世界商業ノ史上ニ其名ヲ顯ハサシメタリ、然レモ支那ノ人民ハ商業的國民トシテ名アルニアラズ、單ニ饒多ナル物品ノ供給者トシテ重ンゼラレタルニ外ナザルナリ、

支那ハ此等ノ物產ヲ以テ數多ノ工業ヲ起シ、絹布、金屬器具、陶器、紙、綿布、染物、織箔等ノ製造ニ就キ、著シキ進歩ト巧妙ヲ顯ハセリ、就中絹布ハ太古史上最モ重要ナル支那製品ニシテ、其起源恐クハ紀元前二千余年前ニ在リト云フ、而シテ波斯「たいる」ノ人民ヨリ、希臘、羅馬ノ人民ニ至ル迄皆之レヲ輸入シタリ、

歐州ニ於テ羅馬ノ勢四隣ヲ壓シ、驕奢ノ風著シク興ルニ及ヒ、東洋、即チ印度、支那ノ兩國ヨリ輸出スル奢侈品ノ數量ハ大ニ増加シ、香料、珠玉、絹布等ハ實ニ其主ナル部分ヲ占メタリ、然ルニ前ニ述ベタルガ如ク、二國ノ人民ハ商業上常ニ受動ノ地位ニ在リシヲ以テ彼等自身ノ動作トシテ特ニ記述スベキモノナシ、其歴史ハ歐州諸國ノ歴史トノ引合上ニ於

國內生活ノ
安易ト海外
貿易ノ發達

テ僅ニ記述セラル、ノミ、蓋シ二國ガ其饒多ナル物產ヲ有スルニモ拘ハラズ、又其開化ノ早熟セルニモ係ハラズ、何故ニ偉大ノ商人トナラザリシヤヲ尋ヌルニ、全ク之ヲ風土ノ原因ニ歸セザルベカラズ、蓋シ自然ノ恩惠甚ダ厚ク、人民ノ生活極メテ容易ナル處ニハ、人民自カラ安逸ニ慣レ、技藝、文學、等ノ坐職ヲ發達セシムルノ効アリト雖モ、身体ヲ敏活ニ使用シ、筋肉ヲ勞スルコト多キ職業ハ自カラ嫌忌セラル、モノナリ、而シテ又國內生活ノ安易ナルハ國外出稼ノ念ヲ起サシムルコト能ハズ、人民ヲシテ往々懶惰ノ方向ニ傾進セシムルヲ常トスルモノナレバナリ、サレバ二國ノ人民ハ毫モ他國ニ漂浪シテ外人ト錮利ヲ爭フ必要ヲ見ズ、其極終ニ商業ヲ忌避シテ之ガ發達ヲ務メタルコトナシ、蓋シ二國ガ商業上著シク至要ノ地位ヲ有スルニ至リシハ、實ニ十九世紀ノ後半ニシテ、是レ予輩ノ後篇ニ記述セント欲スル所ナリ、

二國ガ歐州諸國トノ關係斯ノ如キ時ニ際シ、印度支那ノ兩國間ニ於ケル通商モ亦甚盛ナラザリシガ如シ、蓋シ之レ兩國ノ間陸路交通ノ便容易ナラザリシト、其產物互ニ相類似シ、國土共ニ廣大ニシテ一方ノ產スル所ハ他方ニ於テモ亦之ヲ產シ、敢テ双互ノ間ニ依頼スル

印度支那間
ノ貿易

ノ必要ナカリシニ依ル、而又國內常ニ統一シ難ク、各種族ノ分裂鬭争屢々起リシガ如キモ
力チ國外ニ用ユル能ハザリシノ原因ナラン

第四章 「ふるにしあ」

太古ノ商業ハ長ク亞細亞ノ西方、及ヒ地中海ノ東部ニ限ラレタリシガ、偶々一個ノ偉人アリテ忽チ此範圍ヲ擴張シ、北ハ波羅的海ヨリ、西ハ大西洋岸ニ達スルノ間ニ於テ、縦横ニ商旗ヲ翻ヘセルモノアリ、此レ即チ予輩ガ今ヤ講究セント欲スル「太古ノ英國」「ふるにしあ」ナリ、地中海東「しりあ」ノ西岸ニ、海ヲ去ルコト遠カラズシテ一帯ノ連山アリ「ればのん」山ト稱ス、其頂キハ三千「メートル」ニ達シ、或ル部分ハ斷ヘズ雪ヲ頂ケリ、此山脉海岸ニ傾斜スル處、長サ百五十「マイル」幅二十四「マイル」ノ狭少ナル土地ヲ存シ、胡桃、柏、楓、杉等ノ良木數多繁茂セリ、希臘人ハ此處ヲ呼ビテ「ふるにしあ」ト稱セリ、即チ後世「ふるにしあ」ト稱スル處ノモノ是レナリ、此地ハ數多ノ獨立市府ヨリ組織セル一個ノ聯邦ニシテ、其最モ有名ナルモノヲ「しどん」「たいる」「トス」「しどん」ハ聯邦中最

太古ノ英國

古ノモノニシテ、舊約全書ニ「ぐれーとざいどん」ト稱スルモノ是ナリ、(今日ハ之ヲ「さいど」ト稱ス)「たいる」ハ聖書中ニ「ぞわ」ト稱スルモノニシテ、今日ハ之ヲ「つーる」又ハ「すーる」ト稱シ「しどん」ノ南方二十「マイル」ノ邊ニ有リ、此他、「あらだす」即今日「るあど」ト稱スルモノハ「しどん」ノ北方八十「マイル」ノ邊ニ在リ、聖書中ニ「あるパッど」ト稱スルモノ是ナリ「べりたす」即チ今日ノ「バいるーど」ハ「しどん」ノ北九「マイル」ニアリ「されぶた」「あるか」「しみら」等皆各有名ナル獨立ノ市府ニシテ、共ニ商業上ノ利害ト、宗教上ノ觀念ヲ同ジクシタリシガ、對外的必要ニ促カサレテ茲ニ「ふるにしあ」ナル一團結ヲナシ、終ニ商業社會ニ雄飛スルニ至レリ

此人民ノ起源ニ就テハ明確ナルコトヲ知リ難シト雖モ「たいる」ノ都府ハ紀元前十三世紀(千二百五十五年)亞非利加王子「わげのる」ナルモノニヨリ創設セラレタルモノニシテ、紀元前十一世紀ノ半頃ヨリ「たいる」ト呼ハレタリ、而シテ「しどん」ハ此ヨリ遙カ以前ニ創設セラレタルモ、其益々強盛トナルヤ、終ニ聯邦中ノ牛耳ヲ操ルニ至レリ、
「ふるにしあ」歴史ノ最モ全盛ナ極メタリシハ紀元前十一世紀ヨリ六世紀ニ至ルノ間ニシテ

此間多クノ偉業ヲ仕遂ゲタルモ、希臘及ビ「かるせーぢ」ノ諸國漸ク商界ニ雄飛シ來ルニ及テ、漸次ニ衰微ノ狀況ヲ呈シ、且ツ其國小ナルガ故ニ後年屢他國ノ侵奪ヲ受ケ、「あつしりや」巴比倫、波斯、希臘等相繼テ之ヲ侵奪シ、終ニ羅馬ノ範圍ニ入り了レリ、之ヲ紀元前六十三年トス、

此地ハ狹少ニシテ、且貧瘠ナルヲ以テ、穀物ノ如キハ之ヲ自國ニ産出スルコトナク、之レガ供給ヲ他國ニ仰ガザルヲ得ザリシナリ、然レモ此不幸ハ、其地利上ノ好位置ニヨリテ償ハレシノミナラズ、却ツテ國人ノ氣象ヲ鼓舞シ、敏活動勉ノ風ヲ養成シ、以テ盛ニ國際貿易ヲ行ヒ、廣潤富饒ナル大國ヲモ後ニ睽若タラシムルニ至レリ、即其位地ハ地中海ノ東端ニ在リテ、海路—即チ自然ノ橋—ニヨリ希臘羅馬ヲ始メドシ、地中海岸ノ諸邦ニ達スルコトヲ得、東ハ「あつしりや」ニ接シ、之ヲ經テ小亞細亞及ビ中央亞細亞ニ通スベク、南ハ猶太亞刺比亞ニ隣リ、之ニ依リテ東方波斯及ビ西方埃及ニ入ルコトヲ得タリ、斯クシテ世界貨物ハ製造品トナク、原料品トナク、農トナク、工トナク、水産トナク、陸産トナク、海陸兩途ヨリ此小國ニ向ツテ輻湊シ、之ヲシテ太古ニ於ケル世界商業ノ都府タラシメタリ、而シテ

地勢上ノ利便

「ふるゑにまわ」人ハ其輸入セテレタル原料品ニ向ツテハ、自己ノ精鍊熟達セル手工ヲ加ヘテ更ラニ之ヲ輸出シ、之レガ輸送ニ就テハ、幸ニモ内國ニ産スル「レバノン」ノ良材アリテ造船ニ適當セシカバ、非常ノ便益ヲ興タリ今「ふるゑにまわ」ノ産物ヲ見ルニ木材、銅ノ如キヲ除キテハ殆ンド他ニ天然産物ト稱スベキモノナリ、他ハ皆外國ヨリ輸入セシ原料ヲ内地ニ於テ製造シタル技藝品ニ外ナラズ、今其最モ著明ナルモノヲ擧グレバ左ノ如シ、

染料

第一染料 抑モ地中海岸ノ諸國ニハ「パールフツシユ」ナル動物ヲ産スルコト饒多ナリシガ、「ふるゑにまわ」人ハ此動物ヨリ染料ノ原料ヲ得タリ、然レモ其秘訣ハ何レノ人民モ之ヲ窺ヒ知ルコト得ズ、「ふるゑにまわ」人ハ此動物ヨリ得タル液汁ニヨリテ諸種ノ色ヲ作り、其配合調和ニヨリ五十三種ノ異色ヲ出スコト知レリ、此染料ヲ以テ麻、毛織、木綿等ヲ華麗ニ染出セシガ、就中紫色(或ハ云フ深紅色ナリト)ハ當時最モ貴重セラル、處ニシテ、王宮寺院ノ裝飾品等ハ殆ンド之ニ限ラレタリ、從ツテ其價格甚ダ高貴ニシテ通常ノ人ハ紫色ノ布片ヲ衣服ノ縁ニ使用シ、之ヲ以テ無上ノ驕奢ナリト考ヘシコト恰モ今時ニ於ケル獺虎皮ノ如クナリシト云フ

硝子

第二硝子製造 或ハ曰フ硝子ハ「ふるゑにまわ」人ノ發明セル處ナリシト、或ハ曰フ然ラズ之レ埃及人ノ發明セル處ナリト、二者何レカ正當ナルヤ判然ナリ難シト雖モ、硝子が「まどん」ニ於テ最モ盛ニ製造セラレタリシハ明カナリ、而當時ニ於テハ之レ一ノ高價ナル裝飾品タリシモノトス、

織物

第三織物 織業ノ最モ盛ナリシハ、「たいる」ニシテ毛布、麻布、綿布ノ如キ其原料ハ皆之ヲ他國ニ仰ギシト雖モ其巧妙ナル織方ト美麗ナル染上ケトハ各國ノ嗜好愛翫スル所ナリキ

金屬細工物

第四金屬鑄物 「ふるゑにまわ」ハ銅ニ富ム國ナリシガ、其他各國ヨリ金、銀、鉛、鉄等ヲ輸入シ、之レヲ以テ諸種ノ器物ヲ製シ、往々之レニ美術的意匠ヲ加ヘ、金銀寶石之類ヲ織メタリト云フ、

「ふるゑにまわ」ノ製造品ハ如此盛ナリト雖モ、其製造タルヤ、今日ノ如ク機械ノ發明アリシニアラズ、技術ノ進歩アリシニアラザレバ、到底是ノミヲ以テ彼レガ如クニ大貿易ヲ行ヒ、西北ハ大西洋及「ばるちつぐ」海ヨリ、東南ハ印度洋ニ達スル廣濶ナル舞臺ニ雄飛スルコ

「フエニシア」
ノ商品ハ
他國ノ物品
ナリ

足ラザリシハ明カナリ、然ラバ即チ「ふるゑにまわ」人ノ商品ナリシモノハ抑モ何ゾヤ、他ナシ、「ふるゑにまわ」ハ一大輸送業者トナリ、國際ノ仲買トナリ、多クハ他國ノ物品ヲ以テ自國ノ商品トナセシナリ、而シテ此等ノ物品ヲ得ンガ爲メニ、彼レハ盛大ナル陸海貿易ヲ行ヒタリ

海上貿易

海上貿易 「ふるゑにまわ」人ハ太古ニ於ケル最初ノ海上貿易者、最初ノ航海者ナリト稱セラル、ガ如ク、其海上貿易ニ至ツテハ最モ勇往奮進セルノ形跡ヲ示セリ、抑「ふるゑにまわ」ハ地中海ニ臨メルノ國ナリシカハ海岸ヲ沿フテ其近隣諸國ト交通セシハ勿論、地中海岸ノ諸國ヲ以テ凡テ其取引場トナセリ、而シテ其最モ富源ヲ與ヘシモノハ西班牙ナリトス、蓋シ西班牙ハ「ふるゑにまわ」人が紀元前一千〇五十年ニ於テ發見セル所ニシテ、此地ハ古來鑛物ニ富ミ金銀鉛鉄ヲ多量ニ産出シ、就中銀ハ其産出ノ最モ豊カナリシ國ナルガ故ニ、此地ノ發見ハ「ふるゑにまわ」人ニ取リテハ恰モ後年亞米利加ノ發見ガ西班牙ニ於ケルガ如キ關係ヲ與ヘ、即チ彼等ハ硝子及ビ裝飾物等ノ製造品ヲ輸出シテ代ユルニ多量ノ銀ヲ以テシ、此銀ハ更ニ之ヲ東洋ニ輸送シテ金、寶石、象牙、香料等ノ貨物ト交換セリ、如此ニシテ「ふ

るにしわ」人ハ西班牙ト交易スルノ間、漸次ニ其勢力ヲ擴張シ、多クノ市府ヲ此處ニ創設セリ、今日ノ「かです」ノ如キ即其一ナリ、而西班牙ハ鑛物ノ外又動植物産即羊毛、蠟、魚類、穀物、油脂、菓實等ヲ以テ「ふゑにしわ」ニ供給セリ、

「ふゑにしわ」人ハ又地中海ノ關門タル「じぶらるたる」ヲ超へ、英國ニ向ツテ航行セリ、抑モ「じぶらるたる」ハ古代ノ人民ノ「へるきゆりす」ノ柱ト稱シテ之ヲ超過スルヲ非常ノ危険ナリト信ゼシ處ノモノナリトス、而ルニ勇敢ナル「ふゑにしわ」人ハ之ヲ超へ、英國ヨリ錫、羊毛、皮ノ類ヲ得テ、之ニ代ルニ比較的廉價ノ物品ナル土器海鹽及黃銅製玩具ノ如キモノヲ以テセリ、加之「ふゑにしわ」人ハ更ニ航行シテ波羅的海ニ進ミ琥珀ヲ求メダリ、如斯此人民ハ西北、太西洋及北海ノ間ニ於テ、又一方ニハ東南、印度洋及亞刺比亞海ニ航行シ、東洋ノ物産ヲ波斯灣頭ニ持來リテ之ヲ隊商貿易ニ委シ、小亞細亞及亞非利加地方ニ送り、或ハ又紅海ヲ往來シテ亞細亞弗利加ノ間ニ貨物ノ交換ヲナシ、埃及内地ニ在テハ尼羅河ノ航權ヲ埃及政府ヨリ得テ盛ニ之ヲ利用セリト云フ、

陸上貿易

陸上貿易、陸上貿易ハ海上貿易ノ如クニ盛大ナラザリシト雖モ、猶ホ大ニ觀ルベキモノ

アリ、即歐州及亞細亞弗利加三大陸ノ間ニ介在スルノ地位ハ、自カラ此國ヲシテ海陸貿易ノ燒点トナリ、埃及猶太「あつしりや」印度亞弗利加ノ地方ト交通セシメタリ、而シテ其最モ要用ナリシハ猶太トノ貿易ナリトス

猶太ハ「ふゑにしわ」ノ南方ニアリ同シク地中海ニ面ス、其人民ハ政治上又ハ商業上ヨリハ寧ロ宗教上ニ有名ナル人民ナリト雖モ、後世界ノ各處ニ分散漂浪スルニ當リテヤ、商機ヲ見ルヲ甚敏達ニシテ、最モ商業ニ適當スル性質ヲ備エタリ此性質ハ太古ニ於テモ亦其証績ヲ顯セルモノニシテ、猶太人ハ海上貿易ニ於テコソ一步ヲ「ふゑにしわ」人ニ譲リタレモ、陸上貿易ニ於テハ實ニ「ふゑにしわ」人ノ上ニ出デタリ、此國ハ其隣國「ふゑにしわ」ト異ナリ、其地豊饒ニシテ穀物、菓實、酒、綿、羊毛、麻、蜂蜜等、即チ換言スレハ「ふゑにしわ」ニ産出セザル物品ヲ産セリ、而又「ふゑにしわ」ニ生ズルノ木材及ビ金屬ハ此國ニ産出セラレザリシガ故ニ此二國ハ隣國相依頼シ、有無相通ズルノ必要アリ、從ツテ交際最モ親密トナリ「だびつと」『そろもん』ノ世ニ於テハ殊ニ其關係スルヲ著大ナリトス、今其一例ヲ擧ゲンニ「そろもん」王ト「たいる」王「ひらむ」トノ條約ヲ締結セルヤ「たいる」人ハ「ればのん」ノ材

木ヲ伐採シテ之ヲ「じよつば」ニ輸送シ、此處ヨリ之ヲ「せるされむ」ニ送ツテ以テ彼ノ有名ナル殿堂等ヲ建設スルノ用ニ供シ、而シテ猶太人ハ之レガ報酬トシテ小麥、大麥、酒及ビ油ノ類ヲ毎年「たいる」ニ與ヘタリ、其後「そろもん」王ガ「たるしつす」ニ趣カントスルノ時ニ當リ「たいる」王ハ「えぢおんげーべる」港ニ於テ「そろもん」ニ供スルニ猶太人ヨリモ遙カニ海上ノ智識ニ勝レル、「たいる」ノ水夫ヲ以テセリト云フ、而猶太ハ「だびつど」王ノ代ニ於テハ其領域甚ダ廣ク、「しりあ」ノ沙漠ヲ併セ、「えどむ」地方ヲ超ヘテ南方紅海ニ達シ、「そろもん」王ハ其海岸ニ「えらつと」及ビ「えぢおんげーべる」ノ兩港ヲ開築シ、「しりや」沙漠中ノ沃地ヲ撰ビテ「たつとむる」府ヲ置キ、之ヲ以ツテ「しりや」及ビ「めとばたみや」間陸商貿易ノ休泊地トナセリ、如斯ク「そろもん」王ハ其勇爲ノ氣象ヲ以テ猶太國人ノ陸上貿易ヲ興サント欲シ、國人ノ性質亦大ニ之ニ適當スルモノアリシカバ、猶太ハ陸上貿易ニ就テハ「ふるにしろ」人ヨリモ秀拔セリ、而シテ二國ハ親密ニ相輔翼シ、一ハ海上ニ、一ハ陸上ニ、共ニ通商上ノ連絡ヲ通シ以テ各其利益ヲ収メタリ、今此二國間ノ貿易ニ就テ交換セラレタル物品ヲ尋ヌルニ、猶太ヨリハ小麥、大麥、粟、蜂蜜、護漠、麻、綿、羊毛、馬、騾

馬、葡萄酒、油類及ヒ奴隸ヲ輸出シ、「ふるにしろ」ハ之ニ代ヘテ菓實、木材、金屬及製造品ヲ送レリ、單ニ猶太「ふるにしろ」ニ國ノミナラズ、猶太人民ハ又埃及及ビ「ふるにしろ」間ニ於ケル陸上貿易ノ媒介ヲナシ「ふるにしろ」ハ之ニ由リテ埃及ヨリ穀物、麻、麻布、金物細工、縫箔物等ヲ輸入セリ、抑モ「ふるにしろ」ハ海邊ノ小國ニシテ、水上ノ智識ハ自然ニ學ビ得タル處ノモノトス、然レ此智識ハ商業ノ發達ニ至大ノ關係ヲ有シ、「ふるにしろ」ノ如キ小國ヲシテ富盛天下ニ秀デシメタルヲ悟ルニ及ンデハ、更ニ又益々水上智識ノ必要ヲ感知シ、斯クシテ此人民ハ終ニ偉大ナル航海者トナレリ、彼レガ「じぶらるたる」海峽ヲ超ヘ波羅的海ニ迄趣キシハ謂フマデモナキ偉業ナルノミナラズ、「へろとたす」(希臘ノ史家)ノ記スル所ニヨレバ、紀元前六百年ノ頃埃及王ノ命ニヨリ、紅海ヲ解纜シテ二年ノ星霜ヲ經タル後、亞非利加ノ海岸ヲ一週セリト云フ、何ゾ其志氣ノ壯ナルヤ航海斯ノ如ク盛ニ、商業亦從フテ榮エ、「ふるにしろ」人ハ屢々他國人民ト交際スルニ至レリ、爰ニ於テ人民ノ對外思想モ亦自カラ發達シ來ラザルベカラズ、彼等ハ遂ニ商業ノ進捗

ニ殖民事業ノ最モ必要ナルベキヲ覺知シ機ニ乗シ時ニ觸レ、盛ニ殖民地ヲ設ケ、地中海岸
 到ル處ニ商業上ノ「ステーション」(足場)ヲ設ケタリ、其最モ重要ナリシモノハ、亞非利加
 北岸ノ「かるせーぢ」ニシテ後來母國ニ優ルノ發達ヲナシ、地中海ノ商權ヲ掌握シタルモノ
 是ナリ、又西班牙ニハ「かです」ヲ始メトシ「びすぱりす」「かるていあ」(今ノ「かるてい
 よ」)「まらが」(今ノ「まらか」)ノ如キ其他二百有余ノ小市ヲ設ケタリト云フ。

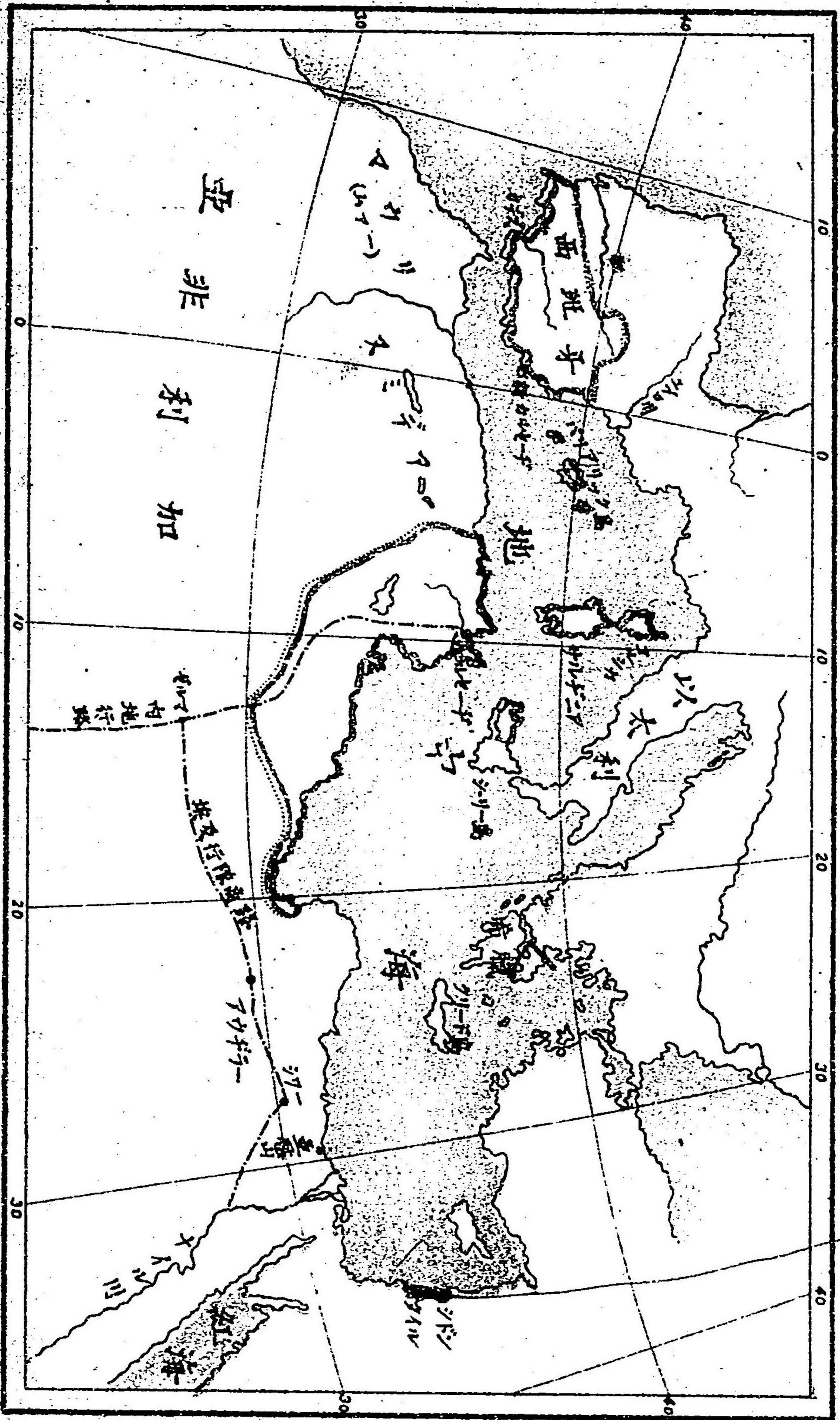
抑モ殖民地ナルモノハ其目的軍事上ニ起因スルモノヲ除キ、多クハ本國ヨリ土地ノ生産力
 多キモノニシテ、或ハ鑛山ト云ヒ、或ハ耕地ト云ヒ、之ニ從事シテ皆本國ヨリ利潤多キモ
 ノナルガ故ニ、此處ニ於ケル人民ノ職業ハ大抵未製品ノ産出ニアリ、今若シ是等ノ産物ヲ
 本國ニ輸送シテ、其製造品ト交換スレハ、本國人民ハ以テ廉價ナル製造品ヲ得ベク且ツ製
 造品ノ一販路ヲ開クノ利益アリ、又殖民地人民ニアリテモ本國ヨリハ報酬多キ職業ヲ得ル
 ノ利益アルモノニシテ、即本國及ビ殖民地共ニ利益ヲ享受スルモノトス、加之殖民地益々
 盛ニシテ其人口増加スレバ、本國ノ利益モ亦彌々増進スルモノニシテ而カモ其二國ハ先祖
 ナ同クシ、言語ナ同クシ、宗教ナ同クシ、思想ナ同クスルモノアルガ故ニ、多クノ

場合ニ於テハ永ク親密ナル關係ヲ有スルモノトス、而シテ「ふえにしあ」人ハ能ク此ノ利益
 ナ理解セルノ人民ナリケレハ、殖民地ヲ自由ニシテ只管其繁榮ヲラソフヲ計リ、其繁榮ハ
 實ニ非常ノ利益ヲ彼ニ與ヘタリ、斯クシテ「ふえにしあ」人ハ地中海ヲ本陣トシ、當時ニ於
 テ知ラレタル全世界ヲ己ガ商業上ノ對手トシ、其全盛ヲ極メタル時ニ當リテハ天下ノ富ヲ
 吸集シ、天下ノ強ニ居リ、各國ヲシテ之ヲ欽望セシメタリ、然リト雖モ盛者必衰ノ理ニ溢
 レズ、世界大勢ノ變轉スルト、他國ノ乘機スルトニ依リ、紀元前九世紀ノ頃ヨリ漸ヤ「あ
 つまみや」ノ蠶食スル所トナリ、七世紀ニハ巴比倫ヲ窺フ所トナリ、六世紀ニハ波斯ノ浸
 略ヲ被リ、更ニ又四世紀ニ於テハ希臘王亞臘山ノ征服スル處トナリ、紀元前四十七年終ニ
 羅馬ノ範圍中ニ入レリ、政治上ニ於ケル此紛雜ニ際シ、又希臘「かいせーぢ」等ノ進後諸國
 漸次ニ生長シ來リテ、商業上ノ地位ヲ競争スルニ至リシカバ、最早到底昔日ノ威ヲ振フコ
 能ハスシテ、終ニ全ク衰頽滅亡スルニ至レリ、夫レ敏活多才ノ士ハ富豪ノ門ヨリ生ズルコ
 少クシテ、多クハ貧家ノ裡ヨリ生ス、國民ニ至リテモ亦然リ、「ふえにしあ」ノ如キ即其例
 証ニシテ、其貧瘠狭少ナリシコソ、却ツテ此國ヲシテ巧ニ其地位ヲ利用セシメタル所以ト

ス、然レハ貧家ニ育チタルモノハ往々狡猾ニシテ度量ニ缺クル所アリ、「ふるにしわ」人民ノ如キ亦然リト云ハザルベカラズ、蓋シ彼等ハ或ル点ニ於テ高尚ナル性質ヲ欠キ、其商業ハ不潔ノ分子ヲ交ヘタリ、彼等ハ只管利益ノ一途ニ直進スルノ余リ、遂ニ正不正ノ感念ヲ忘却スルニ至レリ、即チ戦争ニ際シ囚人ノ多キヲ聞ケバ「ふるにしわ」人ハ機乘スベシトナシ此等不幸ノ囚人ヲ買入レ、以テ奴隷貿易ニ従事シ、又或ル時ハ希臘、猶太ノ兒童ヲ強奪セシマアリ、斯クシテ彼等ハ一度希臘國土ヨリ追放セラレタルコアリシモ、此一大商民ヲ追放スルノ不利ナルヲ悟リシ希臘人ハ後復タ之レヲ容ルニ至リシト云フ、

然レハ此等ノ欠点ハ「ふるにしわ」人民ガ商業史上、即文明史上ニ殘セルノ偉勳ヲ埋没スルニ足ラザルナリ。彼レハ世界ノ人民ニ教ユルニ商業ノ一大勢力タルコヲ以テシ、商業ハ富國ノ原因タルコヲ以テシ、又富國ハ強兵ノ實ナルコヲ以テセリ、嗚呼彼ノ一小都府ナル「たるに」ニシテ、勇敢ナル「ねぶかつとねぶ」三年ノ攻圍ニ敵シタルコヲ見、又亞歷山大王ノ英猛ヲ以テシテ尙ホ之ヲ陥ルニハ七ヶ月ノ日子ヲ要シタルヲ見レバ、誰レカ又商業國民ノ侮リ難キヲ疑フモノアラシヤ、

効績



此圖キトシ氏著書ニ引

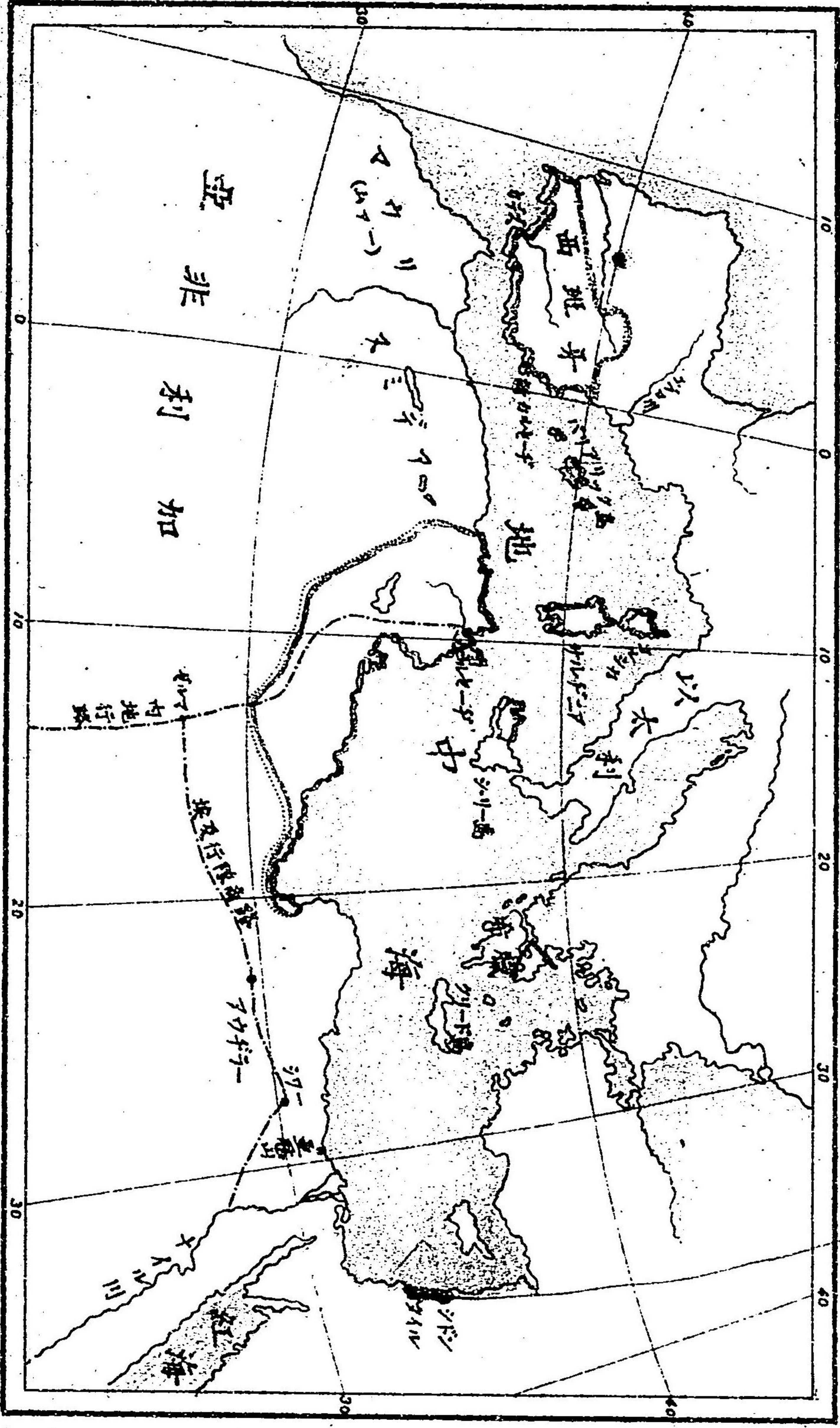
隊 商 路

赤 色

カールセーヤ領地

ス、然レ厄貧家ニ育チタルモノハ往々狡猾ニシテ度量ニ欽クル所アリ、「ふゑにしわ」人民ノ如キ亦然リト云ハザルベカラズ、蓋シ彼等ハ或ル点ニ於テ高尙ナル性質ヲ欠キ、其商業ハ不潔ノ分子ヲ交ヘタリ、彼等ハ只管利益ノ一途ニ直進スルノ余リ、遂ニ正不正ノ感念ヲ忘却スルニ至レリ、即チ戦争ニ際シ囚人ノ多キヲ聞ケバ「ふゑにしわ」人ハ機乘スベシトナシ此等不幸ノ囚人ヲ買入レ、以テ奴隸貿易ニ従事シ、又或ル時ハ希臘、猶太ノ兒童ヲ強奪セシマアリ、斯クシテ彼等ハ一度希臘國土ヨリ追放セラレタルコアリシモ、此一大商民ヲ追放スルノ不利ナルヲ悟リシ希臘人ハ後復タ之レヲ容ルニ至リシト云フ、然レ厄此等ノ欠点ハ「ふゑにしわ」人民ガ商業史上、即文明史上ニ殘セルノ偉勳ヲ埋没スルニ足ラザルナリ、彼レハ世界ノ人民ニ教ユルニ商業ノ一大勢力タルコヲ以テシ、商業ハ富國ノ原因タルコヲ以テシ、又富國ハ強兵ノ實ナルコヲ以テセリ、嗚呼彼ノ一小都府ナル「たる」ニシテ、勇敢ナル「ねぶかつとねぶざー」三年ノ攻圍ニ敵シタルコヲ見、又亞歷山大王ノ英猛ヲ以テシテ尙ホ之ヲ陥ルニハ七ヶ月ノ日子ヲ要シタルヲ見レバ、誰レカ又商業國民ノ侮リ難キヲ疑フモノアラシヤ、

効績



此圖キレビ氏著書ニヨリ

隊商路

赤色

カルセーヲ領地

第五章 「カーセイヂ」

「カーセイヂ」ハ亞非利加北岸ニ於ケル「ふるにまわ」殖民地ノ一ニシテ、終ニハ母國ニ超越セルノ進歩ヲナセル有名ナル商業國ナリトス、此國ノ歴史ハ其國ノ滅亡ト共ニ消滅シ去リテ知ルニ由ナク、今日予輩ガ聞知スル所ノモノハ多クハ之ヲ當時ノ他國人ナル希臘及ビ羅馬ノ記録中ヨリ導クモノトス、而羅馬ノ如キハ「カーセイヂ」ト數百年ノ仇敵ナルガ故ニ其記録ノ如キ亦公平ヲ失スルコトナシトセズ、若シ本國記録ノ存スルモノアレバ商業史上ニ有益ノ材料ヲ與フルコト幾層ノ大ナルモノアリシナラン、不幸ニシテ予輩ハ是レヲ得ズ、是レ管ニ「カーセイヂ」自身ノ爲ニ悲シムベキノミナラズ、又世界商業ノ爲ニモ嘆息スベキコトナリトス

「カーセイヂ」ノ建國ニ就テハ年代審カナラズ、或ハ紀元前八百十三年ト云ヒ、或ハ八百二十六十六年ナリト云ヒ、或ハ又八百七十八年ナリト云フ、然レモ兎ニ角八百二十三年ノ頃ニ於テ「たいる」王ノ同胞ナル「ヂドー」ト呼ブ女豪ガ國難ニ際シテ夥多ノ「たいる」人ヲ率イ此地

ニ移リ來レルモノ、如シ、或ハ云フ「カセーチ」ナル名稱ハ「さるぢやど、いでしやふ」ナル名ヨリ來ルモノニシテ新府ヲ味意シ即チ「たいる」ニ比較シタルモノナリト、或ハ曰ク之レ「かるちやつどか」ヨリ來ルモノニシテ、同シク新府ノ謂ナレバ、之レ亞非利加ニアル「うちか」府ニ對シテ云ヘルモノナリト、羅馬人ハ之ヲ「かるたど」ト云ヒ、希臘人ハ「かるちるどん」ト呼ビ、亞非利加北岸ニ於テ「たいる」ヨリ「かぢす」海峡ニ至ル半途ニ當リ「ちゆにす」灣中横徑凡三英里ノ地峽ヲ以テ大陸ト連合セル周圍凡四十五英里ノ半嶋上ニ在リシナリ、其強大ナル時ニ於テハ其都邑ハ周圍凡二十三英里、人口七十万前後ニシテ、殆ド亞非利加大州ノ全北岸ヲ管轄シ、其管内ハ長サ千四百英里ノ上ニ出テ、無慮三百ノ都府ヲ有シ、西班牙ノ過半、及「まゑり」ノ一部ヲモ占領シ、又地中海以太利西班牙間ニ横ハレル諸島「さるぢにや」「こるしか」「ぱりありつくわいるす」「まると」「るるバ」等ヲモ所有スルニ至レリ或ハ曰ク亞非利加ナル名稱ハ素ト「かるせーぢ」小殖民地ノ亞非利加ノ北岸ニ在リシモノヲ指セルモノナリシガ、漸次ニ「あふりか」全陸ヲ呼稱スルニ至レルナリト要スルニ「かるせーぢ」ハ希臘羅馬ト地中海ヲ分テ、其西部ヲ以テ凡ソ四百年間自己ノ領分トセ

リ而シテ紀元前五百二十二年ノ頃既ニ波斯王「かんびせす」ノ垂涎スル處トナリシガ「ふえにしわ」ノ助ヲ得テ之レニ屈從スルニ至ラザリシハ、世界商業ノ爲ニ大幸ヲ與ヘタリ、然レモ終ニ羅馬ト戰端ヲ開キ、紀元前百四十六年ニ於テ滅亡シ、其後數百年ヲ經テ全ク野蠻人ノ足下ニ蹂躪踏破セラレ、今ヤ又昔時ノ影ヲモ止メザルニ至レリ

産物

「かるせーぢ」ハ「ふえにしわ」ト其趣ナ異ニシテ其土地豊饒ニシテ各種ノ穀物果實ヲ産シ、又蠟、蜂蜜、油脂、皮革、染料、諸製造用材等ヲ出シ盛ニ之等ヲ輸出セシノミナラズ、其ノ人民ハ「ふえにしわ」人ト同シク工業上ノ技能ヲ有シ、織物、製皮術、革細工等ニ長スル所アリ、特ニ其製皮術ニ至リテハ最モ當時ニ超越セル進歩ヲ顯ハセシモノトス、此他陶器、磁器、及金屬細工、染物業等ニ於テモ甚ダ熟達スル所アリテ、此等ノ工業ハ多ク美術的意匠ヲ加味セルモノナリキ、去レバ羅馬ニ於テ特種ノ美麗ナルモノヲ形容スルニ「びゆにつく」ナル文字ヲ使用シ或ハ「びゆにつく」提燈ト云ヒ、或ハ「びゆにつく」ノ椅子ト云ヘルガ如キモノハ甚ダ羅馬人ノ珍重スル所ナリキ、是レ恰モ今日我東京ニ於テ雅致ナルモノナシ方風ナリト稱シ、上形染、上形織ト稱スルガ如シ、蓋シ「びゆにつく」ナル語ハ拉典ノ「ペレ

「」又ハ「ふゑに」ニシテ「べに」又ハ「ふゑに」ハ即チ「ふゑにしわ」人ヲ指サスモノナリ、而シテ「かるせーち」ニ斯名ヲ附セシ所以ノモノハ其「ふゑにしわ」人ナルヲ以テナリ商業ニ於テモ亦「かるせーち」ハ「ふゑにしわ」ト其趣ヲ異ニシタリ即チ「ふゑにしわ」ニ於テハ運送貿易專ラ其大部分ヲ占メト雖モ「かるせーち」人ノ商業ハ概テ直接貿易ヲ專ラトセリ、而シテ此ノ貿易ハ海陸兩途ニヨリ盛ニ行ハレタリ

海上貿易

海上貿易、「かるせーち」ノ商業ハ「ふゑにしわ」ノ如ク陸上ヨリハ寧ロ海上ヲ以テ盛トセリ、而シテ此地ハ突瓦斯灣頭地中海ノ中央ニアリシヨリ、地中海ノ貿易ヲ支配スルニ最モ便利ナル位置ヲ占メタリ、最モ其東部ニ於テハ「ふゑにしわ」人及ビ希臘人ノ勢力強大ナリシカ故に、「かるせーち」人ハ專ラ以太利以西ヲ以テ活劇舞臺トセザルヲ得ザリシナリ、今地中海ニ於ケル彼等ノ貿易中重モノナルモノヲ舉グレバ、對岸ノ地「しゝり」島ヨリハ油脂葡萄酒ヲ得、「こるゑが」島ヨリハ蜂蜜、蠟及ビ奴隸ヲ得、「ぱりありつく」諸島ヨリハ菓實及ビ驢馬ノ類ヲ得、又「まるた」島ヨリハ貴重ナル織物材料ヲ、「えるば」島ヨリハ善良ナル鉄ヲ得タリト云フ、而シテ之ニ代ヘ「かるせーち」ヨリ輸出セル處ノ貨物ハ自國ノ製造品、奴隸、

金及寶玉等トス、地中海上ニ於テ彼等ノ勢力強大トナルヤ、彼等ハ最モ力ヲ西班牙ノ殖民ニ用井、其東岸ニ於テ新「かるせーち」其他數百ノ小市ヲ作り、數多ノ奴隸ヲ使用シ西班牙鑛山ノ採掘ニ從事シタリ又地中海外ニ於テハ「かるせーち」人ハ「ふゑにしわ」人ト同シク北方「バるちつく」海ヨリ英國ニ達セシノミナラズ南方ニ於テハ遙カニ「ふゑにしわ」人ノ到ラザル處ニ迄モ其航路ヲ通シタリ、然レモ其區域ハ國人ノ秘スル所ニシテ分明ナラズ、只今日ニ至リテ殘留スル唯一ノ書類ナル航海日記ニヨリテ見レバ、「かるせーち」人「のなう」ナルモノ紀元前六世紀(五百二十六年)ニ於テ南方ニ航シ、今日ノ「せねがる」ガビビわ「河及ビ」しえられおね」ノ地方ニ達セシガ如シ此航海ニ於テハ六十艘ノ船舶及ビ三万人ノ水夫ヲ使用セリト云フ、其眞偽ハ久シク史家ノ疑フ處ナリシモ近時漸ク其眞跡ヲ發見スルニ至レリ、抑モ彼等ガ其行先ヲ秘密トセシハ全ク通商上ノ利益ヲ他國ノ人民ニ奪ハレンコトヲ慮ハカリシヨリ來ルモノニシテ、今一例ヲ舉ゲテ斯、ル習慣ノ甚ダ當時ニ貴重セラレシコトヲ証センニ嘗テ「カセーザ」商船北方(恐クハ英國)ヲ指シ趣カントセル時ニ際シ羅馬ノ船舶之ヲ見テ其目的トスル個所ノ何レナルヤヲ知ント欲シ、之ニ追尾セルコトアリシガ、「カセー

「ち」ノ船長ハ之ヲ覺知シ、故意ニ淺瀬ニ乗リ揚ゲテ其積荷ヲ海中ニ投ケ途ヲ轉シテ歸國セリト云フ、當時國法ハ船長ヲ過失ヲ處スルコト甚嚴重ナリシト雖モ此ノ場合ニ於ケル船長ノ舉動ハ甚ダ臨機敏活ニシテ、大ニ國利ヲ保護セルモノナリトノ賞賛ヲ受ケ、其所罰ヲ免カレタリシノミナラズ、却ツテ其損害ヲ償ハレタリト云フ、而シテ亞非利加西岸ニ於ケル「カイセイヂ」通商ノ方法ニ就キ最モ奇異ナルハ其無言貿易ナリトス蓋シ此地方ニ於ケル貿易ハ主トシテ「までいら」嶋ニ對在スル「せるん」嶋ニ於テ行ハレタルモノナリシガ「へろどたす」ノ謂フ所ニ從ヘバ此嶋ニ於ケル貿易ハ無言ノ裡ニ行ナハレタリト云フ其方法タルヤ「かせるせーぢ」人此所ニ來リテ其積荷ヲ陸揚シ火ヲ舉ゲテ合圖トナシ直チニ船中ニ歸ル、土人ハ火ヲ見テ集來シ交換セントスル貨物ヲ海岸ニ陳列シテ又其處ヲ退クナリ、「カイセイヂ」人ハ爰ニ於テ再ビ上陸シ、其貨物ヲ吟味シ、以テ交換ニ適當ナリト思惟スレハ之ヲ持テ歸ルベシト雖モ、之ヲ以テ充分ナラズトセハ其儘ニ殘留シ船中ニ歸リ去ルナリ、土人ハ之ニ於テ更ニ交換セントスルノ貨物ヲ増加シ、「カイセイヂ」ハ其満足スベキ數量ニ達スルヲ待テ之ヲ運ヒ去ルモノトス、斯クシテ交換セラレタル貨物ハ「カイセイヂ」ヨリハ華美ナル裝飾

品、武器、陶磁器、埃及ノ麻布等ヲ以テシ土人ヨリハ象牙、獸皮、金等ヲ以シセリ、而シテ「かせるせーぢ」人ハ土人ニ比シテ固ヨリ遙カニ銳利ナル人民ナリシガ故ニ、此等貿易ニヨリテ常ニ優者ノ利益ヲ占メタルコト疑ヒナシ、抑モ此種ノ貿易即チ無言ノ賣買ニ就テハ書籍上往々余輩ノ散見スル所ニシテ、後世印度ニ於テ行ハレ、又近時ニ至ルモ「すーだん」地方ニハ猶行ハル、モノ、如シ、蓋シ人種ヲ異ニシ、言語通ゼズ、相互ノ間尙ホ猜疑ノ念慮アルニ際シテハ兩者ノ面接ハ少シモ効益ナキモノナルガ故ニ寧ロ此種ノ方法ヲ以テ便利トスベキモノナラン乎、是等ノ外亞非利加ニ於テハ奴隸貿易亦甚ダ盛ニ行ワレタリ、

陸上貿易、陸上貿易ニ於テハ隊商ヲ利用シ、南方「さいいら」沙漠ヨリ食鹽、椰子、象牙、黄金、及奴隸等ノ商品ヲ輸入シ、又埃及ヨリハ印度産ノ寶石其他高貴ナル贅澤品、紅海及ビ波斯灣ヨリ來ル香料、及ビ眞珠ヲ輸入シタリ、而シテ又此商路ニヨリ「ふろにしわ」ノ貴重ナル器具、毛布、織物、深紅及紫色ノ染料等ヲ輸入シタリ

「かーせいぢ」人ハ如斯ク海陸商業ヲ盛ニシ、「ふろにしわ」ト同シク商業ヲ以テ立國ノ基トナシ國富ミ民榮ヘ、當時ノ世界ニ雄飛スルニ至レリ、其盛時ニ當リテヤ、或ル一塞中ニハ二

萬ノ兵隊ヲ入ル、ノ陣營、四千ノ馬ヲ繋グ廐舎、三百ノ象ヲ飼養スル牧場アリテ、其海岸ニハ宏壯ナル水師提督ノ官宅ヲ設ゲタリ、又今日ノ所謂倉庫「マガヂーン」ノ大ナルモノヲ創設シ、以テ大ニ貨物ノ取引ヲ便ニシ船渠ノ大ナルモノハ一時ニ二百艘ノ船舶ヲ容ル、ヲ得タリ、而シテ「カールセーザ」ハ商船ノ外數多ノ軍艦ヲ有シ第二ノ「ピューにつく」戦争ニ際シ（紀元前二百五十六年）三百五十艘ヲ使用セシヨハ歴史ノ傳フル處ナリトス

如斯盛ナリシ「カールセーザ」モ、時來レハ終ニ滅亡セザルヲ得ズ、紀元前二百六十四年ヨリ二百四十一年ノ間ニハ第二「ピューにつく」戦争ヲ開キ、同二百十八年ニリ二百〇二年ニハ第二「ピューにつく」戦争ヲ起シ、終ニ同百四十九年ヨリ百四十六年間ニ第三戦争ヲ開テ全ク羅馬ノ打破スル所トナリ、國中ニ存セル宏壯美麗ノ建築ハ萬丈天ニ達スル赤焰中ニ十七日間ノ性命ヲ保チタル後遂ニ悉ク灰燼ニ歸シ、七十万ノ人口僅カニ五万人ヲ殘スニ至レリ、噫予輩ノ尊敬スル「カールセーザ」國モ爰ニ於テ武斷的羅馬ノ亡ボス所トナレリ、予輩一片ノ友情豈涙ノ潜然タルモノナカラシヤ、彼レ并ニ「ふろにしわ」ガ勤勉勇進開發シ得タル所ノ地中海以外ノ貿易市場モ、爰ニ至ツテ武人ノ爲メニ交際場裡ト隔絶セラレ、一時擴張セルノ商業世界

滅亡

其原因

モ再ビ其領域ヲ縮少スルノ不幸ヲ見ルニ至レリ、然リト雖モ「カールセーザ」ノ亡ブル豈故ナクシテ可ナランヤ、「カールセーザ」人民ガ富ヲ尊重セルハ古來ノ人民ニ秀デシ處ナリト雖モ、其極度ニ達スルノ弊、終ニ高尙ナル觀念ヲ失ヒ、國民ノ氣象ヲ金錢以外又愛スベキモノナキニ至ラシメタリ之ニ加ルニ此人民モ亦古代ノ一謬想ナル勞働輕侮ノ惡病ニ罹リ、農工ヲ賤シメテ之ヲ奴隸ノ手ニ委シ、已レハ只其產出セラレタル物品ヲ轉々販賣スルノ間ニ於テノミ、利益ヲ収メノヲ欲セリ、蓋シ農工ハ共ニ商業ヲ繁盛ナラシムルノ原因ニシテ、二者之ヲ併行セシメザルベカラス、然ルニ却ツテ之ヲ蔑視シ、以テ無責任ナル奴隸ノ手中ニ放任セルガ如キハ甚シキ欠点ナリト云ハザルベカラス、「カールセーザ」人民ガ勞働ヲ輕シテ商利ヲ專ラニセルハ、實ニ爰ニ止マラズシテ、國防ニ充ツルニ他國ノ傭兵ヲ以テスルニ至レリ、論者或ハ之ヲ以テ分業ナリト云ハシ、然レモ國民ノ最モ神聖ナル護國ノ義務ヲ忌避シ、之ヲ金錢ヲ以テ傭入レタル無責任ノ他人ニ委任スルカ如キニ至ツテハ抑モ亦誤マレルノ甚シキモノナリト云フベシ、而シテ國富ミ勢盛ナルニ及ンデ野心ナル惡鬼ノ魔ル處トナリ之レガ爲メ終ニ其身ヲ滅ホスニ至レリ、蓋シ「カールセーザ」人民ハ最モ利益ニ機敏ナルモノ

ナリシガ利益ニ専心スルノ極嫉妬ノ念ハ亦彼等ノ頭腦ヲ充タシ、乃チ「しゝり」島ノ東部ニ於ケル希臘人ヲ嶋外ニ放逐シ、其西側ニ於ケル自國ノ殖民地ヲ以テ全嶋ノ利益ヲ壟斷セシメ、之レガ爲ニ「しゝり」島ニ在ル希臘人トノ交渉ヲ生シ、此勇武ナル人民ニヨリ却ツテ屢々苦シメラル、ニ至レリ、然レモ其紛争ヲシテ只希臘人民トノ間ニノミ止ラシメハ猶未ダ容易ニ敗滅ノ不幸ヲ見ルニ至ラザリシナラン、然レモ彼ノ武力ヲ以テ有名ナル羅馬ハ久シキ以前ヨリ既ニ「カーセーヂ」ノ盛大ヲ惡ミシガ故ニ、乃チ此機ニ乘リテ希臘人ヲ助ケ以テ「カーセーヂ」ニ敵セリ、是レ所謂「びゆにつく」戦争ニシテ、紀元前二百六十四年ヨリ同百四十六年ニ至ルノ百余年間或ハ亞非利加ニ或ハ西班牙ニ或ハ地中海ニ或ハ又以太利ニ於テ斷エズ戰鬪ニ從事シ、其間偶々「のんにばる」ノ如キ英傑顯ハレ出デシモ、百戰終ニ効ナク、府民ハ最後ニ羅馬人ノ前ニ低身シ、武器ヲ投ゲ、船舶ヲ投ゲ、又財貨ヲ投ゲ、以テ降伏ノ意ヲ表セシト雖モ羅馬人ノ深怨猶解ケズ、海岸ヲ去ツテ内地ニ移ルニ非ラズンバ之ヲ許サズト云フニ至リ、府民ハ進退谷マリテ失望ノ勇氣ヲ出シ、戈ナク、船ナク、兵ナキニモ屈セズ、婦ハ毛髮ヲ捨リテ弓弦トナシ、男ハ惜氣モナク血ヲ

戰場ニ注ギテ奮鬪セシト雖モ、總テ其効ヲ見ズ、市府ハ遂ニ羅馬人ノ燒拂フ處トナリ、此

ニ於テ亞弗利加北岸ニ於ケル一大商業市府ハ全ク其形跡ヲ没セリ、

以上ハ是レ「カーセーヂ」人暗處ノ觀察ナリ然リト雖モ此尊敬スベキ予輩ノ友國「カーセーヂ」ガ如何ニ商業史上ニ効果ヲ殘セルヤヲ觀察スルニ當リテハ、是等欠点ハ少シモ彼レノ名譽ヲ埋没スルニ足ラザルナリ、予輩今試ニ「カーセーヂ」人ヲ明所ヨリ觀察セン、

第一「カーセーヂ」ハ最重要ナル商業機關ノ發明者ナリ、即チ彼等ハ爲換手形、及ヒ貸借証券ノ發明者ニシテ其効績ハ深ク余輩ノ感謝スベキ處ナリトス、蓋シ此等ノ証券タル十九世紀ノ商業界ニ於テ一日モ欠クベカラザル機關ニシテ、今日財貨ノ流通ヲ助ケ商業取引ヲシテ輕易ナラシムル信用制度ノ發達ハ、實ニ「カーセーヂ」人民ノ賜物ナリ、

第二「カーセーヂ」ハボットムリー冒險貸借發明者ナリ、冒險貸借トハ船舶ヲ抵當トシテ金錢ヲ借入ル、ノ仕組ニシテ、船舶所有者ハ其借入タル金錢ヲ以テ航海費用ニ投シ、無事航海ヲ終リタル後ニ之ヲ返却スルノ方法ナリ、是レ航海事業ノ進歩上最モ必要ナル方法ニシテ、現時ノ文明國ニ於テハ海上法中是レニ關スル規定ヲ設ケザルモノナシ、而シテ「カーセーヂ」人ハ最

「カーセーヂ」人明所
ノ觀察
爲換手形
及借証券

冒險貸借

モ此ノ貸借ニ關スル証書ヲ町重トシ、革皮ヲ使用シテ政府ノ印章ヲ捺シ、恰カモ今日ニ於ケル銀行券ノ如ク自由ニ之ヲ流通セシメタリ

第三「カイセイヂ」人ハ信用、特ニ國ノ信用ヲ重セリ、彼ノ「びゆにつく」戦争ニ際シ連年干戈ヲ動カシ、之ニ要スル費用非常ノ多額ニ達セル時ノ如キ「カイセイヂ」ハ多額ノ負債ヲ起セント雖モ後悉皆之ヲ辨濟セリト云フ、如斯基必竟國民ガ商業上ノ智識ヲ有シタルニ依ラザルベカラズ、蓋シ信用ハ商業上最モ重スベキモノナルガ故ニ「カイセイヂ」ノ如キ商業國民ハ常ニ信用ヲ重スルノ習慣ヲ生シ、此習慣ハ終ニ其特性トナルニ至レルモノナリ、第四「カイセイヂ」人ハ商人ヲシテ尊敬スベキノ位置ニ立タシメタリ、抑モ中古ノ頃迄ハ二三ノ國ヲ除クノ外、多クハ商人ヲ輕蔑スルノ風アリ、從ツテ一國政治ノ如キ或ハ貴族或ハ武士或ハ僧侶等一種人民ノ手中ニ在リシト雖モ商人ヲシテ政治上ニ嘴ヲ容レシムルコトナシ然ルニ「カイセイヂ」ハ商人中ヨリ卓越セル人物二名ヲ撰ビテ法官トナシ、之ニ莫大ノ權力ヲ附與セリト云フ、

第五「カイセイヂ」人民ハ商業上ノ技能ヲ政治上ニ及ボセリ、蓋シ商業ハ平和ノ事業ナルカ故ニ商業國民ハ常ニ平和ヲ愛シ、又能ク平和ヲ維持スル技能ヲ有ス、今「カイセイヂ」國ニ於ケル行政上ノ情態ヲ見ルニ自國ノ内治ニ於テ未ダ壓制ノコトアリシヲ聞カズ、又嘗テ國內不平等ノ起リシコトアルヲ見ズ、希臘ノ「ありすと」トシテ頗ル其内治ノ圓滑ナルヲ賞賛セシメタリト云フ、

第六章 希臘

希臘上古ノ歴史ハ其記録少キニアラズ、彼ノ詩人「ホーメイ」ガ「どろい」戦争之顛末ニ付キテ詳記セシ者ノ如キ其尤モ有名ナル者ナリトス、然レモ此書ノ記スル所モ亦未ダ容易コトナ信ズ可カラズ此時代ハ史家ノ所謂「ヒロイック、エーシ」(勇者時代)ト稱スルモノニシテ、傳フル所ノ事跡概テ荒唐妄誕ヲ極メ、商業史上ニモ見ルベキ者ナシ、蓋シ「ヒロイック、エーシ」(勇者時代)ニ於テモ亦幾分ノ商業行ハレザリシニアラザレモ、此時代ニ於テハ人民殊ニ商業ヲ卑メ、商業ニヨリテ富ヲ得ルヨリハ、寧ロ海賊或ハ奪掠ニヨリテ巨万ノ富ヲ重ヌルヲ以テ幾倍ノ名譽ナリト思考セリ、勢ヒ如斯ナルガ故ニ地中海ニ於ケル商業ハ全ク「ふえ

「ヒロイック」時代ノ商業

「フエニシ
ア」人トノ
關係

にしわ」人ノ手中ニ歸シ、希臘ハ只ダ少許ノ農産物及ビ奴隸ヲ以テ東洋ノ物品ト交易シタルニ過ギズ蓋シ「ふゑにしわ」人ガ太古ヨリ希臘近海ニ出入シテ、此國人ト交際ヲ親密ナラシメタルハ確實ナル事實ニシテ、現ニ「あせんす」ニ滞在セル「ふゑにしわ」人ノ爲ニ紀念碑ヲ設立セシコアリ、此碑ハ「ふゑにしわ」文字ヲ刻ミタルモノニシテ、其一ハ今尙ホ英國博物館ニ保存セリト云フ、又「ふゑにしわ」人ガ往々希臘ニ來リテ鑛山事業ニ従事シタルヲ見ルモ其交通甚ダ親密ナリシヲ知ルニ足ラン、面シテ當時希臘國中未ダ貨幣ヲ使用セズ物々交易ヲ行ヒタルガ如シ、此時ニ當リ希臘半島ニ住移セル種族ニ四種アリ、「どりわん」「ゑーわいあん」「あけーわん」及ビ「あいをにわん」是ナリ、紀元前千百年頃ニ當リ「どりわん」人南下ニシテ「ペろばねさす」ヲ侵シタリシガ、其南東ニ割據セル「あけーわん」ハ遁レテ北方海岸ニ移レリ、爰ニ於テ北方海岸ニ住セシ「あいおにわ」人亦追ハレテ「あつちか」地方ニ移轉セリ、所謂是レ「どりわん」人遷移ノ結果ニシテ、是等ノ種族此時ヲ以テ更ニ諸島ノ間ニ散布シ、希臘殖民ノ基礎ヲ開ケリ、實ニ是レ彼ノ「へれにす」(即希臘亞人民ノ呼稱)ヲシテ「へらす」各地方ニ散居セシメタルモノ、希臘歴史ハ此レヲ以テ其矯矢トナスベシ、爾後希臘ノ歴史ハ之ヲ一言スレバ「どりわん」及ビ「あいをにわん」ニ種族ノ歴史ナリトモ稱スベシ

二者其性質ヲ異ニシテ互ニ相對セリ、蓋シ前者ハ質朴粗暴ニシテ舊例故慣ヲ故守シ、少シモ進取ノ念ヲ有セズ、商業及ビ美術ハ其最モ輕蔑スル所ナリキ、是ニ反シテ後者ハ高尙優美ノ觀念ヲ有シ、自由進取ノ氣象ニ富ミ、商業及ビ美術ヲ尊崇セリ、而シテ「ハ」すばるた」ニヨリ他ハ「あせんす」ニヨリテ代表セラル、共ニ希臘史中ノ要部ヲ占メ、両々相敵シテ屢々血ヲ流スノ慘狀ヲ呈シタリ、而シテ昔時希臘本國ガ有セル範圍ハ其小ナルヲ畧ボ今日ニ於ケル希臘王國ノ如シト雖モ、其盛時ニ在リテハ廣大無數ノ殖民地ヲ亞細亞亞非利加及歐州ノ三大陸ニ擴張シ、富榮盛大一世ヲ睥睨シ、其卓越秀拔セル文學及ビ技藝ハ後世人民ノ模範ヲナセリ、然リ而シテ希臘ガ商業發達上ニ與ヘタルノ効驗亦少ナカラザルナリ、蓋シ古代ニアリテ歴史上重要ナル位置ヲ占メタル商業國中、先ヅ指チ屈スベキモノハ「ふゑにしわ」ナリ、之ニ次ギテ起レルモノハ「かいせーぢ」トシ、「かいせーぢ」ト畧ホ時ヲ同ジクシテ起リタルモノヲ希臘トス、殊ニ商業上ノ目的ヲ以テ大ニ殖民事業ヲ興シタルモノハ太古ノ歴史中恐クハ希臘ノ右ニ出ツルモノナカラン、

夫レ水流ト文明ハ古來ヨリ淺カラザルノ關係ナ有スルモノニシテ、繁華樞要ナル都府ハ常ニ必ラズ大河ニ沿フテ起ルモノナルガ、獨リ河水ノミナラズ、海水ノ關係モ亦甚ダ密接ナルモノニシテ、古ヨリ海岸ニ於テ文化ノ開ケタルハ等フベカラザルノ事實ナリ、「ふゑにしあ」カ「セーヴ」ノ如キ即チ此著例トス、而カレハ此二國ハ共ニ只ダ一方ニ水ナ有スルノミ、之ヲ希臘カ四面殆ンド水ヲ以テ圍繞セラレタルニ比スレバ文明ノ元素ニ於テ劣リタルト數等ナリト云フベシ、蓋シ希臘ハ三面ニ於テ地中海ヲ繞ラシ、北方ハ狹少ナル「こりんす」ノ地峽ヲ以テ僅カニ歐州大陸ニ接續セルノ一半嶋ニシテ、海岸ニ於ケル出入屈曲ノ夥シキハ自カラ良好ナル數多ノ港灣ヲ備ヘシメ、希臘ハ宛然一個ノ島國ナセリ、加之ラズ國內數多ノ山岳アリテ、幾多小邦ヲ割據セシメタリシガ故ニ、國民生レナカラニシテ獨立自由ノ氣象ニ富ミ、勇敢進取勤勉自カラ其風ナセリ、爰ニ於テ初メハ海賊事業ヲ專ラトシ航海造船ノ術皆掠奪ノ目的ニ使用セラレタリシト雖モ其間漸次商業ノ利益ヲ習得シ、小亞細亞及ビ地中海上ノ諸島ニ向ツテ數多ノ殖民地ヲ作ルニ及ンテハ、海賊事業ヲ廢止シテ專ラ平和的手段ヲ執リ、嘗テ知得セル海上往來ノ技能ヲ利用シテ盛ニ殖民貿易ヲ行フニ至レリ、

「アヘンズ」

「ざりしや」本國ニ於テ商業上最モ要用ナル都府ヲ「あせんす」及ビ「こりんす」ノ二トス、「あせんす」ハ「あつちか」州ノ首府ニシテ海ヲ去ル「二哩」ノ所ニアリ、蓋シ古代ニ於テハ海賊ノ海岸ニ來リテ襲撃スル「屢々」ナリシヲ以テ、之ヲ避ケンガ爲ニ故サラニ海岸ヲ離レテ建設シタル者ナルベシ、然レハ都府ヨリ海岸ニ至ル間ハ堅固ナル城壁ヲ築キテ、自由ニ濠口ト相通ズル「ヲ」ヲ得タリ、此府ハ海軍及ビ文明ノ進歩ニ於テ希臘ノ諸府中ニ超越シ、百五十年間世界商業ノ中心トナリ其市場ニ至レバ世界萬種ノ物産ヲ發見シ得タリト云フ、元來「あつちか」ノ地質ハ極メテ貧瘠ナリシカバ、恰モ現時英國ニ於ケルガ如ク穀物ノ産出甚ダ少ク人民消費ノ半額スラ猶ホ辛ク「ヲ」テ之ヲ得タルニ過ギス、其不足セル分量ハ常ニ之ヲ他國ニ仰ギタリシノミナラズ、又他ノ農産品ニ至テモ概テ之ヲ外國ヨリ輸入セリ、爰ニ於テ埃及「志々利」くりみや「ばれすたいん」等ハ穀物ノ主要ナル供給者トナリ、「ませせん」すれ「ヨリ」ハ木材ヲ輸入シ、亞非利加ヨリハ象牙金等ヲ輸入シ、且ツ埃及ハ穀物ノ外紙及ビ麻布ヲ送り、當時ノ商品タリシ奴隸ハ各處ヨリ來集セリ、而シテ雅典ガ之ニ代テ輸出セルモノハ酒、油、大理石、金屬製諸器具等ニシテ、殊ニ橄欖ハ土地ノ瘠荒ナルニモ係ハラズ

多量ニ産出シタリシカバ、之ヲ以テ穀物トノ交易ニ供セリ、當時橄欖ハ蜜ニ食料トシテ使用セラレタルノミラズ、之ヨリ橄欖油ヲ製シテ身体ニ塗り、燈火ニ使用シ、或ハ又蒸餅製造ニ供シ且ツ又今日ニ於ケル牛酪ノ代用ヲナシタリ、而シテ當時ハ砂糖ナルモノ無ク之ニ代ヘテ蜂蜜ノ使用甚ダ大ナリシカバ、此二者ハ共ニ太古商品中甚ダ重要ノ地位ヲ占メタリ、而シテ雅典ノ工藝ハ大ニ進歩シ金屬諸器具ノ製造ハ甚ダ巧妙ナルモノナリ、殊ニ陶器ハ其最モ著明ナル產品ニシテ思フニ「わづらひ」ノ土質之レガ製造ニ適シ、之ヲシテ盛ニ輸出セシムルニ至リシモノナラン。

當時「あせんす」ハ全ク其貿易ヲ自由ニシ敢テ制限ヲ加フルコトナカリシガ故ニ、世界ノ貨物ハ悉ク此處ニ輻輳セリ、從ツテ此市ハ巨萬ノ富ヲ聚メ、其寺院公堂体操場及ヒ市場ノ如キハ實ニ宏大美麗ヲ極メ、殊ニ体操場ノ如キハ數千人ノ子弟ヲ入ル、ニ足リシト云フ、其他學士ノ講談スル講堂アリ、府民ノ保養スル浴場アリ、商人ノ相會スル會館アリテ、此等ハ皆美麗ナル庭園ト樹木トヲ以テ圍繞セラレタリ、而シテ市民ノ居宅ハ割合ニ狭小ニシテ、外觀甚ダ質樸ナリシト雖モ、其内部ハ五色粲爛トシテ粧飾其美ヲ窮メ、其巧ヲ盡シ、浴室ハ

大理石ヲ敷疊シ、化粧室ハ錦繡綾羅ヲ羅列セリ、實ニ雅典ニ於テハ富華驕奢其極端ニ達セルモノト云フ可ク、其盛ナリシコトハ都府ノ戸數一萬ニシテ、其人口十萬ニ上ボリシヲ見テモ明カナリ、且ツ此十萬ノ府民ハ三十萬ノ奴隸ヲ使役シタリト云フ、以テ其一端ヲ想像スルニ足ラン乎、

「コリンズ」

「コリンズ」ノ首都「コリンズ」ハ「スービヤン」海ト「あせりやちつク」海トノ間ナル「コリンズ」ノ地峽上ニアリシヲ以テ、航海ノ未ダ十分ニ開ケザル時代ノ商人等ハ、希臘島ヲ迂廻スルヨリ寧ロ此地峽ノ一端ニ貨物ヲ卸シ、陸上ヨリ之ヲ他端ニ運送スル事ヲ撰ビ、之ガ爲ニ該府ノ商業ヲシテ頗ラ隆盛ナラシメタリ、此地峽ハ甚ダ狹少ニシテ、一時間ノ歩行ニヨリテ之ヲ横過シ得キモノナリシガバ、紀元前七百年ノ頃既ニ「ペリわんでる」ナルモノ運河ヲ開鑿シテ、二海相通ゼシメシ事ヲ企ツルアルニ至レリ、不幸ニシテ此企ハ實行セラレザリシト雖モ、「コリンズ」ハ斯ノ如キ形勝ノ位置ヲ有シタリシカ故ニ、一方ニハ小亞細亞、他方ニハ以太利ニ對シ、商業上左右ニ其手ヲ伸ハス事ヲ得テ以テ夥多ノ利益ヲ享受セリ、蓋シ雅典ハ希臘聯邦中首要ノ都府ナルヲ以テ、文人雅客及ヒ學者ノ輩ヲ集メ、且ツ一時

聯邦ノ盟主タリシキニ當リテハ、數多ノ附庸國ヲシテ貢稅ヲ納メシメ、之等ニヨリテ著シク其富チ増進シタリト雖モ、「こりんす」ハ此ノ如キ利益ヲ有スルナク、單ニ商業ノミチヲテ其富強チ致セシモノナリ、此市府ハ其製造業中、殊ニ金屬製物品ト陶器トヲ以テ世ニ其名ヲ著ハシ、染物及ビ織物ノ術ニ長シ、又建築術ニ巧ナル彼ノ「こりんす」風ナル新派ヲ起スニ至レリ、以テ其工藝ガ最モ完美ノ城ニ達シタルヲ知ル可シ、其他金銀鑄造ノ術ニ長シテ許多ノ肖像ヲ有シ、彼ノ羅馬人ガ此地ヲ燒キタルト之等ノ肖像ハ悉ク溶解混合シテ、偶然「こりんす」青銅ナル者ヲ造レリト云フモノアルニ至ル、之レ素ヨリ虛構ノ一説ニ過ギズト雖モ、「こりんす」ニハ一種ノ青銅アリシハ事實ナルガ如シ、此都モ亦最モ驕奢ヲ極メタル所ニシテ、後世「こりんしやん」ナル文字ハ驕奢ヲ意味スルニ至リ、其屋宇ノ壯麗ナル府民ノ殷富ナル、雅典ト共ニ希臘中屈指ノ都ナリキ、而シテ二府共ニ大ニ其美術ニ秀テ之レガタメニハ如何ナル冗費ヲモ厭フ事ナカリシカバ、益々以テ其華美驕侈ヲ競ハシメタリ、而カモ之ヲ制限シテ暴麗亂飾ノ惡弊ニ陥リ、人ヲシテ却ツテ倦厭ノ念ヲ抱カシムル事ナカリシ所以ノモノハ、實ニ唯希臘人民ノ懷抱セル、高尚雅致ナル美術心其物ナリシナリ

或人「バロンリー」ビツヒ「希臘ノ商業ヲ論シテ曰ク、希臘商業ノ基ハ工業ニアリテ其工業ハ實ニ著シキ進歩ヲナシ、今日英國ノ「パーミンガム」及ビ「しゑつふる」ニ於テ製作スル所ノ物チ、既ニ盛ニ此地ニ於テ製造シ、又今日「リーヴ」「ろんどん」及ビ「すたつほふ」等ニ製作スル毛織物、染物、陶器、金銀細工及ビ造船ノ事業ハ既ニ「あせんす」一ヶ所ニ於テ之ニ從事セリト、然カレモ商業國トシテ希臘ノ最モ特色ヲ顯ハセシハ其殖民事業ニアリ、蓋シ此國ノ位置及ビ形勢ハ、國民ヲシテ自然航海ノ術ニ長セシメタルハ既ニ述ベタル所ナルガ、其航海ニ長ズルヨリ又從テ其殖民地ヲ設クル傾キヲ生シ、「どりやん」遷徒ノ前ヨリ早ク既ニ小亞細亞ノ海岸ニ殖民ヲ企テタリシガ、此等ハ皆幾許モナクシテ要用ナル商業都府トナリ、本國ト相拮抗スルニ至レリ、而シテ「ざりしや」本國ニ於ケル商業市府ハ、僅カニ「あせんす」「こりんす」ノ二ツニ過ギズシテ、却ツテ其殖民地ニ無數ノ隆盛ナル商業市府ノ起リタルハ一奇觀ト云フベキナリ、先ツ小亞細亞ノ海岸ニ於ケルモノヨリ云ハシ、小亞細亞ニナイテハ「へれすばんど」ノ海峽ヨリ「しりしや」ノ界ニ至リ、重ニ「あいをにやん」及ビ「ゑをりやん」等ニ依リ殖民セラレシ

リ、而シテ此等ノ殖民ハ數年ナラズシテ盛ニ商業ヲ行ヒ本國ニ劣ラザルニ至レリ、「ゑをりや
 ん」ハ「ペルバねさす」征服ノ後、即チ紀元前千百廿四年「すらしや」ヨリ小亞細亞ニ入り、
 「みしや」并ニ「かりや」ノ海岸ニ殖民シ、至ル所「ゑをりや」ノ名ヲ附シ、又「れすばす」及ビ
 「てねどす」嶋ヲモ占有セリ、彼等ハ須臾ニメ此海岸ニ十二ノ市府ヲ建設セシガ其重ナルモ
 ノチ「すみるな」及ビ「しめ」トス、此等ノ殖民地ハ一時彼斯ニ屬セシト雖モ、「あせんす」
 ガ海上ノ權ヲ握ルニ及ンデ皆其旗下ニ屬シタリ、

「あいをんやん」人ハ少シク後レテ、紀元前千〇四十四年頃ヨリ殖民ヲ初メタリ、此時ニ當
 リ「あせんす」ニ於テハ王族ヲ廢シテ悉ク之ヲ平民トナスノ制ヲ發シタリシガ、「こどらす」
 王ノ子ナル某ハ平民トナリテ「あせんす」ニ住スルヲ嫌ヒ、殖民ヲ率ヒテ亞細亞ニ入ラン
 コトヲ企テアリ、而シテ此企テハ「あせんす」ニ殖民シ來リシ無數ノ殖民隊及ビ「あせんす」ニ
 於テ其施政ニ不滿ヲ抱ク者、又或ハ單ニ好奇心ヲ有スル者等許多人民ノ賛同ヲ得、戰艦及
 ビ武器ヲ備ヘテ共ニ小亞細亞ノ海岸ニ上陸シ、土人ト所々ニ轉戰シ遂ニ全ク「みれたす」及
 ビ「せびらす」山ノ海岸ヲ占有シ、此處ニ於テ「ゑをりやん」人ト全ク十二ノ市府ヲ創設シタ

リ其中最モ重ナルモノチ「みれたす」トス、而シテ「ゑひさす」ハ之ニ次ギテ有名ナル者
 ナリ、

以上小亞細亞ノ海岸ニ於ケル殖民地ハ日ヲ遂フテ盛大トナリ、殆ンド「たいや」ニモ劣ラザ
 ルニ至リ、彼ノ著名ナル「さーでーす」及ビ「すーさ」間ノ隊商線路ト海路トハ、互ニ波斯ノ
 財貨ヲ収メンガタメニ相競争シ、此間ニ於テ此等ノ殖民諸府ハ大ニ其利ヲ專ラニシタリ、
 而シテ此等ノ諸市府ハ雷々ニ其航海運送業ニ於テ海上ノ權力ヲ有セシノミナラズ、又其製
 造業ヲモ擴張シ「みれたす」ノ如キハ牧畜ニ適シテ、盛ニ毛布及ビ敷物等ヲ製造シ、「ゑひさ
 す」ハ豊富ト壯麗トナリテ其名ヲ表ハシ、最モ金銀ノ細工ニ長シタリ、殊ニ「みれたす」ノ
 如キハ、東ハ亞細亞ノ内部ニ西ハ「じぶらるたる」ノ海峽ニ其商業ヲ擴張シタルノミナラ
 ズ、猶ホ進ンテ黒海ノ商業ニ從事シ、酒類及ビ諸種ノ製造物ヲ輸出シテ、之ニ代フルニ皮
 革羊毛及ビ奴隸等ヲ以テシタリ、

「ふをけーあん」ハ「みれたす」ノ殖民ノ一ナルガ、此府民ハ「さみやん」人ト共ニ佛國ニ航シ
 テ「まのしりあ」ナル都府ヲ建設セリ即チ現時ノ「まるせーる」之ナリ、蓋シ「ぎりしや」人中

佛國ニ航スルノ先鞭ヲツケタル者トス、「さみやん」人ハ「さもす」鳴ノ都府ニ住シ、重ニ亞非利加海岸ノ諸市府ト商業ヲ行ヒ、猶進ンテ「じぶらるたる」ノ海峽ヲ越テ遠ク其航海ヲ試ムルニ至レリ、加之ナラズ彼等ハ美術ノ思想ニ長シ、精緻ナル肖像及ビ美麗ナル美術品ヲ産シ、當時有名ナル彫刻者美術者ハ皆多ク此ヨリ出テタリ、

「みれたす」「ろひさす」ノ外、小亞細亞ノ海岸ニ於ケル有名ナル都府ハ「すみるな」トス、此府ハ現時猶ホ繁盛ナル所ニシテ、「えひさす」ト同ジク金銀ノ細工ニ付キテ有名ナリ、

「どりやん」人モ亦「かりや」ノ海岸ニ於テ殖民ヲ企テタリシガ、此等ハ少シモ要用ナル地位ヲ占ムルニ至ラズシテ波斯ノタメニ打テ破ラレタリ、然レモ只ダ「ろーです」ニ於ケル殖民ハ、其航海甚ダ敢勇ニシテ西班牙ノ海岸ニ達シ、此ニ「ろーぢやん」殖民地ヲ建設スルニ至レリ、

「ぎりしや」ノ殖民地ハ雷ダニ小亞細亞ノ海岸ノミナラズ、進ンテ黒海ノ沿岸ニ及ビタリ、而シテ此等無數ノ市府中ニハ今日猶存シテ要用ナル商業ノ中心タル所アリ、即チ南方ノ海岸ニ於テ「さいのーぶ」「あみそす」「とれびぞんぞ」ノ如キ又東海岸ニ於ケル「ふろーしす」

「だいをすきゆーり」等ノ如キ之ナリ、之等ノ市府ニヨリテ「ぎりしや」人ハ「こーかさす」地方ノ人民ト交通シ、且ツ亞細亞ノ内部ヨリ來ル隊商線ト連絡ヲ通シタリ、

猶黒海ノ北海岸即チ魯西亞ノ南方ニ於テ、「みれたす」ノ府民ハ「ばんちこべーをん」「たねーす」をりびや」等ノ殖民地ヲ造リ、其西方ニ於テハ「をでっさす」「今」があるな」府ヲ建設シタリ、此等ノ諸市府ハ母國ニ於ケル酒及ビ衣服類ニ代エテ穀物、奴隸、皮毛等ヲ輸出セリ、殊ニ注意スベキハ黒海ノ咽喉タル「ぼすふをらす」海峽ノ二市府ナリトス、即チ亞細亞ノ海岸ニ於ケル「かるせとん」歐洲ノ部分ニ於ケル「びざんちやん」ニシテ、共ニ黒海ノ諸殖民中最モ盛大重要ナル者ナリ、就中「びざんちやん」ハ現今ノ所謂「こんすたんちのーぶる」ニシテ、今日猶ホ歐洲諸強國ノ着眼スル所、「ぎりしや」人ガ早ク既ニ此地ヲ扼シタルハ其慧眼實ニ驚クニ堪ヘタリ、即チ此地ニ依リテ東西洋ノ關門ヲ扼シ其ノ輸出スル所ノ酒及ビ油ニ代エテ「あくれーん」地方ヨリハ穀物及ビ獸皮「さいべりや」ヨリ毛皮「さーかしや」ヨリハ醃魚、蠟、蜂蜜、肥大ノ家畜ヲ輸入セリ、又隊商ニヨリテ「かんぢす」地方及ビ支那ニ交通シ、絹布、眞珠、寶石、香料、香油、象牙、黃金、麻布及ビ印度ノ諸貨物ヲ其市場ニ出ダシ、之レ

ニ代フルニ地中海ヨリ得ル所ノ赤珊瑚、琥珀、玻璃及び金銀工藝品ヲ以テシテ、然レドモ此都府ノ最モ主要ナル商業ハ、魯國ノ南方ヨリ巨額ノ穀物ヲ集メ、而シテ之ヲ「あせんす」「こりんす」及び其他ノ「ざりしや」諸市府ニ輸送シテ、以テ本國ニ於ケル食物ノ不足ヲ補ヘル事トス、

「びざんちやん」ハ紀元前六百五十八年ヨリ紀元後三百三十年ニ至リ、其間種々ナル變遷ヲ經過シテ遂ニ「こんすたんちん」ニ打勝タレ、「ろーマ」ヨリ都ヲ遷サレタルガ、前後凡ソ千年間實ニ歐洲ニ於ケル要用ナル商業ノ中心トナリタリ、

「エーじやん」海ノ北岸ニ於ケル最モ要用ナル商業都府ハ、「あひふいぼりす」及び「ぼちでわ」ノ二府ナルガ、共ニ「あせんす」及び「こりんす」ノ府民ガ殖民セシ數多殖民中ノ一ナリトス、加之「ゑーじやん」海ノ北方ニ於ケル、「てーそす」島ハ金銀鑛ヲ以テ有名ナル者ニシテ、埃及ト盛ニ通商セリ、更ニ眼ヲ轉シテ地中海ノ西部及ヒ南部ヲ見レバ、余輩ハ又至ル處「ざりしや」殖民地ノ列立スルヲ見ル、殊ニ以太利ハ其最モ盛ナル所ニシテ「みせあむ」岬ニ近キ「きゆーめー」ハ、紀元前八百五十年ニ於テ既ニ建設セラレ、數百年間以太利ニ於

ケル最モ繁盛ナル商業中心ナリシガ、紀元前五世紀ニ至リ「かびゆあ」ナル都府ハ漸ヤク盛大トナリ、之ト競争シテ遂ニ其地位ヲ失ヒタリ、而シテ年ヲ經ルニ從ヒ數多ノ「ざりしや」殖民地ハ以太利海岸ニ建設セラレ、全國ノ商業ハ殆ンド全ク「ざりしや」ノ殖民地ニヨリ行ハレ以太利ノ南部ヲ「まぐなぐりーす」ト稱スルニ至レリ、其有名ナル者二三ヲ舉グレバ、「しぼりす」及び「くろとん」ニシテ、此等ハ紀元前七百年ニ創立セラレ、其商業ノ繁盛ナル其都府ノ富豪ナル實ニ驚クニ堪ヘタリ、殊ニ前者ノ如キハ其府ノ驕奢ナル終ニ「しべらいつ」ニル字ハ奢侈ノ異名トナルニ至レリ、其他「ろーくり」「れじやむ」「たれんたむ」「ゑりあ」「ばしとにわ」等ハ皆要用ナル市府ニシテ、其都民ハ概チ富豪ヲ極メ奢侈ヲ盡シ快樂ニ耽リ歡樂ヲ貪レリ、

此他「しーりー」島ハ其地味ノ豊饒ナル忽チ巨大ノ殖民ヲ誘導シ、「しらきゆーす」「あぐりせんたむ」ハ其最モ富裕ニシテ且ツ盛強ナルモノナリ、其他「なくとす」「めさな」「せりなす」等之ニ次ギ、皆多量ノ穀物、菓實并ニ酒、油等ヲ輸出シ、且ツ「いたりー」及び「ゑぢふと」東西兩洋間ノ運輸商業ヲ行ヒ、以太利ノ諸市府ヨリハ酒、家畜等ヲ輸出シテ、陶器、金屬器具

及ビ衣服等ノ製造品ヲ母國ヨリ輸入シタリ、
猶ホ亞弗利加ノ北岸「カセーヒ」ト「スジぶと」ノ間ニ於テ、「ギリシヤ」人ハ多クノ殖民ヲ
建設セリ、即チ其首要ナル者ヲ「さいりーん」トナス、此府ハ海岸ヲ隔ルキ哩ノ小丘ニアリ
テ、紀元前六百三十年ニ於テ創設セラレタリ、此地方ノ氣候ハ温和ニシテ身体ノ健康ニ適
シ、且ツ地味最モ豊饒ナリ、此府ハ別ニ四ツノ殖民市府ヲ作り此五ヲ稱シテ「ぺんたぽり
す」(五ツノ町)ト云ヒ、「スヂぶと」「ぬびわ」及ビ亞弗利加内地ト活潑ナル海陸兩途ノ商業
ヲ行ヒ、羊毛、羊、馬、香料、染料、油、棗、寶石、等ヲ得、之ヲ「ギリシヤ」小亞細亞及ビ以太利ニ
輸出シ、而シテ穀物油及ビ「ギリシヤ」ノ諸製造品ヲ輸入シテ之ヲ亞弗利加ノ諸州ニ分布
セリ、

希臘人ハ此ノ如ク殖民地ヲ四方ニ起シ、該殖民地ハ更ニ又他ノ殖民地ヲ分立シタリシガ、
「ギリシヤ」ハ皆之等ノ人民ヲ稱シテ「へれん」呼トビ、商業上互ニ相補佐シテ以テ非常ノ利
益ヲ得タリ、而シテ「ギリシヤ」ガ遂ニ「ローマ」ノ亡ボス處トナリ其屬國トナリシ後ト雖モ
尙ホ商業ノ永續シテ衰滅セザリシ所以ノモノ、職トシテ此レ等無數ノ而カモ隆盛ナル殖民

地ノ四方ニアリタルガ故ナラズンバアラズ、

「ギリシヤ」ハ實ニ世界ノ商業上及ビ文明上ニ莫大ナル影響ヲ與ヘタルモノトス、而シテ一
般歴史上ノ事實ハ「どりやん」及ビ「わいかにやん」二人種ノ占ムル所ナリト雖モ、商業上ノ
効績ハ殊ニ「わいかにやん」人其功ヲ專ラニシタリト云ハザルベカラズ、今ヤ余輩ハ何故ニ
「ギリシヤ」歴史上ノ元動力ナル「どりやん」人ガ商業上ニ一ツモ重要視セラレザリシヤヲ研
究スルニ、是レ全ク「すひるた」法律ノ然ラシムル處ナリト云ハザルベカラズ、何トナレバ
彼ノ有名ナル「らいかるがす」ノ法律ハ「すひるた」社會ノ組織ヲシテ全ク商業ニ不適當ナラ
シメタレバナリ、蓋シ各人ガ致々末利ヲ爭フテ商業ニ從事スル所以ノ者ハ、之ニヨリ
財貨ヲ積ミ以テ人生ノ幸福快樂ヲ享ント欲スルニアルヤ明ナリ、故ニ若シ社會ノ組織當チ
得スシテ其秩序紊乱シ、各人私有ノ財産及ヒ生命ヲ保護スルノ法律ナク、櫛風沐雨漸クニ
シテ得タル財貨モ一度ビ之ヲ奪掠セラルレバ復タ容易ニ回復シ能ハサルガ如キ有様ナラン
ニハ、誰カ銳意利殖ノ途ヲ計ル者アラン、彼ノ「らいかるがす」ノ法律タル之レト其趣ヲ異
ニスト雖モ、其異ナル處ハ只ダ與ヘタルモノヲ奪ウト、始メヨリ與ヘザルトニアルノミ、

「スハルタ」
法律

其結果ニ至リテハ少シモ異ナル處ナシ、抑該法律ノ目的タル各個人私有ノ財産ヲ廢止シ、凡テ之ヲ國家ノ共有トナシ、貴賤貧富ノ別ヲ毀テ、府民ヲシテ皆同一ノ粗食粗衣ニ甘シ驕奢ヲ戒シメ務メテ節儉ノ風ヲ養成セント欲スルモノニシテ、所謂社會主義ヲ強行シ、富ヲ以テ得ラルベキ快樂幸福ヲ禁遏セルモノトス、爰ニ於テカ人民ハ無欲無味ノ動物トナリテ單ニ日用生計上ノ必要物ニ満足シ講武鍛練ヲ之レ事トシ、愛國ノ精神ニヨリ相團結スルノ外毫モ富ヲ蓄積スルノ思想ナシ、此レ明カニ商業ヲ禁止スルノ組織ニシテ、「ゼリヤン」人即チ「すいゐるた」ガ商業上少シモ効績ヲ表セザリシノ原因ナリトス、故ニ予輩ガ商業史上希臘人ノ効業ト稱スルモノ、多クハ雅典及ビ「こりんす」人民ノ所爲ニ限ルト云フベシ、「ゼリヤン」商人ノ多數ハ又々大ナル製造家ニシテ、各自ニ船舶ヲ所持シ各自ニ商業ヲ行ヒ地中海ト黒海トノ間ニ於テハ宏大ナル製造場ト商店トヲ設ケタリ、此等ノ人ハ商業ニ因リテ身ヲ起シタル所謂紳商ニシテ、舊來ノ貴族ト其趣キヲ異ニシ、不動産ヲ所有スルコトナシト雖モ、大ニ動産ニ富ミタリシガ故ニ、其勢力ハ敢テ貴族ニ讓ラズ、自由制度ヲ以テ組織シタル政府ノ下ニ集マリ、財産生命ノ保護ヲ托シタリシガ、自由ト富貴ト相併ンテ其進歩ヲ呈シ

學者ト商人

以テ「ゼリヤン」文化ノ基ヲ開キ、一方ニ於テハ美術上ノ發達ヲ促ガノ建築陶器其他ノ工藝品等ヲ進歩セシメ又他方ニ於テハ學問ヲ促シテ長足ノ進歩ヲ顯ハサシメ、殊ニ哲學ノ如キハ殆ンド其極度ニ達シタリト稱スベシ、而シテ此ノ如ク文化ノ開ケタルハ、商業ト殖民ヲ盛ニシ國富ヲ來シタルニ基因スル者ト云ハザルベカラズ、蓋シ古代ニ於ケル一般ノ風習ハ商業ヲ以テ卑賤ノ業トナシ、大ニ之ヲ見下ケタルモノナルガ「ゼリヤン」ニ於テハ此ノ事ナク、學者及ビ商人ハ互ニ氣脈ヲ通シ其間親密ナル關係ヲ有シ、學者ニシテ商人ノ門ヨリ出ツル者甚ダ多ク、而シテ之等ハ概テ商業工業ニ從事シタリト云フ、例ヘバ彼ノ「てーれす」ハ油商ノ一子ニシテ、「そくらちす」ト「ありすど」ト「各石商及茶商ノ子ナリシガ如シ、而シテ彼ノ「あせん」ノ立法者ニシテ「ゼリヤン」七賢士ノ一人ナル「そろん」ガ商品ヲ賣リ、有名ナル哲學家「ぶらど」ガ埃及ニ於テ油ヲ賣リタルヲ見レハ商業ノ一般ニ下賤ノ業ト蔑視セラレザリシヲ知ルニ足ラン、勢ヒ此ノ如クナルヲ以テ平常用ユル所ノ言語ニモ、或ハ町人語ト云ヒ或ハ學者語ト稱スルガ如キ區別アルコトナリ、商人ト雖モ一般ニ高等ノ教育ヲ受ケタリ、去レハ商人ト學者トノ區別ハ智識ノ分量ニアラズシテ、其從事スル職業ノ異ナル点ニアリ、

此ノ如クシテ學問ト商業トハ相補翼シテ進行シタル者ノ如シ、彼ノ『ありすと』と『とる』ノ遺書「プロブレムス」ナル者ハ商人音樂家美術家等ノ提出セシ質問ニ向テ、明細親切ニ答辨ヲ與ヘタル者ニシテ、又々以テ兩者ノ關係親密ナリシ一般ヲ窺フニ足ラン

然リト雖モ「ざりしや」經濟上ノ一大欠点ハ彼ノ奴隸ヲ使役セシメ之ナリ、『いと』氏ノ如キハ大ニ之ヲ攻撃シ、此事タル「ざりしや」文明ノ進歩上ニ於テ飛ビ越ス可カラザル分界ヲ設ケタル者ナリト迄ニ極論セリ、蓋シ奴隸ヲ使用スルノ不可ナルコトハ人倫上經濟上共ニ明カナルコトナリト雖モ是レ古代一般ノ謬想ニシテ敢テ深ク希臘人ノミナ尤ムベキニアラザルナリ、然レモ「ざりしや」ハ商業ヲ進歩セシムル種々ノ仕組ニ注意シ、通貨ノ制ハ早ク之ヲ行ヒタリ、今希臘ノ貨幣ニ關シ一表ヲ擧ケンニ左ノ如シ

- 六「おぼいらす」 || 「とらむ」
- 百「とらむ」 || 「まさあ」
- 六十「まさあ」 || 「たんれー」

此等ノ諸貨幣ハ皆銀貨ニシテ「あせんす」人ハ許多ノ銅山ヲ有セシニカ、ワラズ、奇怪ニモ

銅ヲ以テ貨幣トナス事ヲ大ニ嫌惡シタルガ故ニ低位ノ者ニハ恰モ魚鱗ニ髣髴タル極メテ微細ナル銀貨ヲ用ヒタリ、然レモ遂ニ其不便ヲ感シ銅貨ヲ用ユルニ至リシガ、其最モ小ナル者ハ「おぼいらす」ノ八分ノ一ニ當ル者ナリ、元來「ざりしや」ハ金ニ富マザリシヲ以テ金貨ノ數ハ甚ダ多カラザリシガ、其重ナル者ハ「すてーてる」ト稱スル廿「とらむ」ニ相當セル貨幣ナリシ、然リ而シテ甲國ト乙國ノ貨幣ハ勿論前代ト後代トノ貨幣ニ至ルマテ互ニ同シカラズシテ「すばるた」ノ如キハ鍍銀貨ヲ用ヒ其形大ニシテ不便ナル者ナリ、又或ル所ニテハ眞鍮銀貨ヲ用ヒタリ、然レモ雅典ニ於テハ始メヨリ金銀貨幣ヲ用ヒ、其分量性質共ニ精確純粹ナル者ニシテ大ナル信用ヲ有シ自由ニ通用シタリ、

「ざりしや」ニ於テハ高利貸ノ專横ヲ制スルタメニ法律ヲ設ケタリ、然リト雖モ又負債者ニ對シテモ嚴シキ法律ヲ設ケ、欺偽ヲ行ヒタル者ハ之ヲ死罪ニ處シ、已レノ負債ヲ償還スルコト能ハズ破産シタル如キ者ハ之ヲ奴隸トナシ、其身ヲ以テ債務ヲ償ヒ、債務止ミテ後始メテ自由ノ身トナルノ制ナリシ、彼ノ『ぷらとー』ノ如キ之ガ爲ニ一時殆ンド奴隸トナラントセリト云フ、

銀行

希臘ノ古代ニ於テハ、人民ノ躁暴ナリシト隣國ノ襲撃アリシガタメ、財産極メテ不安全ナリシヲ以テ、金錢ヲ得タル者ハ皆之ヲ僧徒ニ預ケ、神殿ハ恰モ金錢ヲ預カル銀行ノ如キ者トナリタリ、而シテ神殿ノ神聖ナル能ク之ヲ保護シ、仇敵ノ人民ト雖モ其神怒ニ觸ル、アラソ事ヲ怒レテ、敢テ之ヲ掠奪スルコトナカリシナリ、斯ク神殿ハ財寶貯藏ノ安全ナル場所ナリシト雖モ、未ダ之ガタメニ銀行ノ目的ヲ達スル事能ワズ、然レモ社會ノ漸ク進歩スルニ從ヒ此預金ノ業務ハ僧侶ノ手ヲ離レテ、普通人ニ仍テ營マル、ニ至レリ、此等ノ銀行者ハ固ヨリ今日ノ銀行者ト比較シテ論ズルコト得ズト雖モ、然レモ大ナル貨幣ヲ小ナル貨幣ニ代ヘ或ハ自國ノ通貨ヲ他國ノ通貨ト交換スル兩替人トナリ、或ハ又各人ヨリ預カリタル金錢ニハ相當ノ利息ヲ附シ、銀行者ハ此ノ預リ金ヲ利用シテ利ヲ得タル等、商業社會ヲ益シタルコト少カラズ、

營業免許

此外「ギリシヤ」ニ於テ營業免許ノ制ヲ設ケ、免許ヲ得ズシテ商業ヲ營ム事能ワザラシメタリ、此制ハ「あせんす」ヲ以テ矯矢トス又領事館設置ノ事モ「ギリシヤ」人ノ創設スル所ニシテ、領事タルベキモノハ商人中最モ各國ノ慣習ニ委シキ者ヲ以テ之ニ充テタリ、而シテ此

領事

領事タル外國商業ノ景況ヲ視察シ、且ツ其國ニ於ケル自國商人間ノ紛争ヲ中裁スル事ヲ以テ職務トナセリ

之ヲ要スルニ希臘ハ地中海中ノ一半島タルニ過ギズシテ、而モ數多ノ小邦ニ分割セラレ國內争鬪殆ンド止ムトキナカリシト雖モ、其人民ハ大ニ意ヲ商業ニ傾ムケ、早ク殖民地ヲ亞細亞、亞弗利加及ヒ地中海沿岸ノ諸方ニ設ケテ本國ノ交通ヲ自由ニシ、遂ニ「カイセイヒ」ヲ凌駕シテ地中海及ヒ黑海ノ商業ヲ壟斷スルニ至レリ、然レドモ紀元前三百三十八年「ピロ」ヨハ「一戰」ニヨリ希臘ノ全權「マセ」ニヤ「ヒリ」トシ「王」ニ歸スルコト及ビ、其盛大ナリシ商業モ漸次衰運ニ傾ムキ來レリ、而シテ紀元前三百三十六年歴山大王ノ起リテ東方ヲ征服スルヤ是迄「ギリシヤ」ノ製造品ヲ最モ多ク需用セシ「セリ」ヨ「シ」及ビ「あんちかく」等ハ非常ナル損害ヲ被ムリ、爲メニ「ギリシヤ」ハ商業上ノ一大花主ヲ失ヒタルノミナラズ、亞弗利加ノ海岸ニ於テ「あれ」ヨ「ん」ト「り」ヤ「起」リテ短期日ノ間非常ノ進歩ヲナシ、遂ニ「ギリシヤ」ハ亞弗利加ニ於ケル商業ノ特權ヲ失ヒタリ、加之一方ニ於テハ「ローマ」帝國起リテ勢力ヲ振ヒ政權ハ漸次「ギリシヤ」ノ手ヲ去リテ「ローマ」ニ移リシカバ商業上ニ於テモ亦一

大變遷ヲ來タシ、復々昔日ノ「ギリシヤ」ニアラザルニ至ル而シテ晩年歴山王ノ死スルニ及ンテ「ギリシヤ」國內ハ忽チ四分五裂シテ互ニ相争ヒ衰弊ノ極遂ニ「ローマ」ノ範圍ニ歸スルニ至ル

第七章 羅馬

羅馬ノ歴史ハ紀元前七百五十年頃「ろみゆーらす」ナル者ガ羅馬府ヲ開基シタルヲ以テ其起因トスルヲ得可シ、此時ニ當テヤ其領地ト稱ス可キハ實ニ葭爾タル一小範圍ニ過キス、其人口モ亦小許ニシテ實ニ微々タル者ナリシガ、其後羅馬ノ府民ガ「えとらすかん」人及ビ「さばいん」人ノ組成セル殖民ト結合スルニ至リテ漸ク盛トナリ、其威力ヲ「らちゆむ」地方ニ振フニ至レリ、而シテ紀元前五百〇九年ニ至ルマデ數名ノ君主相傳ヘテ「ローマ」府ヲ支配シタリシガ、此年ニ至リテ羅馬ハ其ノ政体ヲ變シテ共和ノ組織トナセリ、是ヨリ紀元前四世紀ノ半頃ニ至ル迄、羅馬ハ自己ノ成立ヲ維持スルニ汲々トシテ、未ダ内政ヲ顧ミルニ暇アラザリシガ、今ヤ内政漸ク其基ヲナスニ至リシカバ、更ニ領地ノ擴張ヲ謀ルニ至レリ、此時

ニ當テヤ希臘ノ殖民地ハ以太利南海岸ニ羅列シテ猶其ノ隆盛ヲ極メ、以太利ノ商權ハ皆其ノ手中ニ歸シ、隱然一方ニ勇視シタリシガ、紀元前二百八十年ニ至リ「たれんたむ」ノ戰爭ニ於テ大ニ希臘ヲ破リ悉ク以太利ノ南部ヲ所有ニ歸セシメ、紀元前二百六十六年ニ至リテ全ク之ヲ征服シ、羅馬共和國ノ範圍ハ北ハ「ピエー」ノ南境ニ至リ、南ハ「シリール」海峽ニ達シ西ハ「たすかん」海ヨリ東ハ「あどりやちつく」海ニ貫ヌキ以太利半島ノ全部ヲ包含シ、羅馬國ノ基礎全ク確定シタリ、爰ニ於テカ更ニ力ヲ外國征服ニ用ヰ、紀元前二百六十四年ヲ以テ「かるせいじ」ト「シリール」島ニ於テ戰端ヲ開キタリ、之ヲ「ピュにつく」戰爭ノ始トナス當時「かるせいじ」ハ其商業ヲ以テ、其海軍ヲ以テ、世界ニ雄視シタリシガ、紀元前百四十六年ニ至ル迄凡ソ百二十年ノ間一勝一敗互ニ之ト雄ヲ争ヒ、羅馬人ハ終ニ全ク海上ノ勝利ヲ得進ンテ地中海ヲ橫斷シ「かるせいじ」ノ本據ヲツキ之ヲ亡ボシ其府ヲ燒キ、其ノ住民ヲ盡殺シタリ、此ニ於テ七百年間商業ノ中心ト仰カレタリシ「かるせいじ」及ヒ其領地モ悉ク羅馬ノ範圍ニ歸ス、當時「ギリシヤ」ハ「かるせいじ」ニ次キテ世界ノ商權ヲ掌握シ以太利ノ南部ガ羅馬ノ領地トナリタル後モ、猶ホ之ト盛ニ商業ヲ行ヒ、地中海ヲ以テ其ノ取引所

トナセリ、然レドモ羅馬ノ強勇ナル紀元前百四十六年即チ「かるせいぢ」滅亡ノ歳ニ於テ悉ク「ませせん」及ヒ希臘ノ諸州ヲ征服シ、進ンテ亞細亞ニ入り、小亞細亞ノ諸州ヲ從ヘ、更ニ又西ノ方西班牙半島ヲモ征服シ、其ノ領地ハ今ヤ唯ダ以太利半島ニノミ限ラズ、西ハ大西洋ノ海岸ヨリ、東ハ「こんすたんちのーふる」海峽ニ達シ、歐州ノ大半、「ふりてん」、亞弗利加北部ノ全海岸及ヒ亞細亞ノ西部ヲ管領シ、地中海ハ實ニ其ノ間ニ介在スル羅馬ノ湖水ナリシ、紀元前百三十三年ヨリ紀元後廿七年ニ至ルマテハ内乱止ムコナカリシガ「をーがすたす」帝起リテヨリ之ヲ一統シ、茲ニ羅馬ノ帝政時代ヲ開ク、紀元後三百九十五年「せをどしやん」帝崩シテ羅馬ハ東西ニ分レ、之ヨリ年ヲ遂フテ衰運ニ傾キ、紀元後四百七十六年ニ至リ西羅馬全ク滅亡シテ此ニ大古史ノ界限ヲ作レリ

抑モ羅馬人ハ商業的ノ人民ニアラス、羅馬ノ歴史ヲ讀ミタルモノハ必ラス彼等ガ商業ヨリハ、寧ロ戰爭ヲ以テ其ノ重ナル職務トシタルコトヲ知ラン、蓋シ羅馬ノ府民ハ常時ニ在リテ嚴肅ナル練習ヲ受クル一大常備兵ヲ組織シ、不斷武術ノ改良ニ注意シテ、敵ト雖モ兵術上ニ長所アレハ則チ取テ之ヲ用ヰタリ、故ニ羅馬人ガ其名ヲ著ハシタルハ商業上ノ事蹟ニア

非商業的國民

ラスシテ其ノ武勇ニアリ、去レバ戰爭ハ彼レ等ニ取リテハ一種ノ商業ナリト云フ可ク、殆ント一千年間羅馬ノ歴史ハ戰爭ノミヲ以テ充タサレタリ、而シテ羅馬社會ノ組織ハ一トシテ武道ノ振起ヲ獎勵スルノ助ケトナラザルモノナク、彼ノ羅馬ノ「こんさる」ノ如キ、其ノ在職僅ニ一年ノ短期ナルヲ以テ、或ル非常ノ事件ニヨリ其ノ治世ヲ卓越ナラシメント欲シテ、故ラニ戰爭ヲ企ツル者アルニ至ル、蓋シ戰爭ニテ勝利ヲ得ルホド功名ヲ擧ケシムルモノアラズト考ヘタルカ故ナリ

羅馬人ガ一國ヲ征服スルヤ、其國ヲ治ムルノ方法手段ハ甚タ寛裕ニシ、宜戰媾和ノ權及其他一二ノ重大ナル特權ハ自カラ之ヲ握ルト雖モ、其他ハ悉ク其國ノ自由ニ任シ少シモ之ニ干渉スル事ナク、自ラ法律ヲ作りテ其國ヲ支配スル事ヲ許シタリ、又人民ニ尙武ノ氣象ヲ獎勵センガタメ、戰爭ニ於テ勝利ヲ得タル將士ニハ凱戰式ヲ舉行シテ其ノ戰功ヲ賞シタリ、此ノ凱陣ノ式タル頗ル華麗ヲ盡シ奢侈ヲ極メ、宏大ナル綠門ヲ立テ、其式場ニハ金銀寶玉ノ裝飾ヲ施コシ、將軍ハ紫色ノ美服ヲ着ケ月桂樹ノ大冠ヲ戴キ、洋々タル軍樂ハ其ノ列ヲ送り、一見人ヲシテ愛國尙武ノ念ヲ強カラシメ、府民ヲシテ此ノ賞典ニ與カルコトヲ以テ隨

一ノ名譽ト思意セシメタリ、而シテ羅馬人ハ雷々ニ武勇ニシテ戰爭ニ長ズルノミナラズ又政事的ノ才能ヲ備ヘ希臘人ニ比シテ學藝技術一般ノ上ヨリ論スルキハ數歩ヲ彼レニ譲リシト雖モ、其國家的學問ニ於テ大ニ長スル所アリ、殊ニ羅馬人ガ法律思想ニ長シタルハ其ノ特殊ノ長所ニシテ、今日開明諸國ノ法律政事學等ハ遙ニ羅馬ノ影響ヲ受クル者多シ

商業上ニ効
績アリヤ

扱テ此ノ如キ非商業的ノ人民ガ、如何ナル影響ヲ商業上ニ及ホシタルヤノ点ハ一ツノ研究ヲ要スヘキ問題ナリトス、抑モ戰爭ト商業トハ共ニ是レ自己ノ有セサル者ヲ得ントスル希望ヨリ發生スルモノナレバ、タゞ其目的ニ於テ云ヘハ素ヨリ異ナル所ナシト雖モ、其手段ニ至リテハ全ク相同シカラガ、即チ一ハ武力ヲ以テ殘忍ヲ極メ、危險ヲ冒シ流血殺傷ヲ賭シテ其目的ヲ達セントスルコアリト雖モ、他ハ安全和親ヨリテ以テ利益ヲ得ントスルモノ、換言スレバ平和的ノ戰爭ニシテ、爭鬪殺伐ノ慘狀ヲ呈スルナク彼我共ニ其幸福ヲ享受シ得ル者ナリ、『シーツ』氏ノ如キハ之ヲ論シテ曰ク馬羅人ガ武威ヲ以テ四隣ヲ壓服スルヤ、此等國民ノ元氣及ヒ國粹ヲ破壊シ、天下ヲ悉ク羅馬風ト化セシメ、人民ヲ奴隸ニシ、以テ文化ノ進歩ヲ妨ケ、商業ノ發達ヲ害シタリ、故ニ商業史上ヨリ論スレバ羅馬人ハ寧ロ有害ナル

國民ト云フ可キモ有功ナル國民ト云フ事能ワザルナリト、又說チナスモノアリ曰ク羅馬ハ當時世界ヲ併呑シタリト雖モ、又實ニ之ガ爲ニ一種ノ平和ヲ維持シタリシナリ、此時ニ當リ若シ羅馬ガ其絶大ナル勢力ヲ以テ四方ヲ壓服スルナクンバ幾多小國ノ間常ニ爭鬪ノ絶ユル時ナク、商工業ノ發達得テ望ム可カラザル事、宛モ彼ノ英領印度ガ數多ノ面積ト、數多ノ人口ト數多ノ產物トナ有シナガラ、獨立自治シ能ワザル如ク、其人種宗教言語ノ異ナルガタメ互ニ軌轢チ事トシ、到底一國ヲ組成スル能ワザリシナラン、故ニ羅馬ナル巨人ノ出テ此ノ爭鬪紛擾ヲ止メタルハ大ニ殖産興業ノ發達ヲ助ケタル者ナリ、蓋シ羅馬ノ征畧以前ニ於テハ彼ノ希臘、以太利、西班牙、「ヒール」、及ヒ「ぶりてん」等ノ諸國ハ各數多ノ獨立國ニ分裂シ、其間攻戰止ムキナカリシガ、一タビ羅馬ノタメニ併呑セラル、ニ及ンデ、其内外攻戰ハ全ク止ミ、復タ爭鬪ノ聲ヲ聞クナキニ至レリ、而シテ元來羅馬ハ專制的國民ナリシモ、決シテ其ノ屬國ニ向ヒ暴虐壓制ヲ加フルコトナカリシガ故ニ、君主ノ虐政ヲ脱センカ爲メ羅馬ノ羈下ニ立タン事ヲ願フ者アルニ至ル、彼ノ羅馬ガ攻服シタル諸國ニ於テ叛乱ノ起リタル事頗ル稀ナルヲ見レバ其屬國ニ對シテ寛大ナリシヲ知ルニ足ラン、是レ羅馬ガ商業上ニ

盡セル大功績ナリト、夫レ戦争ガ商業ヲ妨害スル大ナルノコトハ素ヨリ喋々チ俟タズ、特ニ羅馬ガ希臘チ仆シ「かるセーち」チ亡ボシ、世界ニ於ケル敢爲ノ商業國チシテ元氣ナキニ至ラシメルガ如キバ、明ニ商業ノ進歩チ妨害セル者ニシテ「イーウ」氏ノ論スル處理ナキニ非ラズ、然レドモ羅馬チ目シテ絶對的商業ノ敵ナリシト云フニ至テハ、是レ羅馬チ賤スル酷ニ過グルモノト云ハザルチ得ズ、何トナレバ羅馬ガ武力チ以テ四方チ屈服セシメタル後ニ於テ永ク維持シタルノ平和ハ、商業チ發達セシメタルノ効ナシトナスベカラザルチ以テナリ、蓋シ武勇ニ耽ル國民ハ元來商業ニ從事シテ末利ニ汲々タルガ如キ仕事チナス能ワズ、商業ハ人民チ懦弱卑劣ニ軟化セシムル者ナリト云フ者アリト雖モ、之レ大ナル謬説タルチ免レズ、夫レ商業的の人民ガ戦ヲ避クルニ汲々タル所以ノ者ハ敢テ其勇氣ナキヨリ來ル者ニアラズシテ、其ノ利害得失相償ワザルチ見ルガ故ナリ、其ノ戦争ニ依テ失フ所ハ其ノ得ル所ニ及ハザルチ知ルガ故ナリ、誰カ商業的の人民チ法儒ナリト云フ、余輩ガ上來研究シ來タリタル諸國民中、其ノ商業チ擴張セシガタメ幾多ノ危險チ冒シテ深ク不毛ノ地ニ進入シ、或ハ當時ノ不完全ナル般船チ以テシテ、或ハ當時ノ不精不確ナル器械チ以テシテ、激浪怒濤チ切

リ遠ク其ノ遠征チ試ムル者ハ、非凡ノ豪勇膽氣アルニアラサレバ能ワザルナリ、即チ知ル商業國民モ強チ怯懦柔弱ナル者ニアラザル事チ、然レモ余輩ハ之チ以テ武勇ニ富メル人民ハ亦必ズ商業的の人民ナリト云フズ、只ダ羅馬ハ其武力チ以テ四方チ平服シ、永ク平和チ維持シテ商業發達上ニ有功ナル効果チ與ヘタリト云フニ止マルノミ、加之ナラズ羅馬人ガ其ノ平和チ維持センガタメニ施コシタル計畫ハ、計ラズモ大ニ商業ノ發達チ促ガシタリ、即チ彼ノ有名ナル道路ノ如キ、驛馬ノ如キ、其ノ他交通ノ便チ計リタル凡テノ工事ノ如キ其ノ征服シタル諸國ニ都府チ建設シタルガ如キ、人民チ教化シ學術チ傳ヘタルガ如キ之レナリ、故ニ余輩ハ羅馬人チ以テ必ズシモ商業史上有害ナル國民ト見認メザルナリ、蓋シ羅馬ノ古代ニ溯リテ之チ尋ヌルニ、以多利ハ曾テ他國人ニ供給ス可キ一ノ產物チ出スナカリシト雖モ、其農業ハ羅馬人ニ向ツテ日用欠ク可カラザル一切ノ物品チ供給スルニ足レリ而シテ初メハ國民毫モ榮耀品チ好尙スルノ趣味チ解セザリシガ、其ノ四方チ攻零シテ漸ク富裕トナルニ及ビ、初メテ富ニヨリテ得ラル可キ愉快チ感知シ、家屋什器ヨリ衣服食物ニ至ル迄悉ク奢侈チ極メ、且ツ武名戰功ハ一般人民ノ大望トナリ、遂ニ農夫モ其鋤耨チ

奢侈

テ戰場ニ赴クノ有様トナリシガ故ニ、商業モ亦次第ニ衰エ多クノ奢侈品ハ勿論、兵士ヲ養フ食品スラ之ヲ他ヨリ仰カザル可カラザルニ至レリ、サレバ羅馬ノ奢侈ハ又他ノ諸府ノ模倣スル所トナリ、其公堂寺院ノ壯麗ナル、其都民住家ノ美麗ナル、實ニ今人ヲシテ驚嘆セシムルニ足り、彼ノ「スコラス」ノ如キハ嘗テ八万ノ看者ヲ容ル、ニ足ル可キ圓形ノ劇場ヲ建設シ、之ニ高價ノ大理石、玻璃柱、及渡金柱三百六十本ヲ使用シ飾ルニ三千有余ノ肖像ヲ以テシタリ、又羅馬人ノ住家ハ稍小ナリシト雖モ、其ノ構造及ヒ家具ニ費ス所ハ實ニ巨額ニシテ實ニ今人ノ思ヒ及ハサル所、只ダ一ケノ卓子ト雖モ其價一都府ヲ陷レテ掠奪シタル財産ヲ超過シタル者アリト云フ

其他郭外及ヒ田舎ノ別荘ニ至ル迄羅馬奢侈ノ風ヲ移シ、其浴室ハ宏大ナル區域ニ亘リ、繞ラスニ廣大清雅ナル庭園、遊技場、園園等ヲ以テシ家室ハ其數實ニ多ク一月ノ内ト雖モ日夜且暮其居ヲ異ニシ、又一歳ノ中春秋其處ヲ異ニシタリ、而シテ羅馬ノ奢侈榮華ハ帝政ノキニ當テ其極度ニ達シ、以上ノ如キ奢侈ニ加フルニ飲食ノ美ヲ以テシ、孔雀、鶴及ヒ鶯等皆貴人ノ卓上ニ上ルニ至レリ

商業

「ローマ」人ハ前ニ述ベタル如ク商業ヲ好マザル國民ナリシト雖モ、商業ノ必要ヲ認ムルガ故ニ全ク之ヲ廢スル事能ハズ、殊ニ彼ノ如キ大國ノ首都ナル羅馬ノ「ローマ」を「ローマ」が「すたす」時代ニ當リテハ百八十萬ノ人口ヲ有シテ自ラ世界貿易ノ中心トナリタリ、蓋シ何レノ國ヲ問フズ、首府ト諸州トノ間ニハ交通ノ便概ネ容易ナレド、諸州相互ノ間ニ於ケル交通ハ之ニ比シテ迥ニ困難ナルモノナリケレバ、諸州各其產物ヲ首府ニ送り、首府ハ更ニ之ヲ各州ニ分配スルモノナルガ故ニ、自ツカラ諸州產物ノ一般市場トナルモノトス、勢此ノ如クナルヲ以テ羅馬人ハ商業ヲ好マズ、勞力ヲ卑シメタリト雖モ、奴隸ヲ使役シテ以テ商業ヲ營ミタリシコト疑フ可カラザル事實ナリ、故ニ當時奴隸ハ羅馬人ニ取リテ必要欠ク可ラザル者ナリシト云フベシ又或ル歴史家ノ傳フル所ニヨレバ「ローマ」が「すたす」ノ時代ヨリ五十年前ニ於テ、既ニ八万人ノ以多利商人小亞細亞ニ移住シタルコト、又「ローマ」及ヒ「セ」の「まん」人種ノ中ニ交リテ商業ニ從事シタルモノアリシ事等ヲ記載セリ、猶ホ「ローマ」が「すたす」等ノ説ク所ニヨレバ羅馬ヨリ年々百二十艘ノ商船ヲ印度ニ向テ出船セシメタリト云ヒ、又或説ニハ「ローマ」が「すたす」ノ權力ヲ爭フタル「ローマ」が「すたす」海「ローマ」

んだす」河及ビ「バくとりわ」等ヲ利用シテ印度地方ニ商業的遠征ヲ試ミタリト、然レモ之等ハ羅馬人自身ガナシタル事ニアラズン他國ノ人民ヲ使フテナシタル事ナリト云モノモアリ、何レニスルモ此等商業上ノ資本ハ重ニ羅馬商人ノ手ニアリシコト明カニシテ現ニ「しせろ」ノ如キハ大言シテ曰ク「なるばねんしす」ニ流通スル貨幣中一錢ダモ羅馬ノ貸金帳ニ記載セラレザル者ナシ云々（なるばねんしす）ト、以テ其ノ資本流通ノ區域廣大ナリシ事ヲ知ル可シ、又羅馬ガ工業上ニモ多少發達セル事ハ彼等ガ商業組合ナル者ヲ組織セシ事ヲ以テ之ヲ察スベシ、此ノ組合ナル者ハ「めるきゆーりー」ナル神ノ保護ヲ仰グヲ以テ其ノ目的トシ、恰モ中世ニ於ケル商業組合ガ「セーんど」ヲ信仰シテ其保護ヲ仰ギタルガ如シ、之ニ加入スル者ハ重ニ奢侈品ヲ製造者ニシテ彫刻師、染物師、「れーす」製造人、金銀細工人等トス、又織物陶器等ノ工業モ羅馬并ニ其他ノ市府ニ於テ行ワレ、「ぐらす」製造、紙製造等モ盛ナリシガ之等ハ羅馬ニ滞在スル外國人ノ從事セルモノ多カリシガ如シ、殊ニ紙製造ト附隨シテ書籍業大ニ榮ヘ奴隸勞力ノ低廉ナルト、當時讀者ノ僅少ナルトニヨリ其ノ價モ亦大ニ低廉ナリシト云フ、

工業

輸入超過

羅馬ハ此ノ如ク盛大ナル首府ナリシト雖モ、其ノ交易ハ重ニ輸入ノミニシテ、僅ニ前ニ述ベタル製造品ノ外ニ劣等ナル葡萄酒、羊毛、蜂蜜、硫黃等ノ輸出セラル、アリシモ、其ノ分量ハ實ニ僅少ナリ之ニ反シメ輸入ハ其種類價格共ニ多ク、羅馬ハ恰モ多量ノ貨物ヲ吸集蓄積スル一大倉庫ノ如キ狀況ヲ呈セリ、而シテ此ノ貿易不平均ヨリ生ズル輸入ノ超過額ハ現金ヲ以テ之ヲ拂ヒタリシガ、此現金ハ羅馬ガ諸州ヨリ得タル貢納金タルニ外ナラズ、故ニ畢竟全國ノ歲入ハ都テ羅馬ニ於テ商品ノ買入ニ費ヤサル、モノニシテ、彼ノ他國ニ於テ廣大ナル領地ヲ有セル富裕ノ輩ガ、其貢稅又ハ地代トシテ得タル金錢ノ如キモ亦其ノ產物ノ買價トシテ再々ヒ諸國ニ戻リ行キタリ、乃チ羅馬ハ「しゝりー」埃及ノ二國ヨリ重ニ穀類ヲ得、北チ「バるちつ」海地方ノ蠻族ヨリ琥珀ヲ得、「まるた」ヨリ美麗ナル織物ヲ輸入シ、東印度ヨリハ香料絹糸及ヒ寶石ヲ輸入シ、其他諸工業品高價ナル美術的製作品、及ヒ諸礦物、農產物食物、菓物等、諸州ヨリ輸入シタル者一々之ヲ牧擧スルニ暇アラズ、サレバ羅馬ノ商業ハ全ク輸入品ノ交易ニシテ、自國ハ各種ノ物品ヲ享収セシモ他ニ向テハ曾テ殆ント一物ヲモ輸出スルコトナシ、即チ金銀ノ外何物ヲモ輸出セザリシノミナラス、此ノ金銀モ其初メハ之ヲ諸

州ヨリ得タル者ニ外ナラズ、而シテ羅馬ガ國庫ニ得ル所ノ歲入額ハ億巨萬ニ達シ、二三府民ノ私産ト雖モ、近時二三王國ノ右ニ出デタリ

海上貿易

之レ等ノ外國商品ハ一ハ海運ノ便ニヨリ一ハ陸運ノ便ニヨリテ、各羅馬ニ輸入セラレタリシガ、其海運ヨリスルモノハ下ニ述ブル三港ヨリ輸入セラレタリ、即チ「ピリス」及ヒ北部以太利ノ物品ハ「ありみちむ」港ヲ利用シ、亞弗利加、西班牙、「えじぶと」並ニ東洋諸國ノ物産ハ「おすちわ」^{オスチワ}「ぶてあり」ノ二港ヲ利用シタリ、「おすちわ」港ハ港内小ニシテ大船巨舶ヲ多ク碇泊セシムルニ足ラザリシガ、「ぶてあり」^{ブテアリ}帝ハ運河ヲ設ケテ之ヲ「ぶてあり」港ニ通シ、曳船ヲ以テ相往來スル事ヲ得セシメタリ、然リト雖モ羅馬ノ重ナル商業ハ海上貿易ニアラスノ寧ロ其陸上貿易ナリシナリ、是レ彼ノ有名ナル公道アリシニヨル、蓋シ「ろーま」ノ政畧トシテ一國ヲ從ヘバ直チニ其ノ國ニ國道ヲ造リ、以テ之ヲ首府ト連結シ、此ヲシテ恰モ今日ノ鉄道ニ似タル用ヲナサシメタリ、此等ノ國道ハ非常ノ勞力及ヒ入費ヲ以テ造ラレタル「ろーま」工事ノ最大ナル者ニシテ、「じぶらるたる」ノ海峽ニ起リ「ゆーふれー」^{ユーフレイ}「河」ニ至リ、且ツ埃及ノ南界帝國ノ極端ニ達シタリ、此ノ道路ハ最モ堅固ナル石材ヲ以テ敷設セラレタ

陸上貿易

ルニヨリ、今日ニ至ルモ猶ホ存スル所アリ、現ニ英國ニ於ケル「けんど」^{ケンド}海岸ヨリ倫敦ヲ經テ「かちがはん」ニ至ル道路ハ即チ「ろーま」道路ノ遺跡ニシテ實ニ英國中最良ナル者ナリトス、其幅員頗ル廣クシテ二輛ノ馬車互ニ相通過スル事ヲ得、其ノ石ハ一英方尺乃至五英方尺ノ者ニシテ大小不同ナリシモ、接合精巧ニシテ平滑恰カモ一枚ノ如シ、其ノ下ニハ總テ三英尺ノ厚サアル二重ノ地層アリテ、第一ノ者ハ煉化灰^{シッコイ}ニテ接合シタル粗石ヨリナリ、又其ノ第二層ハ細カキ砂ヲ以テ成立セリ、其ノ兩側ニハ通例歩行者ノ爲メニ設ケラレタル稍大ナル石ノ一列アリ、而シテ此道路ハ平地ヨリ高ク作ラレタリ

道路

此ノ道路ヲ布設シタル主眼ノ目的ハ勿論軍事上ノ必要ニ基ク者ニシテ「ろーま」ガ帝國トナル前既ニ以太利國內ハ云フニ及バズ、猶ホ以多利ノ海岸ヨリ佛國并ニ西班牙ニ達スル軍用道路ノ設ケアリシガ「おーがすたす」^{オーガスタス}帝ノ世ニ至リ大ニ之ヲ改良擴張シテ、四通八達、羅馬國ノ絶大ナル範圍中至ル所此公道ヲ敷設セリ、然レモ此等ノ道路ハ平時ニ於テハ大ニ商業上交通ノ便ヲ與ヘシカバ、陸上貿易ヲシテ頗ル盛大ナラシメタリ

「ぶらんき」氏曰ク「ろーま」人ガ公道ヲ布設シタル目的ハ單ニ有事ノ日、其首府ヨリ國境

ニ向ツテ急速ニ軍兵ヲ繰リ出スノ便ヲ得ンガ爲メノミ、之ヲ一言スレバ此公道タル征服ノ一機械ニ過ギスシテ決シテ商工業上ノ用ヲナサザリシナリ、世界ノ何レノ國ヲ尋ヌルモ此ノ如キ大工事ヲ起シタルモノナク、又此ノ大工事ノ如ク人民ニ利益ヲ與ヘザリシ者アル事ナシ、其故ナシ他ナシ「ローマ」人ノ職業タル只ダ農業ニ從事スルノミニ、之ニ依テ産ズル農産物ハ悉ク其地方若クハ極メテ狭少ナル範圍内ニ於テ消費セラレ、大仕掛ノ商業ト云フ可キ者ハ「スジブと」及ビ「シリ」ヨリ多量ノ穀物ヲ首府ニ輸送スル事アリシノミ、而シテ之等ハ皆海上ヲ以テ運送セラレシガ故ニ内地ノ道路ハ商業上何等ノ功益ヲ與ヘザリシト、之レ其ノ一ヲ知テ未ダ二ヲ知ラザル者、請フ余輩ヲシテ此絶大ナル帝國ガ産出スル貨物ヲ研究セシメヨ、其決シテ農産物ノミニ限ラレザリシ事、及ビ此ノ道路ガ決シテ無用ノ長物ニアラザリシ事ヲ知ルニ足ラン

産物

先ズ西部ヨリ云フニ、「ローマ」地方ニ産ズル者ハ酒類、「チヤン」、粟、羊毛、敷物、金屬、織物等ニシテ、「バビロン」ハ盛大ナル製造市府アリ、「シリ」ニ産ズル者ハ多量ノ穀物、羊毛、蜂蜜、彫刻物、及ビ有價ノ毛布等ニシテ、「ローマ」ハ「ローマ」ニ産ズル者ハ羊毛及ビ金屬ニシテ、穀物、家畜、革皮、奴隸

名ヲ著ハセリ、西班牙ニ於テ最モ有名ナル者ハ羊毛及ビ金屬ニシテ、穀物、家畜、革皮、奴隸等之ニ次ギ其他各地ヨリ産出スル者一々枚擧ニ暇アラズ、而メ「ローマ」地方ニ於テ最モ重要ナル港ハ「なるばーん」及ビ「まるせーる」ノ二港ナリシガ内地ニ於ケル諸都府ハ概テ皆之ニ通ジ「なるばーん」「りふん」「あーる」「にーむ」を「たん」其他諸市府ニ於ル産物ハ皆「ローマ」ノ道路ヲ利用シテ此ノ港ニ集リ、以テ首府ニ輸送セラレタリ、加之英國ノ鉄、革皮、眞珠等モ悉ク「ローマ」地方ヲ經過シ「ローマ」ノ道路ニヨリテ先キノ二港ニ集マリタリ、更ニ眼ヲ轉シテ東方ヲ看察スレバ又西部ニ於ケルト同ジキ者アルヲ知ル、蓋シ當時小亞細亞ノ諸都府ハ希臘ニ於ケル諸都府ヨリモ遙ニ繁盛殷富ノ域ニ達シ其數五百ニ垂ントシ、皆盛ニ製造ノ業ニ從事シ就中「みれたす」ノ毛布、敷物、其ノ他種々ノ技術品、金銀ノ細工物、「シリ」ノ鉄器、「ひーらばりす」ノ陶器、染物等ハ其ノ最モ有名ナル者ナリシガ、此等ノ諸市ハ皆此製造品ニヨリテ其商業ヲ盛ニシ、其商業ハ亦多ク羅馬ノ道路ニヨリテ行ハレタリ、殊ニ「スジブと」ヨリ「スジブと」ニ達スル道路ノ如キハ最モ要用ナル者ニシテ之ヨリ「シリ」「あーる」ヲ經テ「ペルシヤ」灣ニ達シ「バビロン」ノ織物、敷物、及ビ東洋ノ諸品ヲ輸送セリ、

飛脚制度

勿論農産物及海産物ハ要用ナル商品ナリシガ故ニ海上貿易盛ナリシコト疑ナシト雖モ、其製造物モ亦商業上重要ナル位置ヲ占メ大ニ陸上貿易ヲ發達進歩シタルヤ疑フ可カラザル事實ナリ、彼ノ「ローマ」道路ヲ目シテ無用ノ長物トスルガ如キハ余輩容易ニ之ニ賛スルヲ能ワザルナリ、此ノ道路ニ次ギテ注意スベキ者ハ、通信飛脚ノ設ニシテ之レ恰モ今日ニ於ケル郵便ノ用ヲナシタリ、即チ馬、馬車、又ハ人ヲ以テ一地ニ通信ヲ傳フルノ仕組ナリ、抑モ初メテ此通信飛脚ヲ工夫シタル者ハ彼斯王「サイラス」ナルガ「おがすたす」帝ハ之ヲ改良擴張シ、時間表ヲ制シテ規則正シク之ヲ行ヘリ、而シテ此ニ關スル入費ハ各地方ノ負擔ニシテ、或ハ此ニ向テ苦情ヲナラヌ者モアリシト雖モ、「ローマ」ハ其ノ勢力ヲ以テ之ヲ壓服シタリ、蓋シ交通ノ便ト通信ノ安全、迅速、且ツ自由ニ行ワザル可カラザルハ「ローマ」帝國ノ政界上第一ニ必用ナル事件ニシテ「ローマ」ガ其ノ勢力ヲ久シク保チタリシハ其ノ効大ニ此ニ存スト云フ可キナリ、此事タル獨リ「ローマ」國ノ利益ノミニ限ラズシテ、又凡テノ屬國ヲモ利益シ、依テ以テ平和的技術ノ進歩ヲ促ガシ商業文明モ之レト共ニ大ニ發達シタリ「ローマ」ノ人民ハ他ノ古代諸國ト同シク初メハ鑄造セラレタル貨幣ヲ有セズ、唯貨物ト

貨幣

貨物トナ直接ニ交換シ、若シクハ鑄造セラレザル黃銅ヲ量リテ之ヲ以テ交換ノ媒介トナシタリ、後世ニ至リテ貨幣ヲ鑄造シ「リブリー」「そりぢー」等ノ名稱ヲ用ヒL.S.D.等ノ頭字ヲ以テ貨幣ノ記號トナシタリ、英國ニ於テ今日磅、志、片表ヲス L.S.D.ノ字ヲ用ユルハ、蓋シ羅馬ノ制ニ基ケル者ナリ

銀行

「ローマ」ニ於テハ銀行事務モ亦多少行ワレ、國立、私立、貸付銀行ノ三種アリタリ、蓋シ政府或ハ富貴ノ輩ハ皆其歲入ヲ銀行ニ拂ヒ込ミ之ニ宛テタル小切手ヲ振り出シテ債主ト其ノ貸借ヲ決算シタリ、而シテ私立銀行ニ於テハ多少輕蔑ヲ受ケタレト國立銀行ノ政府ヨリ出納役トシテ任命セラレタル輩ノミハ頗ル高貴ノ地位ヲ占メタリ、貸付銀行ハ無利息ニテ貧民ニ金ヲ貸シ與フルノ制ナリ、尤モ之ニハ相當ノ抵當ヲ入レシメタリ、但シ此等ノ銀行ハ決シテ今日ノ如キ銀行事務ヲ行ヒタルモノニハ非ズ當時「ローマ」ニ於テハ太古ノ他ノ諸國ニ於ケルガ如ク、貸金ニ對シテ利子ヲ附スル事ヲ以テ非常ニ不都合ノ所爲トナシ、且ツ不法ノ事トナシタリシガ、斯ル國ニ於テハ銀行事務ノ決シテ尊敬セラル、ヲ得ザルハ止チ得ザル事トス、此事タル今日ヨリ考フルハ實ニ謬想愚見ノ甚シキモノニシテ却テ利子ヲ拂

利子ニ關スル謬説

ワザルコソ不法不都合ナリト云フ可シト雖モ、中古ニ於テモ猶有名ナル學者等ノ之ヲ非難シテ宗教上道德上許ス可カラザル者トナシ、甚ダシキハ寺院法ニ名文ヲ掲ケテ之ヲ禁ジタルヲ見、或ハ太古ニ於テ有名ナル經濟學者「ありすと」とる」ノ如キモ猶ホ此ノ点ニ於テハ同一ノ謬説ヲ抱キタルヲ見レバ、幾分カ恕ス可キ点ナキニシモアラザルナリ、氏ノ語ニ曰ク金ハ金ヲ生マズト之レ或ル点ヨリ見レバ或ハ然ラン、然レドモ之ヲ以テ貸金ニ向ツテ利息ヲ附スルハ不可ナリト云フハ實ニ誤レル者トス、蓋シ金錢ハ之ヲ利用セザレバ増加スルコトナカル可キモ、苟クモ他人ヨリ金錢ヲ借ル必ズヤ之ヲ利用スルノ目的ヲ以テ斯クスル者ニ相違ナカル可シ、彼ノ「べんざじ」ノ云ヘルガ如ク金錢ヲ其ノ儘ニ放棄シテクハ増加スル事ナキハ素ヨリ明カナリト雖モ、今試ニ之ヲ以テ羊一雙ヲ買フキハ、數年ノ後數百倍ノ羊ヲ得可シ、而シテ賣却スル時ハ初メニ於ルヨリモ幾百倍ノ金錢ヲ得ベキナリ、然ラハ生命ナキ貨幣ト雖モ、之ヲ利用スルキハ其生殖スルコト論ヲ俟タズ、而カモ中世ニ於テ猶ホ此謬説ノ去ラザリシハ彼ノ聖書中利息ヲトル事勿レト云フ一句アルヨリ來リタル者ナラン、然レドモ聖書ニ於テ斯ク言フハ一般ニ利息ヲトル事ヲ禁ジタルニアラズ、交情ノ厚キヲ示シ

タル場合ニ適用セシ者ナリ、去レバ他ノ部分ニ於テハ何故ニ銀行ニ預ケテ利ヲ取ラザルヤト云フ反對ノ字句ヲモ見出シ得ベキナリ、然ルニ當時人民ノ愚昧ナル聖書中ノ字句ヲ誤解シ之ヲ以テ神聖唯一ノ教訓ナリト信シタリシカハ銀行事務モ亦從テ十分ノ發達ヲナス事能ワザリシナリ、希臘人が太古ニ於テ既ニ領事制ヲ興シ、國際間ノ問題ヲ處理シタルコトハ予輩ノ嘗テ記述スル所アリシガ、「ろーま」ニ於テモ初メハ之ニ倣ツテ各國間ニ條約ヲ結ビ領事ヲ脈遺シテ實際問題ヲ處理シタリト雖モ、既ニ各國ヲ併呑シテ之ヲ自國ノ範圍中ニ入レタリシ後ニ於テハ、各地トノ間ニ發生セル諸問題ハ最早國際問題ニ非ズシテ自國內ノ問題ニ屬スルカ故ニ、一般普通法ヲ以テ此等ヲ處置スルニ至レリ、紀元後三百三十年「こんすたんちん」帝「びざれちあむ」ヲ再建シ、命スルニ己レノ名ヲ以テシ、之ヲ羅馬帝國ノ首府トナセリ、然レドモ「ろーま」府ハ猶一朝ニ衰フル事ナク、長ク大都タルノ位置ヲ保チタリ、去レバ「ろーま」帝國ハ爾來別レテ東西ノ二部トナリ、一時ハ東西相併立セシガ其人民強盛ノ極遂ニ驕奢浮華ニ流レ、又昔日ノ「ろーま」國民ニアラズ、

一朝北方勇敢ナル人種起ルニ及ンテ終ニ其亡ボストコロトナレリ
以上述ヘタル所ニヨリテ見ルトキハ「ろーま」人ハ元來非商業的ノ人民タリシニモカ、ワラ
ズ、商業ノ進歩發達ヲ促カシタルコト頗ル多ク、又大ニ一般社會ノ文化ヲ進メタリ、實ニ「ろ
ーま」一統ノ時代ハ社會ノ事物ヲシテ進歩發達ノ途ニツカシムル一期間ナリシト云フ可ク、
此非商業的ノ人民ニシテ商業上意外ノ進歩ヲ來シタルハ争フ可カラザル事實ナリトス、然レ彼
ノ北方蠻人ノ起リテ歐洲ヲ蹂躪スルヤ、社會ノ組織ハ紊乱混雜ノ極ニ達シ「ろーま」時代ニ
於テ發達シタル商工業ハ全ク破壊セラレタリ、余輩請フ之ヲ次篇ニ述ベシ

第八章 太古商業ノ概論

商業ノ生レ落チシハ何レノ處ナルヤ、或ハ支那ノ沃土ト云ヒ、或ハ印度ノ平野ト云ヒ、或
ハ「ちいる」ノ貫流スル所ト云ヒ、「たいぐりす」ゆゑふれちす」ノ灌溉スル所ト云フ、諸
説紛々之ヲ知ルニ由ナシト雖モ、之ヲ究ムルハ左程必要ノ事ニアラズシテ、縱令其内何レ
ヲ以テ誕生ノ産地ナリトスルモ、商業一生ノ行旅ハ西ヲ指シテ進メルニ相違ナキナリ、亞

悉利亞、巴比倫尼亞、「ふるゑにしわ」、埃及、希臘等ノ諸國ハ實ニ彼レガ行旅ノ大道ニシテ
羅馬ハ彼レガ到着セル最後ノ驛次ナリ、商業ハ此處ニ於テ太古ノ旅行ヲ終ヘ、其ノ疲勞ヲ
休メタル後、中古ノ行程ニ上リ、先ツ以太利市府ヲ見舞ツテ、北ノ方「べるちつく」海邊ニ
遊ビ、近世ノ未明ヲ待チ再ヒ南シテ西班牙半島ニ趣キ、更ニ北轉「ねーせらんど」ニ到リ、
是ヨリ西シテ「ふるてん」ノ嶼ニ達ス、予輩ハ本編ニ於テ其第一期經歷ヲ國別ニ叙述シ、筆
ヲ羅馬ニ留メタリシガ、今ヤ再ヒ概況ヲ記述シテ以テ其欠ヲ補フ所アラント欲ス
夫レ商業ニ數種ノ階級アルコトハ予輩ノ既ニ記述セシ所ニシテ、今ヤ又之ヲ喋々スルヲ要セ
ズ、サレハ埃及人ハ「ちいる」ヲ利用シテ沿河貿易ヲ行ヒ、亞刺比亞人ハ隊商ヲ利用シテ陸
路貿易ヲ行ヒタリ、然リト雖モ沿河貿易、陸上貿易ハ共ニ以テ未ダ商業ノ區域ヲ廣カラシム
ルコト能ハザルナリ、「ふるゑにしわ」商民出テ、盛ニ沿海貿易ヲ行ヒ、或ル点ニ於テハ又遠洋
貿易ニ一步ヲ進メタルニ及ヒ、商業ノ區域ハ著シク擴張シテ、「たいる」及ヒ「しどん」ニ
府ハ活潑ナル貨物流動ノ燒點トナリ、地中海邊始メテ燦爛タル偉光ノ發揮セルヲ見ル、世
人ガ「ふるゑにしわ」ヲ目シテ商業ノ鼻祖ト稱スル所以ノモノ豈ニ偶然ナランヤ、彼レガ地中

海ヲ以テ運動ノ本陣トナシ、勇敢進取四方ニ向フテ海上ニ雄飛スルノ時ニ當リテハ、陸上及ヒ沿河ノ貿易ハ自ラ其勢ヲ失シ、海上貿易ヲ補助スル連鎖トシテ漸ク存在スルノミ、猶太ト「ふろにしや」トノ關係實ニ爰ニアリ、

希臘羅馬ノ二國漸ク盛トナルニ當リ、亞弗利加北岸ニハ「カイセイヂ」ノ興起スルアリ、「カイセイヂ」ハ波斯戰爭ノ影響ヲ受ケテ「ふろにしや」ノ衰弱セルニヨリテ重要トナリ、亞歷撒亞港ノ設立アリテ競争ノ發生セルガ爲ニ重要ナラザルニ至レリ、亞歷撒港ハ亞歷撒大王ノ設立セル所、王ハ之ニ依リテ「ないる」ノ河口ヲ扼シ、先ヅ以テ之ヲ西南ノ要處トナシ、更ニ「いんだす」ノ河口ヲ奪ツテ之ヲ東南ノ衝路トナシ、巴比倫ヲシテ其間ニ於ケル一大市場タラシメ、希臘ヲノ中央首都タラシメ、爰ニ一大商業帝國ヲ作成シ、已レ自カラ其ノ主權者タラントスルノ大計畫ヲ起セシモ、不幸ニシテ偉業半途ニ仆レ、此計畫ハ謀ラズモ終ニ羅馬ノ實行スル所トナレリ、羅馬ノ國民ハ尙武ノ氣概ニ富ミテ戰鬥ヲ好ミ、商業ヲ輕蔑スルヲ甚シカリシト雖モ、道路ノ修繕、橋梁ノ架設等ニヨリ運輸ノ便利ヲ附與シ、數國ノ統一ニヨリテ國權ノ墻壁ヲ減少シタルガ爲メニ、却テ商業ヲ進歩セシメタルノ効績ナキニ非

商業ノ範圍

ラズ、然リト雖モ太古ノ商業ハ其最モ盛ナル時ニ於テスラモ北緯十度ヨリ四十度ノ間ニ行ハレタルノミ、歐羅巴南部ノ人民ハ「あるぶす」山ヲ隔テ、其北ヲ知ラズ、地中海岸ヨリ「あるぶす」山麓ニ到ルノ間ニ存在セル一帯ノ狭地ハ、僅ニ歐州商業ノ舞臺ヲナシタリト雖モ氣候地味殆ント變化ナシ、産物ノ種類畧ホ相類似セルガ故ニ、地方的交換亦決シテ盛ナリト云フベカラズ、北部ハ僅カニ錫、琥珀ノ二品ヲ南方ニ輸出セリト雖モ、其人民蒙昧寡慾ニシテ南部貨物ヲ消靡スルヲ大ナラズ、只ダ硝子製裝飾品ヲ輸入シテ以テ満足ヲ表シタルノミ、而シテ歐州全体ニ於ケル生活ノ程度尙ホ甚ダ低下ニシテ、食品種類ノ如キ之ヲ今日ニ比スレハ其半數ダニ達セズ、彼ノ驕奢ヲ極メ華美ヲ盡シタリト稱セラル、希臘羅馬ノ人民ト雖モ、其食物ヲ列擧セシムレハ魚類、肉類、牛乳、蜂蜜、橄欖、パン、葡萄酒等ニ過キズ、此等ノ商品ハ容積ノ大ナル者ニ非スンバ持久ノ性質ヲ欠クモノ多ク、到底遠路ノ運搬ニ適セザルガ故ニ隊商ニ托シテ熱帶地方ヲ通過セシムルヲ能ハズ、左レハトテ之ヲ船舶ニ積載シテ水運ニ托センカ、當時ノ船舶ハ決シテ今日ノ如ク大容迅速之レカ運搬ニ適スル程ニ發達セルモノニアラズ、故ニ此等ノ貨物ハ只僅カニ近隣地方ニ運搬交易セラレタルノミ、爰ヲ以

歐亞ノ關係

テカ商業ノ區域甚々狹少ニシテ、若シ東方亞細亞トノ貿易ヲ除却シ去ラハ、歐洲商業ト云フモノ殆ンド之ヲ見ルコト能ハザルナリ、亞細亞ハ先進ノ邦土ニシテ、世界ノ文明ニ參助セルコト歐洲ヨリモ早ク數多ノ奢侈品ヲ供給セルモノナリト雖モ、其人民不活潑ニシテ進取ノ氣象ニ乏シク商業上ニ在リテハ多ク受動的的地位ニ在リシカバ、後年歐洲ノ乱ル、ニ及ヒ歐人對外ノ運動中絶セル時ニ際シテハ、東西兩洋ノ關係殆ンド其跡ヲ喪ヘルニ至レリ、商業ノ關係スル所ハ深且ツ大ナリ、地理人情風俗宗教學術政治等ノモノ皆是レ商業發達ヲ左右スルノ原因タラザルハナシ、然ルニ太古ニ於テ予輩ノ最モ注意スベキモノハ宗教ノ關係最モ密接ナリシコト是ナリ、試ニ古代商業ノ中心トシテ有名ナル諸市ヲ見ヨ、「バビロン」ト云ヒ、「たいる」ト云ヒ亞歷撒亞ト云ヒ、「かるせーぢ」ト云ヒ、雅典ト云ヒ、又ハ羅馬ト云フ、皆是レ有名宏壯ナル殿堂ヲ有セザルハナシ、而シテ下ツテ劣等市場ヲ觀ルモ亦神堂ノ設アラザルハナシ、蓋シ草昧未開ノ人民ハ最モ宗教ヲ迷信スルモノニシテ、彼等ハ有名ナル殿堂ニ參詣シ未來ノ冥福ヲ祈願スルヲ以テ無上ノ快樂トナシ、亦一生ノ義務トナス、爰ヲ以テ有名ナル寺院ノ存在スル所ハ必ラズ巡禮者ノ來趣スル所トナリ、各國人民ノ一處ニ

都會ト神殿

祭禮ト開市

蟬集スルヤ商業必ス發生ス、茲ニ於テカ巡禮者ハ商業ヲ兼テ此處ニ趣キ、其利潤ヲ以テ巡禮ノ費用ヲ償ヒ得ルノ便利アリ、單ニ商業ヲ專ラトスルモノモ亦業務ノ傍ラ高尙ナル宗教上ノ觀念ヲ受了スルノ利益アリ、斯クシテ有名ナル殿堂ノ存在スル所ハ又必ズ有名ナル商業市場トナルニ至レリ、「フェアー」(定期市)ノ興起セル所以モ亦此レト同一ニシテ、昔ヨリ盛大ナル祭禮ハ概テ又盛大ナル定期市ノ舉行ト相隨伴ス、「おひんびあ」祭禮ノ如キ特ニ其最モ著明ナルモノトス、夫レ太古ノ如ク交通ノ便利容易ナラザル時ニ當リテハ各國人民一時ニ相會シ各種ノ貨物一處ニ集マルガ如キハ至難ノ業ニ屬スト雖モ、唯夫レ「フェアー」ノ利用アリシガ故ニ能ク此ノ目的ヲ達シ得タリ、去レハ「フェアー」ハ太古ニ於テ商業上最モ有効ナル機關トナリテ、恰モ現今ニ於ケル萬國大博覽會ノ如キ效果ヲ奏シ得タルモノト云フベク、人民ガ之ヲ利用スルノ方法亦甚勉メタリト云フベシ、現今萬國大博覽會ヲ開カントスルニ當リ、萬國人民ト萬國貨物ノ集來ヲ誘引センガ爲メ充分ナル便利ヲ計畫案出スルト同シク、太古ノ「フェアー」ハアラユル誘因ヲ備具シテ以テ各國人民ヲ引附ケタリ、去レハ祭禮其ノ物ノ盛大ナリシハ論ヲ俟タス、老幼婦女ニ向ツテハ輕業觀セ物アリ、公子貴

銀行事務ト
寺院

人ニ向テハ競馬競技相撲アリ、學生壯者ニ向ツテハ講談演説アリ、而シテ酒樓食店ハ以テ遊治子ヲ招クベク、珍品奇貨ハ以テ商人ヲ呼ブ可ク、娛樂ノ方法概チ備ワリ、遊戯ノ利便殆ント盡クセリ、而シテ此等ノ市場ガ商業上ニ與ヘタルノ効益ハ非常ナリシノミナラズ、同時ニ又文明宗教學術等ヲ傳播セシムルノ効能アリシコトハ明カナル事實ナリトス、宗教ガ商業上ニ與ヘタルノ効益猶ホ記スベキモノアリ、蓋シ諸方ノ人民ガ一處ニ禮拜參集スルノ時ニ當リテハ、種々ナル貨弊ヲ攜帶シ來ルモノニシテ、之ヲ寺院ニ納附シ市場ニ散布スルヤ、必要上自ツカラ兩替ヲ業トスルモノヲ發生セシメタリ、斯クシテ專ラ貨幣取扱ヲ業トスルモノ起リ、其發達スルニ及ンテハ終ニ今日ノ銀行事務ヲ行フニ至レリ、加之寺院ナルモノハ常ニ各人ノ認メテ以テ神聖犯スベカラズトナス處、貴重ノ物品ヲ貯藏スルニ當テ安全是レニ勝ルモノナシ、爰チ以テ寺院ハ終ニ人民蓄財ノ保管處トナリ、今時盛ニ行ハル、預金制度ナルモノハ實ニ其起源ヲ此處ニ有セリ、宗教ノ關係豈淺少ナリトセンヤ

太古商業國ガ盛衰興亡ノ階級ヲ追究スルニ、概チ皆其覆轍チ同クセザルハナシ、其幼時ニ在テハ、人民皆チ起業ノ精神ニ富ミ、勇敢進取商利ヲ求メテ倦マザリシガ故ニ、國漸ク富ミ

興敗存亡其
軌ヲ同クス

家榮ヘタリ、然リト雖モ彼等ハ壯年ニ至リ國富ミ家榮ユルニ及ンテ、奢侈ノ念チ起シ外觀ノ修飾ヲ嗜メリ、而シテ驕奢ハ驕奢ヲ顯ハス毎ニ進ミ、富貴ハ富貴ヲ得ル毎ニ慕ハシク、一進一歩情慾ノ度合益々激シク、侵畧ノ念慮終ニ發生セリ、彼等ハ爰ニ至リテ平和的商戰ヲ遲緩ナリトシ、腕力チ以テ一擧ニ暴富ヲ獲ンコトヲ謀リ、幸ニシテ其ノ目的ヲ奏シ得レハ益々懦弱驕奢傲慢トナリ、不幸ニシテ一敗地ニ塗レハ産ヲ燒キ、家ヲ失ヒ、市チ亡ボシ、國チ仆ン見ル影モナキニ至ル、試ニ觀ヨ太古ニ於テ繁榮盛華無比ノ壯觀チ有シタルノ市府ニシテ、今日尙其偉蹟チ存スルモノ幾何カアル、四季ノ花木チ集メタル美麗ノ花園ハ今ヤ荒蕪セル草野トナリ、各國ノ富チ吸收セル繁華ノ市府ハ今ヤ頽廢ノ砂土トナリ、嘗テ宏壯偉大ノ建築チ有セル處今ハ海水波濤チ寄セ、嘗テ五穀豐熟金波チ漂ワセシ處今ハ有毒ナル瘴霧ノ掩フ處トナル、余輩昔時チ追想ノ豈多少ノ感慨ナカラシヤ

太古ノ邦國ガ滅亡セル所以ノモノハ實ニ彼等ノ戰勝ナリ、何トナレハ戰勝ハ即チ他日又戰敗ノ基ヲレバナリ、試ニ彼ノ羅馬チ見ヨ其富ハ羅馬自身ガ商業ニヨリテ得タルモノニ非ラズ、其人民ハ又商業チ好メルモノニアラズト雖モ彼レハ武力チ以テ他國チ壓服シ一大帝國

勝戰即戰敗

ノ都府トナリテ自ラ商業中心トナリ他國人民ノ商業ニヨリテ幾何ノ利益ヲ得タリシヤ知ルベカラザルナリ、然レモ此富華ハ羅馬ノ威力ガ他國ヲ壓服シ得ラル、ノ間ノミ、其ノ富華ニ乗シテ慢心ヲ生シ奢侈ニ耽リ、一度其其威力ヲ弛メ來ルニ及ンデハ貧困忽チ起リ、之ヲ醫スルニ途ナク、初メ手ニ睡セズシテ服從セシメタル蠻族ニ向ツテ、彼ハ終ニ果敢ナクモ屈服スルノ止ヲ得サルニ至レリ

然リト雖モ是ヲ以テ其ノ近因ナリトスルハ可ナリ之ヲ其真因トナスニ至ツテハ斷ソ不可ナリ、人或ハ疑テ曰ク商業ハ到底永ク繼續スルモノニ非ラズ、商業ガ終ニ死ヲ免カレザルハ猶人生ニ限リアルガ如シ、而シテ商業ニ依リテ得ラルベキ富貴ト雖モ亦終ニ死運ヲ免カレザルモノナリト、

然リト然モ商業夫レ自身ハ決メ斯カル性質ヲ有スルモノニアラズ、商業盛ナレハ其國必ラ大富ム而シテ富貴ハ必ラ貧苦ノ基ナリト云ノ理アラシヤ、但シ國ノ亡ブルニ當リテヤ其商業ハ既ニ衰微シ、商業衰微スル處ニハ富貴ノ減少相隨伴スルハ爭フベカラザルノ事實ナリ、然レモ商業夫レ自身ハ必ラ衰微スベキモノニシテ、富貴其ノ物モ亦タ必ラス貧苦ノ基ナリト

節操ノ腐敗

云フニ至リテハ、是レ富貴濫用ノ害ヲ以テ富貴ノ本性ヲ誤マリ、從テ商業ノ利益ヲ誣ユルモノト云ワザル可カラズ、試ニ問フ商業ニヨリテ得ルノ富貴ハ驕奢浪費ノ外ニ使用スベキノ途ナキカ、斯ル富貴ハ高尚有益ノ事業ニ向ツテ使用スルヲ能ハサルモノナルカ、若シ是レチ然ラズトセバ即チ富貴何ノ罪カアラン、商業何ノ罪カアラン、罪ハ唯之ヲ濫用スル人民ノ上ニ在ルノミ、夫レ然リ、然ラバ則チ太古商業國ノ衰滅セル真因タルモノ果ソ何クニカアル彼等ノ衰亡ハ時トシテ其ノ主權者ノ大望野心ニヨリテ促カサレ、時トシテハ其暗愚暴虐ニヨリテ急カサレタリ、然レモ其真因ナルモノハ實ニ人民節操ノ腐敗ニ在リ、蓋シ彼等ガ商業ノ盛大ニヨリテ富貴ヲ得ルヤ、心既ニ怠慢トナリ、又昔時ノ如キ熱心ヲ顯ハサズ、其取得シタル富貴ハ更ニ之ヲ有利ノ事業ニ使用スルヲ知ラズ、(經濟ノ發達セザル時代ニハ之ヲ知ラザルモ亦無理ナラズ)徒ニ之ヲ奢侈ノ用ニ充テ、一度身ヲ驕奢ノ渦中ニ陥イレテハ再ビ又之ヲ脱出スルヲ能ハズ、精神終ニ懦弱トナリ、難チ避ケテ易チ貪ボリ、勞チ辞メ逸ニ趣キ、復ビ熱風烈雨ヲ犯スノ勇ナク、巨浪怒濤ヲ凌クノ意ナシ、其極勞力ヲ輕侮ノ之ヲ奴隸ノ手ニ委シ、國防ヲ怠テ之ヲ傭兵ニ任スルニ至ル、而シテ國富何時ノ間ニカ減シ、國力

備兵

漸チ追テ消去スルヲ知ラザルナリ國家ノ衰亡豈免カル、事ヲ得可ケンヤ
夫レ備兵ナルモノハ或ル点ニ於テ分業ノ主義ニ適シ、壯丁ヲ擧ゲテ生産的業務ニ從事セ
シムルノ利益アルガ如シト雖モ、之レガ爲ニ國民ノ忠義ト愛國心ヲ減却セシムルノ損害ハ
決ノ少々ニアラズ、爰チ以テ之ヲ見レバ希臘「かるせーぢ」ノ如キハ羅馬ノ襲來ヲ受クル以
前ニ於テ、既ニ久シク降伏ノ準備ヲ顯ハセルモノト云フベシ、抑モ商業ハ決ノ國民ヲ懦弱
トナスモノニアラス、彼ノ「たいる」ガ十二年間「ねぶかどねざー」ノ攻圍ニ抗シ、新「たいる」
ガ七ヶ月ノ間亞歷撒大王ノ兵ヲ拒ミ、羅馬ヲ全ク「かるせーぢ」ヲ亡ボサシムルニハ百年
以上ヲ要セシメタルガ如キヲ見レバ、彼等ガ有セル體質上ノ勇氣ハ決ノ衰ヘタリト云フベ
カラズ、寧ロ予輩ヲ驚嘆措カザラシムルモノアリ然リト雖是レ實ニ肉体上ノ勇氣ニ非ラ
ズンバ最後ニ迸發セル失望ノ勇氣ノミ愛國ノ赤誠ハ既ニ久シク國民ノ腦中ヲ去リ、精神的
勇氣ノ馳廢セルヤ大ナリ、故ニ滅亡ハ敗戦ノ當時ニ非ラズシテ平和ノ間ニ在リ、血ヲ流シ
骨ヲ曝セルノ時ニアラズノ美酒ニ酔ヒ錦薦ニ眠ムル時ニアリシト云フベシ
奴隸ニ至リテハ太古ノ歴史ヲ汚瀆ルスノ最モ甚シキ者ト云フベシ、蓋シ奴隸貿易ナルモノ

奴隸

、天理ニ背キ人情ニ戾リタルヲハ、今ヤ三尺ノ童子ト雖モ尙ホ之ヲ知ルベシト雖モ太古ニ
於ケル經濟上ノ謬想ハ是ヲ以テ少シモ耻ツルニ足ラザル正當ノ事ナリト信セシメタリ、希
臘人若クハ羅馬ノ人民ガ奴隸ヲ虐使シテ少シモ憫憐ノ情ヲ有セザリシハ、恰モ近世ニ於テ
製造者ガ機械ノ運轉ヲ見テ平然タルト同シ、彼ノ賢人「ありすとつーる」ノ如キモ猶ホ其ノ
著書ニ於テ少シモ奴隸ヲ愛護スルノ情ヲ顯ハサ、リシノミナラズ却テ之レカ若役ヲ至當ナ
リトセルヲ見レハ當時ノ思想推スルニ余アリト云フベキカ、彼レ曰ク「主人タルモノ、知
了スベキハ只如何ニ奴隸ヲ使役スベキカニ在リ、人ノ主人タル所以ハ奴隸ナル人間ヲ所有
スルガ爲ニアラズシテ、其ノ所有物ヲ利用スルガ故ニアリ、奴隸ハ實ニ一家財産ノ一部ナ
リ、云々」彼レ又論ノ曰ク「奴隸ヲ作レルモノハ是レ天ナリ、夫レ動物ハ凡テ男女ノ二姓
ニ別タル男ハ女ニ比シテ完全ナルモノナリ、故ニ命令ス女ハ男ニ比シテ不完全ナリ故ニ從
順ス是レ天ノ命ナリ今夫レ人間種族ノ裡ニモ亦別アリ、一ハ他ニ比シテ劣等ナルヲ恰モ精
神ト肉体ノ如ク、人間ト獸類ノ如ク、只僅カニ身体的勞力ニ適セル外、又何等ヲモ爲ス能
ハザル者ナリ、彼レガ奴隸タルベキモノ是レ亦天ノ命ナリト云フ可シ、何ントナレバ彼レ

ハ到底他人ノ命令ニ服従スルヨリヨキテ無キヲ以テナリ、果シ然ラハ奴隸ナルモノト獸類トノ間ニ幾何ノ差等カアル、予輩ハ爰ニ斷定シテ曰ハン天ハ自由ノ爲メニ一種ノ人ヲ作リ奴隸ノ爲ニ他種ノ人ヲ作レリ、而シテ奴隸ガ服従スベキハ正當ニシテ、又必要ノ事ナリトシテ希臘人民ガ奴隸ニ對シテ有セシ觀念斯ノ如シ、羅馬人民モ亦然リ、左レハ市中ノ住民ハ一トシテ奴隸ヲ使用セザルモノナク、最モ貧窶ナリト稱スルモノモ亦必ラズ一人ヲ所有シテ家事ニ使役シタリ、若シ夫レ富貴ノモノニ至リテハ其數幾何タルヲ知ラズ、穀物ノ精搗、麵包ノ製造、衣類ノ織上、室内ノ掃除、田園ノ着護等各其職ヲ別ツテ從事セシメタリ、而シテ農業ノ如キ工業ノ如キ其ノ身体的勞働ニ關スルモノハ常人ノ甚ダ輕視スル所、多ク奴隸ヲ指揮ノ之ヲ行ヒタリ、斯クノ如クナルヲ以テ奴隸ナルモノハ太古商業中甚ダ至要ナル商品ノ一部トナリ、之レガ爲ニ特別ノ市場アリテ、恰モ牛馬ノ賣買ニ同シク、等級ヲ分チ價格ニ差等ヲ設ケタル亦通常貨物ニ異ナラズ、然レモ奴隸ナルモノハ之ヲ天理上倫理上ヨリ考察シテ既ニ不正ナルノミナラズ、經濟上ニ於テモ亦有害タルヲ免ガレズ、蓋シ人ノ勞働ヲ甘ンズル所以ノモノハ之ニヨリテ利益ヲ得、之ニヨリテ快樂ヲ得ルノ望アルガ爲メナリ

然ルニ今若シ人ノ自由ヲ剝奪シ、其快樂ヲ絶チ、勞シテ益ナク働イテ樂ナカラシメ、鞭撻苛責以テ之ヲ牛馬ノ如ク驅役センガ、彼レハ余儀ナク一時其ノ威勢ニ恐怖ノ勞働スルヲモアラン、然レモ憤怒落魄主人ノ眼ヲ竊ミテ可成其ノ勞ヲ省カントスルニ至ルハ之レ自然ノ結果ニシテ、彼レガ失樂ノ境ニ墮落シ、壓制ノ苦中ニ呻吟シ、而カモ終之生ヲ脱去スルノ望ナキニ至ラバ其ノ精神ハ必ズ遲鈍腐敗セン、而シテ活潑ナル運動ハ壯快ナル精神ニ伴フモノナリトスレバ、所謂奴隸ナル者ノ勞働ハ甚ダ懶惰ナラザルベカラズ、是レ自由勞働者ト奴隸トノ間ニ於テ其ノ勞力上ノ効驗ニ大差アル所以ナリトス、去レバ基督敎發生ノ其ノ勢力ヲ振フルニ當リ博愛主義ノ援助ヲ得テ、奴隸制度ナルモノハ其ノ跡ヲ失フニ至レリ

第 貳 編 中古商業史

第 一 章 『シヤールマン』帝國及ビ封建制度

余輩ハ今ヤ、世界ノ商業工業及ビ農業上ニ、一大激變ヲ興フルノ時期ニ來レリ、即チ紀元五世紀ヨリ十五世紀ニ至ル一千年間ノ暗黒時代之ナリ、彼ノ羅馬ナル巨人ガ、一時歐州ノ中央ニ生レ出ヅルヤ、其範圍ノ廣大ナル、其人民ノ強富ナル、世界ハ羅馬ノ世界ナルガ如ク、其勢ノ極マル所ヲ知ラザル有様ナリシト雖モ、一盛一衰ハ免ル可カラザル天理ノ常數ニシテ、其盛大富強ハ、遂ニ以テ羅馬人民ヲシテ卑屈薄弱ノ極ニ陥ラシメ、其奢侈華麗ヲ貴ブノ風習ハ、偶々以テ一般人民ノ德義ヲ壞敗シ、『セーガすたす』帝ノ死スルニ及ヒ、羅馬ノ運命ハ月ニ年ニ傾頽ノ域ニ向ヒ、羅馬ハ又舊時ノ羅馬ニアラズ、其人民モ亦昔時ノ有爲活潑ナル人民ニアラズ、遂ニ紀元四百七十六年ニ至リ、北方ヨリ勇敢ナル「ちゆどにつく」種屬勃起シ、羅馬帝國ニ侵入シ、爾後歐州全部ハ戰亂湧クガ如ク、社會ハ實ニ紛擾紊雜ノ渦中ニ埋没シ去テレ、其組織ハ乱レ其秩序ハ破レ、商業上亦一大變革ヲ來シタリ、

西羅馬帝國ノ滅亡

余輩ハ少シク溯リテ、如何ニシテ西羅馬帝國ガ滅亡シタリシヤヲ尋チント欲ス、蓋シ「ちゆどにつく」種屬ガ紀元前二十七年『セーガすたす』帝ノ位ニ即キタリシ頃ヨリ、既ニ羅馬ノ強敵タルノ兆ヲ表セシハ、何人モ能ク知了スル所ナラン、其後一世紀ノ頃有名ナル羅馬ノ記者『たしたす』ナル者ガ記述セシ、羅馬ト「ちゆどにつく」種屬トノ戰爭記ニヨリテ彼等ノ勇猛敢爲ノ風ヲ想像スルニ足ルモノアリ、實ニ羅馬ノ諸帝ハ彼等ヲ侮ル可カラザルノ強敵ナリトシ、其全力ヲ盡シテ、數々此半野蠻ナル「ちゆどにつく」種屬ヲ撲滅セン事ヲ務メタリ此間殆ンド三世紀ノ長キニ亘リ、彼ノ「こんすたんちん」帝、及ビ「ぢゆうらん」帝ノ如キハ常ニ之ガタメニ其思慮ヲ費ヤシ、猶ホ彼ノ「バれんちにやん」帝ノ如キモ、大ニ彼等ト戰ヒタリ、之等ノ諸戰ニ於テ「ちゆどにつく」種屬ハ數々敗チ取リタリト雖モ、彼等ハ猶ホ漸次ニ強大トナリ擧モスレバ一擧シテ羅馬ノ版圖ニ侵入セントスルノ勢ヲ生シ、加之暗々ノ裡能ク羅馬帝國ノ政教及ビ開化ヲ吸収セリ、何トナレバ、此間彼等ハ羅馬ニ入りテ、其感化ヲ受ケタルガ故ナリ、然レモ「こんすたんちん」帝ノ即位後凡ソ一世紀ニシテ、此勇敢ナル「ちゆどにつく」種屬ノ勢力ヲ壓縮セシムルノ一事件生ゼリ、即チ「ハインズ」ナル亞細亞人種

ノ侵襲之ナリ、此ニ於テ彼等ハ雷ダニ羅馬帝國ヲ窺フ事能ワザルノミナラズ、自カラ其位
置ニツキテ危憂ヲ生シ、「だにゆふ」河ヲ越エテ北岸ニ退キ、此ニ彼等ノ位置ヲ占ムルノ止ム
ヲ得ザルニ至ル、時ニ紀元三百七十六年トス、之ヨリ又「ちゆど」につく「種属ハ漸ヤク其根
據ヲ固クシ、其勢力ヲ恢復シ、數々羅馬ト隙ヲ生ゼシガ、紀元四百十年ニ至リ「あらりつ
く」ナル「ごす」人ノ大將ハ遂ニ羅馬ニ侵入シ、暴威ヲ振ヒテ國內ヲ鹵掠シ、伊太利ノ南部モ
亦其損害ヲ被ムレリ、而シテ「あらりつく」死シ「あさるふ」ナル者其後ヲ嗣グニ及ビ（四百
十四年）、「ごす」人ヲ率ヒテ「ごる」及ビ「すぺーん」ニ導ビキ、茲ニ「びしごす」王國を立
テタリ、

其後「いんす」ノ大將「あつてら」大兵ヲ率ヒ、懸河ノ勢ヲ以テ歐洲ニ侵入シ、大紛擾ヲ來サ
ントス、此ニ於テ「ごす」人ハ羅馬ノ軍ト聯合シ、紀元四百五十一年「まやろん」ノ大戦ヲ
以テ、大ニ「いんす」ヲ破リタリト雖モ、羅馬ハ又大ニ「あつちら」ニヨリテ奪掠ヲ逞フセラ
レ、其昔日ノ壯觀ヲ失ヒタリ、此際羅馬ノ領地ハ次第ニ縮少シ、「あんぐるさくそん」人ハ「ぶ
りてん」ニ其居所ヲ占メ、「バんだる人」ハ西班牙ヨリ亞弗利加ノ北岸ニ移リ、「かーせいじ」

ニ於テ「新國」ヲ開キ、「バー」がんぢやん」人ハ「ごる」ノ東南地方ニ、「ふらんく」人ハ「ご
る」及ビ「せるまん」ノ一部ニ各其居所ヲ占メ、歐洲全部ハ殆ンド「ちゆど」につく「種属」ヨリ
テ占有セラル、ニ至レリ、紀元四百五十五年「バんだる」人ハ、「かーせいじ」ヨリ海ヲ横ギ
リテ「たいべる」河口ニ船艦ヲ撃ギ、羅馬府ヲ掠奪シ、乱暴狼籍至ラザルナク、巨多ノ財貨ヲ
齎シテ去レリ、此時迄モ西羅馬ニ於テハ猶ホ帝王ヲ戴キタリト雖モ、王ハ只ダ空位ヲ要ス
ルニ過ギズシテ、帝國ノ範圍モ亦大ニ縮少シ、僅カニ以太利ノ地ニ限ギラレタリシガ、紀
元四百七十六年「をどあさー」ナル者帝王ヲ廢シテ以太利ヲ奪ヒ、此ニ至リテ帝國ハ全ク其
終リヲ告ゲタリ、

斯クノ如クニシテ西羅馬帝國ハ既ニ亡ビ、歐洲ハ益々渾乱ノ狀ヲ呈シ、數百年間社會ノ組
織ハ全ク潰頽シタリ、然リ而シテ東羅馬即チ「びざんぢやん」帝國ハ、「ぢやすちにやん」帝治
世ノ時、有名ナル「べりざりゆす」ナル者ノ助ケニヨリテ、一時西羅馬帝國ノ大部分ヲ「ご
す」及ビ「バんだる」人ヨリ恢復シ、大ニ氣焰ヲ吐キタリト雖モ、帝ノ死後直チニ又蠻族ニ
ヨリテ奪奪セラレシノミナラズ、紀元五百六十八年「ちゆど」につく「種属」ノ「ナル」るびバー

「サラセン」
人ノ勃起

「サラセン」人ハ、以太利ノ地ニ突入シテ、此ニ其根據ヲ固メ、漸ク東羅馬ノ領地ヲ蠶食シ、猶ホ一方ニ於テハ紀元六百三十年頃「まほめつと」宗徒ノ亞刺比亞砂漠ヨリ起ルアリ、彼等ハ右手ニ劍戟ヲ持シ左手ニ經典ヲ捧ゲ、己レニ歸セザル者ハ悉ク之ヲ殺戮シ、亞細亞及ヒ亞弗利加ニ於ケル東羅馬ノ領地ヲ悉ク其手中ニ歸セシメ、「じぶらるたる」ノ海峽ヲ渡リテ西班牙ニ出テ、茲ニ彼等ガ本據ヲ作り、殆ンド全半島ヲ占有シ、遂ニ「びりに」山ヲ越エテ「びーる」ノ南部ヲ攻略シ、深ク歐洲ニ侵入セントセシガ、紀元七百三十二年「つーる」ノ野ニ於テ、「せるまん」人ヲ支エテ、此ニ彼等ハ其足ヲ止メント雖モ、殆ンド百年間歐洲及ヒ亞弗利加ノ地方ヲ蹂躪シ、之ガタメ歐亞共ニ經濟社會ノ一大混雜ヲ來タシ、少シク起ラントセシ殖産興業ヲシテ、再ビ見ル影モナキニ至ラシメ、其零落破壊ノ中、蠻族ハ各所ニ起リテ其強弱ヲ争ヒタリ、其後凡ソ三百年ヲ經テ、歐洲ニ於ケル紛乱モ略其局ヲ結ビ、各人種モ各其居所ヲ定メ、少シク平穩ニ歸シタルトキ、恰カモヨシ一ノ大豪傑大改革者ノ出ツルアリ、即チ「しゃーれまん」大帝之ナリ、時ニ紀元七百七十一年頃トス、此ニ至リテ始メテ暗夜ニ燈火ヲ得タルガ如ク、漸ク新ナル文化ヲ發生シ、商工業モ亦歐洲諸邦ニ興起スルノ端

「シャールマン」大王

緒ヲ開キタリ、

之ヲ要スルニ「こんすたんちん」帝ヨリ「しゃーれまん」大王ニ至ルマデ、殆ンド五百年ノ間ハ、商業史上少シモ記ス可キ價值ナキノ時代ト云フ可クシテ、當時ノ半開野蠻ノ人民ハ、只ダ日用生計ノ必需品ノミヲ以テ満足シ、嘗テ昔時ノ希臘及ヒ羅馬人ノ如ク、貴物驕奢品ヲ求ムルノ意ナク、各自ノ所有セル小許ノ土地ヲ耕作スルノミニシテ、敢テ新タニ資本勞力ヲ下シテ、之ガ開墾ヲ企ツルノ念ナカリシガ故ニ、農業及ヒ工業ハ全ク衰頽ノ極ニ達シテ又振フ可カラズ、且ツ製造業ニ至リテモ、衣服ヲ製スル織物及ヒ紡績其他日用ノ什器ヲ除キテ、他ニ製造品ノアルナク、而シテ之等ト雖モ各自其製造ニ從事シテ、決シテ一大組織ヲ作り、盛ニ之カ製造ヲ行フガ如キ事ナシ、蓋シ當時富豪ノ輩ハ、凡テ之等ノ職工ヲ養ヒテ以テ己レノ家人トナシ、帝王ノ如キモ亦熟練ナル職工ヲ聘シテ市場ノ物品ヲ求メズ、「しゃーれまん」ノ如キハ、皇后手ツカラ王ノ衣服ヲ裁縫セリト云フ、以テ當時製造工業ノ發達セズシテ、市場ノ物品ニ満足シ得ザリシ反証トナスニ足ル、偶々各村各地熟練ナル職工ナキニアラザリシト雖モ、彼等ハ皆一箇人ニ傭聘セラレテ、敢テ力ヲ製造工業ノ改良進

歩ニ及ボス事ナシ、

加之時勢ノ紛擾ニツレテ、商業上最モ必要ナル交通ハ殆ンド絶塞セラレ、各地方間ノ商業ハ甚ダ狭少ナル區域ニ限キラレタリ、殊ニ奪掠ハ殆ント公ケニ行ワレ、當時ノ武士ナル者ハ皆實ニ盜人トモ云フ可キ有様ニシテ、交通ノ危険云フ可カラザルノミナラズ、又大ニ商人ヲ壓制シ各地ノ橋梁ニ非常ナル通行税ヲ課シ、其他公開ノ市場、甚ダシキハ自己ノ領域内ニ於ケル公道ニ向フテモ亦高税ヲ課シ、各地ノ需用供給ハ之ヲ知ルニ由ナク、殖産興業ハ日ヲ追フテ衰運ニ向ヒ、又進歩改良ノ望ナキニ至レリ、

當ダニ歐洲ニ於テノミナラズ、當時唯一ノ商業大陸タル東洋トノ貿易モ亦大ニ衰へ、東洋ヨリ物品ヲ輸入スルモ、之ニ代エテ輸出スル者ナク、歐洲ニ於ケル殖産興業ノ不振ハ、又引テ東洋ノ貿易上ニ著シキ影響ヲ及ボシタリ、此時ニ當リ東洋ヨリ輸入スル所ノモノハ、歐洲貴族ノ需要スル美麗ノ反物及び香料ノ類ニ過ギズシテ、之ニ對シテ僅カニ金銀及び金銀ノ細工物ヲ輸出シタリト雖モ、金銀ハ年ヲ追フテ減少シ、十一世紀ノ頃ニ至リテハ、終ニ奴隸ヲ以テ之ニ換フルニ至レリ、

東西兩洋ノ
貿易

蓋シ奴隸商業ニツキテハ、當時固ヨリ其非ナル事ヲ了知シ、『しやうれまん』大王ノ弟ナル『かりんまん』ハ法令ヲ發布シテ其賣買ヲ禁止シタリト雖モ、法令ノ力ハ能ク之ヲ左右スル事ヲ得ズ、恰モ後世彼ノ西班牙政府ガ、自然ノ理ニ反シ、法律ヲ以テ金銀ノ輸出ヲ禁ジタルモ、其目的ヲ達スル事能ワザリシガ如シ、此時ニ當リ歐洲ガ東洋ト交換シ得可キモノハ實ニ奴隸ヲ措キテ他ニ一物ノアルナカリシト云フテ可ナリ、而シテ當時僅カニ東洋トノ貿易ヲ行ヒタルハ、地中海岸ニ於ケル「ダスにす」及ビ「あまるひ」ノ二港に限ラレ、東西兩洋ノ商品ハ皆悉ク「こんすたんちのーぶる」及ビ「あれきさんどりや」ヲ經テ來リタル者トス、蓋シ「こんすたんちのーぶる」ハ、歐洲ノ東方ニ偏在セルノ故ヲ以テ、北狄ノ侵入ガ社會ヲ暗黒ナラシメタル時ニ於テモ、幸ニ獨リ其難ヲ免カレ、辛フジテ東西兩洋ノ中間ニ介立シ、微々タル交通ノ媒介ヲナセリ、然レドモ其初メニ於テハ、「べるしや」人此地ト印度トノ中間ヲ遮ギリ直接ノ陸路貿易ヲ切斷シタルガ故ニ、商業ハ「あじぶと」人ノ手ヲ經テ行ワレタリシガ、後「ゆーふれーつ」沿河ノ地再々ビ隊商ノタメニ開カル、ニ至リ、「あれきさんどりや」ト併立シテ專ラ其交通ノ衝ニ當レリ、

此故ニ「シーフ」氏ノ如キハ「びざんちやん」帝國ヲ以テ羅馬ノ滅亡後新舊文明ノ中間ニ架セル橋梁ナリトシ、學術及ビ技藝ノ再タビ興起スルニ至リタルハ全ク其力ニヨルト云ヘリ此説ノ可否ハ少ラジ措キテ論ゼズ、然レトモ之ヲ要スルニ、縦令「びざんちやん」帝國ハ中古ノ間北狄侵入ノ際、其危厄ヲ脱シテ僅カニ余脈ヲ保チシト雖モ、商業史上決シテ之ガ精細ノ研究ヲナスノ價值ヲ有セザルナリ、况ンヤ「こんすたんちんのーぶる」ノ如キモ、一時東西洋ノ微々タル交通ノ媒介ヲナシ、其連絡ヲ通ズルノ一驛タルコト過ギズシテ、決シテ自カラ商業ヲ行ヒタル事ナリ、又一ノ製造物ヲモ産スル事ナカリシニ於テチヤ、又况ンヤ「びざんちやん」ノ商業ハ、十字軍ノ後少シモ見ル可キモノナキニ於テチヤ

然レドモ「しやーれまん」大王ノ起ルニ於ンデ、社會ノ面目ヲ一新シ、商業上又從テ記ス可キモノアルニ至レリ、蓋シ大王ノ以前ニアリテハ「せるまん」地方又一ノ都府アラザリシト雖モ、大王ノ治世ニ至リ始メテ土地ノ開墾ニ意ヲ用ヒ、又大ニ教育ヲ獎勵シ、以太利及ビ英吉利等ヨリ専ラ學識アル僧侶ヲ聘シ、學校ヲ設立シテ子弟ヲ教訓シ、殊ニ上等社會ノ子弟ニハ強迫的ノ命令ヲ以テ其就學ヲ強シ國家的ノ觀念ト技術上ノ思想トヲ國民ニ吹キ込ミ

「シヤールマン」大王ノ事業

之レト同時ニ商業及ビ製造工業ノ進歩ヲ計リ、道路ヲ修メ橋梁ヲ架シ、運河ヲ開鑿シ平和ヲ務メ、種々ナル手段ヲ以テ殖産興業ヲ保護シ、生命財産ノ安寧ヲ計リ、人心ヲ安堵セシメ、各自専心其業務ニ勉勵スルノ余地ヲ興ヘタリ、加之農業ノ如キモ亦其改良ニ注意シ、菓物ノ培養ヲ計リ、林檎、梨、栗等ヲシテ歐州北部ニ繁殖セシムルニ至レリ、又外國貿易ニツキテハ諸國ノ帝王ト和親ヲ結ビ、其交際ヲ親密ニシ、條約ヲ締結シテ通商ノ便宜ヲ計リ、斯クシテ彼ハ漸ヤク經濟社會ノ眠ヲ喚起スルノ端緒ヲ開キタリ、然リト雖モ此等ノ事業ヲ以テ、單ニ「しやーれまん」一箇ノ功績トナスガ如キハ、又少シシ誤レル者ト云ワザル可カラズ、勿論彼レ大王ハ大改革者タリシナリ、大豪傑タリシナリ、然レモ如何ナル偉人ト雖モ、又如何ナル大改革者ト雖モ、自己一人ノ力ヲ以テ能ク歐州全体ニ於ケル經濟社會ノ眠ヲ覺マシ其秩序ヲ整理スルガ如キハ、決シテ容易ノ業ニアラザルナリ、蓋シ中世ノ始メニ於ケル歐州ノ争乱ハ、實ニ其激烈ヲ極メタリシト雖モ、然レモ之レ歐州ニ於ケル商工業ノ機關ヲシテ、一時其運轉ヲ止メシメタルニ過ギズシテ、未ダ全ク之ヲ壊破スルニ至ラザリシナリ、即チ舊時「ろーま」ノ道路ハ猶ホ依然トシテ存在シ其市府

モ亦悉ク破壊セラル、事ナク殊ニ彼ノ有名ナル「せをどしやん」法典ノ如キハ、大ニ商工業ノ復活ニ大功ヲ奏セシ者ト云フ可シ、抑モ此「せをどしやん」法典ナル者ハ、紀元四百三十八年羅馬ノ帝王「せをどしやん」第二世ニヨリテ編成セラレタル者ニシテ、其法典ノ完美ナル其法理ノ精確ナル、「びしごす」「ふらんく」「バーがんぢー」及ビ「るんバード」等ノ諸國ハ概テ此法典ヲ採用シ、猶ホ下リテ近世ニ至リ、歐州大陸ノ諸邦ニ於テモ之ヲ以テ法典編纂ノ基礎トナセリ、「しやーれまん」大王ガ社會紛乱ノ後ヲ承ケテ、能ク一人ノ力ヲ以テ其復活ヲナサシムル事ヲ得タルハ、職トシテ之等ノ遺物ヲ利用シタルガ故ナリト云フ可キナリ、此ノ如ク大王ハ實ニ歐州ニ於ケル殖産興業ニ偉績ヲ奏セリト雖モ、不幸ナルカナ子孫暗愚ニシテ、其事業ヲ後代ニ繼續セシムルコト能ワズ、大王ノ死スルヤ、其宏大ナル帝國ハ忽チ四分五裂シ、加之歐州北部ニ於テハ「すかんぢあびやん」人起リテ、「すえーでん」の「うゑー」及ビ「でんまーく」等ノ國ヲ立テ、社會ハ再々ビ紛擾ヲ極メ、大王生前ノ事業モ亦一ツノ痕跡ヲ留メザルニ至ル、

封建制度ノ流行

隠然トシテ社會ノ組織ヲ支配シ其結果ハ終ニ封建制度ノ上ニ顯出スルニ至レリ、抑モ此制度タル、羅馬人ト「せるまん」人ト相争闘シ、其紛擾混乱ヨリ生ジタル一種ノ社會組織ニシテ即チ舊時ニ於ケル羅馬人ノ習慣ト、當時ニ於ケル「せるまん」人ノ習慣ト、相結合シタルモノナリ、所謂羅馬人ノ習慣トハ、武勳アル者ニ土地ヲ附與スル事ニシテ、「せるまん」人ノ習慣トハ、酋長ノ下ニ隸屬スル事之ナリ、故ニ其結合ヨリ發生セル封建制度ノ下ニ在リテハ、社會ハ君臣ノ別ヲナシ、其君タルモノハ臣下ノ効勞ニ報ユルニ土地ノ分與ヲ以テセリ

封建制度ノ利益

余輩ハ此ニ至リテ、此封建制度ナル者ガ、如何ナル影響ヲ歐州ノ經濟社會ニ及ボシタルカヲ探究セント欲ス、即チ其最も重要ナルモノハ市府ノ發達之ナリ、蓋シ封建時代ニ於テハ諸侯間常ニ争討ノ絶ユル事ナカリシト雖モ、然レモ亦之ニヨリテ、大ニ社會ノ秩序ヲ固クシ、諸侯ハ即チ君主トナリ、其隸屬ヲシテ兵事或ハ農業上ノ職務ニ從事セシムルト同時ニ、又之ニ向ツテ保護ヲ與ヘタリ、否チ諸侯ハ此保護ヲ以テ實ニ其ノ責任ナリト確信セリ、此ノ如クナルガ故ニ、人民ハ漸次諸侯ノ城下ニ輻湊シ來リテ、終ニ市府ヲ立ツルニ至レリ、而

シテ羅馬ノ時代ニ於テ商工業ノ中心タリシ幾多ノ市府ハ、北方蠻人ノタメニ悉ク衰微セシメラレタリト雖モ、今ヤ封建制度ノ發生ト共ニ、漸ヤ其元ニ歸シ、且ツ又新タニ市府ノ興起スルアリ、此ニ至リ人民ハ城壁ヲ築キテ自衛ノ策ヲ講シ、時ヲ經ルニ從ヒテ、之等ノ市府ハ益々其基礎ヲ固クシ、從テ殖産興業甚ダ觀ルベキモノアルニ至レリ、蓋シ封建制度ノ未ダ起ラザル前ニ於テモ、既ニ「シャールマン」大王ハ多クノ市府ヲ創立シタルモノニシテ、彼ノ後世「ハインズ」同盟ノ要府トナリタル、「ハインズ」如キ即チ其一ナリ、又「さくそん」地方ノ君主中ニモ數多ノ市府ヲ建設セルモノアリテ、廣漠タル歐洲北部ノ平野ニ、後世商工業ノ隆盛ニナリタル市府ノ起リシハ、實ニ當時ノ一大現象ニシテ、之レ皆大王ノ盡力ト、及び封建制度ノ結果ト云フ可キナリ、

此ノ如ク、封建制度ハ市府ノ發達ヲ助ケ、以テ商工業ノ進歩ヲ促ガシタリト雖モ、其社會ニ害毒ヲ流シタル点モ亦ナキニアラズ、即チ此制度ハ、諸侯ヲシテ各小部分ニ割據セシメ所謂四分五裂的ノ平和ヲ保タシメタルニ過キザルガ故ニ農工業ノ發達モ亦決シテ大ナル事能ワズ、商業ノ如キモ、只僅カニ小領分内若シクハ各小區分間ニ限ギラレ、大規模ノ貿易

封建制度ノ害毒

チ行フ事能ワズ、加之諸侯各異ナリタル制度ヲ設ケ、租稅ヲ別ニスル等ノ事アリシヨリ、其發達ヲ妨ゲタル決シテ少クナラズ、殊ニ此時代ハ、武士跋扈ノ時代ニシテ、實業家ハ更ニ勢力ヲ有セズ、萬事武士ニ服從セザル可カラズ、故ニ天下乱レテ麻ノ如キ時ニ於テ、能ク社會ノ秩序ヲ一定シ、其安寧ヲ保タシメタルハ、此制度ノ功力ニシテ、此点ニ於テ實業上ニ利益ヲ與ヘタル事ハ、疑ヲ容レズト雖モ、然レハ國土ヲ夥多ノ小邦小區域ニ分割シタル此制度ノ下ニ、商工業ノ大發達ヲ望ムハ、到底望ム可カラザル事ナリトス、之ヲ換言スレバ此制度タル創業ニ利アルモ、以テ守成ニ適スル者ト云フ可カラザルナリ

然レハ封建時代ノ諸侯ガ、帝王ノ主權ヲ脱シテ獨立シタルガ如ク、諸侯ノ麾下ニ屬セシ市府ニシテ、或ハ其壓制ヲ免レンタメ、或ハ其賦課セラル、重稅ニ堪エズシテ、遂ニ其支配ヲ脱シ獨立市府ヲ立ツル者アリ、之等ノ諸市府ハ純然タル自由共和ノ制體ヲ組織シ、各自ヲ保護スルノ必要ヨリ互ニ相聯合シ、終ニハ其勢力、富力ニ於テ遙カニ帝王及び諸侯ヲ凌グニ至レリ、「せるまん」及び「ふらんだ」ニ於ケル諸市府ハ其著明ナル者ニシテ、又彼ノ「ハインズ」同盟ノ如キ、以太利ノ諸自由市府ノ如キハ、繁榮富強其最高点ニ達セシ者ナリ、而

獨立市府ノ發生

シテ此等ノ市府ガ發揚セル歐洲中古ノ商業ハ、之ヲ概別シテ二大部分トナス、即チ北ニハ「ハーンズ」同盟アリ、南ニハ以太利自由市府アリ之ニ加フルニ又西方「ふらんだ」ノ同盟アリ共ニ中世ニ於ケル商業及ビ工業ノ機關ヲ運轉セリ、

十字軍

以上述ベタルガ如ク、自由市府ノ發達ニヨリテ、殖産興業ハ漸次振起シタリト雖モ、中世ニ於テ最モ商業ノ擴張セラレシハ、實ニ十字軍以後ニアリ、十字軍以前ニアリテハ東西洋ノ交通全ク遮斷セラレシト云フニ至ラザリシモ、其交通タル太古ニ比シテ甚ダ衰微セリ、然レドモ十字軍ニヨリテ、東西洋ノ貿易ハ再興セラレ、之ヨリシテ貨物ノ流動移轉甚ダ瀕活トナレリ、抑モ十字軍ナル者ハ、多少政略的ノ期望ヲ混交シタレドモ、素ト宗教上ノ熱心ヨリ起リ、二百年間各國ノ君主及ビ人民ガ、巨額ノ財寶ヲ費ヤシ流血ノ慘狀ヲ呈シタルモノニシテ、而カモ本來ノ宗教上ノ目的ニ至リテハ、終ニ之ヲ達スル事能ハザリシト雖モ、他ノ一方ニ於テ、目的外ニ大ナル結果ヲ顯ワシ、世界ノ文明上殊ニ商業史上ニ於テ、非常ナル影響ヲ與ヘタルモノトス、

十字軍ノ功

蓋シ中世暗黒ノ時代ニ於テハ、東西洋ノ交通ハ殆メド絶エタルノ有様ニシテ、而カモ歐洲

新需要

ニ於テハ、當時未ダ東洋ノ如キ開化ヲ有セザリシナリ、然ルニ十字軍ノ結果トシテ、東洋ノ文化ハ歐洲人ノ目ヲ驚カシ、軍ニ從ツテ東洋ニ來ル者ハ、皆其風俗習慣ニ感染シ、再ダビ歐洲ニ歸ル者ハ、皆新需要ヲ齎ラシタリ、斯クシテ自然商工業ノ發達ヲ來タシ、砂糖、綿等ノ植物、及ビ裝飾品、眞珠等ノ類續々輸入セラレタリ、當ダニ之等有形ノ物品ニノミ止マラズシテ、無形ノ學問技術モ亦之ニヨリテ西漸セリ、余輩ノ十字軍ヲ以テ、東西兩洋ノ交通ヲ再興セシメタル者トナス蓋シ偶然ニアラザルナリ、

農業ノ進歩
武器ノ製造

加之十字軍ハ、夥多ノ人民ヲシテ、東洋ノ遠征ニ從事セシメタルガ故ニ、多量ノ武器及ビ糧食ヲ要シ、從テ農工業ノ改良進歩ヲ促ガシタリシハ勿論、諸侯ノ中ニハ其不動産ヲ賣却シテ遠征ノ支度ヲナスモノアリシガ爲ニ、從前諸侯ノ手ニ存シテ、敢テ耕作セラル、事稀ナリシ不動産(土地)チ一己人ノ手ニ移シ、昔日ノ如ク之ヲ荒蕪ノ儘ニ放棄スル事ナクシテ大ニ農業ノ發達ヲ助ケタリ、其他遠征ニ加ハル武士ハ復タ生キテ歸ル事ナキヲ慮リ、其遺産ヲ分配スルノ約ヲナシ、此ニ於テ財産ノ移轉起リシガ如キ、又ハ主人戰死後、奴隸ノ解放セラル、如キ、其經濟上ニ及ボシタル結果、決シテ鮮少ニアラザルナリ、

奴隸ノ解放

財産ノ移轉

獨立市府ノ
隆盛

然リ而シテ其結果ノ更ニ著大ナルモノアリ、即チ歐州ニ於ケル獨立市府ノ増加ト、其盛大
チ來タシタル事之ナリ、蓋シ十字軍以前ニアリテ、既ニ獨立市府ノ各所ニ起ルヲ見シハ前
ニ述ベタルガ如シト雖モ、封建制度ノ余弊トシテ、至ル所ニ武士ナルモノノ社會ノ上位ヲ占
メ、權力ヲ掌握シ、商人工業家ノ如キハ皆大ニ賤侮セラレタリ、然ルニ十字軍ノ如キ大遠
征チナスニ當リテ、眼前必要欠ク可カラザルモノハ金錢ナリ、而シテ此金錢タル封建武士
ノ手ヨリモ實業家ノ庫中ニ藏セラル、事多キモノナルガ故ニ、諸侯及ビ武士ハ往々腰ヲ折
リテ其助勢ヲ商工業者ニ需メタリ、爰ニ於テカ商工業者ハ巨額ノ軍費ヲ諸侯ニ供給シ、其報
酬トシテ數多ノ特權ヲ請求シ、此權利ニヨリテ武人壓制ノ途ヲ杜絶シ、市府ノ自由ヲ強固
ニセリ、之レヨリシテ實業家ハ大ニ社會ノ尊重スル所トナリ、其他位モ亦漸ヤク高マリタ
リ、殊ニ工業者ノ如キハ武器馬具等ノ需要増加スルニ從ツテ其富チ増シ、其富チ増スニ從
ツテ其地位チ高メ、其地位高マルニ從ツテ又其技藝チ進歩セシメタリ、之レ自然ノ勢ニシ
テ實業家ハ此ニ至リ益々自重獨立ノ精神チ生ジ、進取ノ氣象チ喚起シ、商工業家ノ團體チ
固クシテ以テ武士ト權力チ争ヒ、遂ニ前後其位置チ轉倒スルニ至リタリ、所謂團體ナルモ

商工業者ノ
團結

ノハ即チ彼ノ「ギルツ」ナル組合ニシテ、此事タル實ニ中世ニ於テ發生セル最モ着眼ス可キ
現象ナリトス、余輩此ニ至リテ少ク筆ヲ轉ジテ、「ギルツ」ニツキテ一言スル所アラント欲
ス、蓋シ中世ニ於テ「ギルツ」ト稱スル者ハ、現時ノ所謂苦樂部ト畧ボ相似タル者ニシテ、或
ハ宗教上ノ組合或ハ法律上ノ組合等種々アリト雖モ、爰ニ余輩ノ注意ス可キハ、商人組合
ト手藝組合トノ二ナリトス、商人組合トハ商賈團結シテ、互ニ其利益ヲ保護シ、以テ内外
商業ノ連絡ヲ通シ、且ツ危險ニ瀕スル者アレバ、互ニ之ヲ救済スルノ目的ヲ以テ、有力富
裕ナル商人之ヲ組織シ、漸次發達シテ遂ニ政事上ノ主權ヲ掌握シ、或ハ納税ノ額ヲ定メ、
或ハ各市府ニ於ケル制度ヲ規定スル等、大ニ市府ノ獨立及ビ自由ノ發達ヲ助ケタリ、手藝
者ノ組合ナル者ハ精巧ナル技藝品ヲ作ルノ目的ヲ以テ一團ナシ、年少者ヲ撰拔シ常ニ技
藝ノ練磨ヲナサシメ、公共ノ資本ヲ作りテ、相助ケ相倚リ、以テ其改良進歩ヲ計ルモノト
ス而シテ此組合タル、競争者ヲ撲滅シテ獨占ニ傾キタルノ嫌ナキニシモアラズト雖モ、然レ
ドモ絶エズ熟練ナル職工チ出ダシテ、未ダ幼稚ノ區域チ脱セザル商工業上ニ善良ナル結果
ヲ與ヘタルハ事實ナリトス、

此等ノ「ギルツ」ハ、十字軍ノ結果ニヨリテ實業家ノ位置高マルト同時ニ、其權力ヲ展ハシ、遂ニ政權ヲ奪ヒテ市府ノ主宰トナリ、法政兵馬ノ權ヲ握リテ其勢力ノ大ナル、帝王ト雖モ時ニ或ハ膝ヲ屈セザル可カラサルニ至レリ、此ニ於テ世ハ自由平等ノ世トナリ、平民主義ハ大ニ發達シ、封建制度ハ漸ヤク廢滅シテ實業社會ノ勢力増進シ、益々商工業ノ進歩ヲ來タシタリ、

以上余輩ハ、中古歐州ニ於ケル、殖産興業ノ盛衰發達ノ形跡ヲ概論シタリ蓋シ前既ニ述ベタルガ如ク、此暗黒時代ニ於テ、其商工業ノ見ル可キモノアルニ至リシハ、實ニ自由市府ノ成立以後ニアリテ、此自由諸市府中商工業社會ノ主幹トナリタル者ハ、南部ニ於テ以太利ノ自由市府、北部ニ於テ「ハインズ」同盟トシ、自カラ歐州ヲ二大部分ニ別チタルガ如キ形跡ヲ見ルガ故ニ、以下此二獨立市府ニツキ、其發達及ビ衰頹ノ狀況ヲ研究スル所アラント欲ス、

第二章 以太利市府

以太利ハ其地位東洋ニ接近シ、東西洋ノ貿易ヲ行フニ尤モ適當セリ、故ニ其人民ハ自カラ之ニ從事スルノ傾ヲ生シ、年ヲ追フテ盛大トナリ、國爲メニ富ミ、民亦爲メニ強ク、遂ニ盛大ナル共和自由ノ市府ヲ起スニ至レリ、此等ノ市府ハ十一世紀ヨリ以後非常ナル勢力ヲ有シ、昔時ノ雅典及ビ哥倫斯等ト、相讓ラザルノミナラズ、寧ロ數歩ヲ踰スル者アリ、其政府ノ主宰者ハ、銀行員及ビ商賈ヨリ之ヲ輩出シ、箇人的自由ノ發達ハ、實ニ羅馬或ハ希臘人ノ夢想ニダモ及バザル所ニシテ、「ふるれんす」「うえにす」「せのわ」等ハ其最モ強大ナル者ナリ、之等數多ノ自由市府中、或ハ有力ナル諸侯ニ國ヲ奪ワレタル者アリト雖モ、十一世紀ヨリ十五世紀ニ至ル間ハ、之等市府全盛ノ時期トモ稱ス可ク、時ニ豪族ノ服從スル所トナルモ、再タビ能ク之ヲ退ケテ、其獨立ヲ維持シタル者アリ、然レドモ、悲ヒ哉兄弟相爭鬪シテ、隔チ墻壁ノ中ニ釀シ、其終リヲ全フスル能ワザルノ不幸ヲ見ルニ至ル、

「あまるといー」

「あまるといー」ハ以太利ノ南部ニ位シ、土地豊饒ニシテ、葡萄、樹脂、及ヒ菓物等ヲ以テ無盡藏ノ財源トセリ、此地ハ歐州ノ一端偶ニ偏在セルノ故ヲ以テ、暗黒時代ニ於テ、其影響ヲ被

商業

ムル事少ナク、九世紀ニ於テ既ニ「ねーぶるす」等ト共ニ商業上主要ノ地位ヲ占メ、最モ早ク其頭角ヲ顯シタリ、蓋シ以太利ニ於ケル最初ノ商業市府ナリトス、此市ハ「ねーぶるす」ヲ距ル事遠カラズシテ、「されりの」ノ灣頭ニアリ、其初ノ一ノ候國ナリシガ、後其君主ヲ放逐シテ、獨立ノ市府トナリ、其近傍ノ「ばれるも」、及ビ以太利ノ南部ニ製造場ヲ設ケ、「るじぶど」「しりや」「ぐりーす」等ニ船舶ヲ派遣シテ、盛ニ商業ヲ行ヒ、又外國貿易ヲ擴張センガタメ、「われきさんどりや」及ビ「こんすたんちのーぶる」等ニ遠征ヲ試ミ、十一世紀ニ至リテハ、最モ富盛ヲ極メタリ、當時ノ歴史家「あまるふいー」ヲ評スルノ言ニ曰ク、此市府ハ金銀及ビ財寶ヲ以テ充タサレ、其城郭内ニハ五萬余ノ住民アリ、云々ト、管ダニ商業ノミナラズ、學問教育ニ於テモ亦大ニ進歩シ、有名ナル法律學校アリテ、其盛大完美ナル、現今世界ニ行ワル、海商法ノ基礎ヲ此處ニ起シタリ、彼ノ「ラービユラアマルフイーダナ」ト稱スル海商法ハ、千〇十年頃ヨリ地中海ニ於テ晋チク行ワレタル者ニシテ、或ル點ニ於テハ固ヨリ不完全タルヲ免レズト雖モ、猶ホ見ル可キ者ナキニアラザルナリ、又「されりの」ニ於テハ醫學校ノ設アリ、理學ノ如キモ大ニ進歩シテ「ふらびをぢお

學術

や」ナル者ハ、羅針盤ノ改良ヲナセリト云フ、

「ビザール」ノ戦争

「あまるふいー」ハ暗黒時代ニ於テハ、「ダるにす」ト地中海岸ニ對持シ、能ク之レト拮抗スル事ヲ得タリト雖モ、漸次「ビザール」セのあ」等の競争者ヲ生シテ、長ク地中海ノ商權ヲ握ル事能ワズ、殊ニ「ビザール」ノ如キハ、千百三十五年及ビ千百三十七年ニ於テ、「あまるふいー」ニ侵入シ、劇烈ナル戰鬥ヲナシタリ、而シテ此等ノ新都府ハ、各自特殊ノ工業ヲ有セリト雖モ、「あまるふいー」ハ土地狹少ニシテ、其製造場モ之ヲ他所ニ設立セザル可カラザルガ如キ有様ナレバ、從テ十分ノ競争ヲナス事能ワズ、漸ヤク衰運ニ傾ムキ、千二百年ニ至リテハ、其商業只ダ以太利ノ西海岸ヲ上下スル、沿海貿易ニ限ギラレシガ、其生命モ僅カニ百年ニ過ギズシテ全ク滅亡シ、人民離散シ、港灣荒レ果テ、現今一モ其跟跡ノ見ル可キモアルナシ、

滅亡

「ビザール」

「ビザール」ハ「あまるふいー」ノ隆盛ナル時ニ當リ、專ラ亞弗利加ノ北岸、及ビ西班牙トノ貿易ニ從事シタリシガ、時ヲ經ルニ從ヒテ、漸ヤク盛大ニ趣ムキ、遂ニ「あまるふいー」ノ一

市府ノ起因

大強敵トナリ、「あまるふいー」ビテ以後、殆ンド地中海ノ商權チ一手ニ握ルニ至レリ、此市ハ元ト「さるじにや」人ノ一殖民地ナリシガ、紀元八世紀ニ至リ始メテ重要ナル市府トナレリ、此ノ時ニ當リ「さらせん」人暴威チ逞クシ、西班牙地方チ侵畧セシガ「びざー」モ亦其攻撃チ受ケ、難チ避ケ逃レテ「あるの」河口ニ退キ、此處ニ第二ノ市府チ建設ス、之レ即チ余輩ノ研究セント欲スル「びざー」ナリトス、

商業區域ノ擴張

斯クシテ「びざー」ハ紀元八世紀ニ起リ、十一世紀ヨリ十三世紀ニ至ルマデハ、其疆域甚ダ廣大ナラザリシト雖モ、亦繁盛ナル一共和國ナリキ、十字軍ノ起ルヤ、此市ハ之ニ向ツテ大ニ其力チ盡シ、許多ノ富ト特權トチ得、終ニ東ハ印度地方ヨリ、西ハ西班牙ニ至リ、南ハ亞弗利加ニ亘リテ、盛ニ其商業チ營ミ、「さるぢにや」「こるしか」及ビ「ばりありつく」諸島チ領スルニ至ル、其全盛チ極メシ時ニ當リテハ宏大ナル建築チ起シ、其大伽藍及ビ禮拜堂ノ如キ頗ブル驚嘆贊賞スキモノアリシト云フ、

「セのあ」トノ戦争

加之市民ハ勇猛敢爲ニシテ、戦争ニ長シ、其範圍ノ狹少ナルニ比シテ、許多ノ戰艦チ有シ一時其威チ海上ニ振ヒタリト雖モ、一盛一衰ハ免カレ難ク、「セのあ」ナル強敵ノ顯ハル、ニ及ビ雷ダニ商戰ノミニ止マラズシテ、之ト干戈チ交ヘ、千二百八十四年ノ戰ニ於テ、終ニ大敗チ蒙ムリ一萬一千ノ「びざー」人ハ之ガ俘虜トナレリ、當時、「びざー」チ見ント欲セバ「セのあ」ノ牢獄ニ行ケトノ語アルニ至ル、以テ其一般チ知ルニ足ラン、

滅亡

此ニ於テ「びざー」共和國ハ其終リチ告ゲタリト雖モ、其港ハ地形上樞要ノ地位チ占ムルチ以テ、「ふるれんす」及ビ「るか」兩市府ノ互市場トナリ、遽カニ頽廢スルコトナシ、而シテ「るか」ハ一時以太利ニ於ケル絹布製造ノ中心トナリ、盛ニ商業チ行ヒタリト雖モ、漸次衰頽ニ歸シ其商業亦見ル可キモノナキニ至リシカバ、「びざー」ハ之ニヨリテ大ニ影響チ蒙リタリ、加之「ふるれんす」ガ、後年「りぢあるの」港チ占有スルニ及ンデ、頓ニ其必要チ減シ其運命ハ益々傾ムキ來リ、遂ニ千四百六年「ふるれんす」ノ屬地トナレリ、此ノ如ク一時盛大ナリシ「びざー」モ全ク消ヘ失セテ、今日僅カニ其遺跡ノ存スル者ハ、彼ノ有名ナル傾斜塔ト、「かんぶす、さんつ」ト呼ブ埋葬地トノミ、徒ラニ昔時ノ隆盛チ追懷セシム、

「ふるれんす」ハ以太利ノ北部「たすかに」州ノ一都府ニシテ、十二世紀ノ初メニ於テハ、

市府勢力ノ
擴張

「まぢるだ」女伯ノ所領ナリシガ、後「たすかに」ノ諸市府ガ、帝王ト法王トノ争闘ニ關係
スルニ至リ、「ふるれんす」ハ法王ニ屬シテ、「げるふいつく」同盟ノ長トナリタリ、紀元千二
百五十年頃ニ至リテ、其勢力ハ大ニ増加シ、「ゲをるてるら」びすといあ「しえな」及ビ「あ
れつぞ」等近隣ノ諸市府ヲ征服シテ、其配下トナシ、番ヤニ「たすかに」ノ首府タルノミ
ナラズ、進ンデ以太利全部ノ首府トナルニ至レリ、

「プロレン
ス」ノ政体

「ふるれんす」ノ歴史ハ、實ニ商業上ノ勢力ガ、如何ニ政事上ニ影響ヲ及ボスカヲ示スモノ
ナリ、蓋シ此市ハ共和政体ナリシト雖モ、初メ其實權ハ貴族ニ歸シ、實業家ハ政事ニ參與
スル事ヲ得ザリシガ、十五世紀ノ中頃(即チ千四百三十四年)、富豪ノ商人ナル、「ぎをばん
に、ど、めぢし」ナル者出デ、ヨリ、政事上ノ實權ハ漸ヤク商人ニ移ルニ至レリ、其子「こ
すも」父ノ業ヲ繼ギテ銀行業ニ從事シ、政府部内ニ於テ位置ヲ有セザリシト雖モ、市會委
員トシテ大ニ權勢ヲ振ヒ、凡テ施政ノ方針ヲ指揮シ、殆ンド「ふるれんす」政治ノ實權ヲ掌
握セシガ、其子「ろーれんぞ、ど、めぢし」ニ至リテ、遂ニ「ふるれんす」全州ノ主宰者トナレ
リ、人ト爲リ賢明敏活ニシテ、大ニ文學美術ヲ好ミ、巨額ノ財實ヲ擲ナテ以太利其他ノ諸

「メヂシー」

國ヨリ有名ナル彫刻物及ビ美術品ヲ購求シ、且ツ其庭園ニ學校ヲ設立シ、美術家、文人、學者
ヲ四方ヨリ招聘シテ、之ヲ優待厚遇シ、專ラ子弟ノ教育ヲ務メタリ、之ニヨリテ彼「ろー
れんぞ、ど、まぐにふいせん」とナル尊稱ヲ附セラル、ニ至レリ、而シテ「めぢし」ナル語ハ、三
尺ノ童子モ之ヲ知ラザルナク、學術、技藝、詩文、彫刻、繪畫、等ト、常ニ相離ル可カラ
ザルモノトナレリ、彼「べなす、をふ、めぢし」(辨天ノ如キ肖像)ナル者ハ、其彫刻ノ精妙
ナル、實ニ美中ノ美、巧中ノ巧ナル者ト云フ可キ、最モ有名ナル美術品ナルガ、其何人ニヨ
リテ彫刻セラレタルヤ明ナラザルモ、嘗テ「めぢし」ガ之ヲ購求シテ、其庭園内ニ据置キシ
ニヨリ此ノ名ヲ附セシモノナリト云フ、此ノ如クナルヲ以テ、「ふるれんす」ハ文學技術ノ
中心トナリ、四方ノ學者及ビ美術家ヲシテ此地ニ輻湊セシメタルノミナラズ、又有名ナル
彫刻者美術家等續々此地ニ輩出シ、學者ニ於テハ「だんて」及ビ「ぼつかしを」ノ如キモノ
アリ、政事家ニハ「まじあべり」アリ、發見者ニハ「あめりごべすぶし」ノ如キアリ、其
他歴史家ニモ高名ナル者少ナカラズ、此ノ如キノ小邦ニシテ、數多ノ有名ナル人物ヲ出ダ
シタルハ、實ニ盛ナリト云ハザル可カラズ、殊ニ注意ス可キハ、夙ニ商業教育ニ意ヲ用ヒ

學術技術ノ
發達

商業教育

タル一事ニシテ、當時既ニ商業學校ヲ起シ、千四百年頃ニ於テ商業教科書ヲ出版シタリト云フ

抑モ「ふろれんす」ガ漸次其富ヲ増進セシ基ヲ尋ヌルニ、全ク其製造業ヨリ來リタル者ト云ワザル可カラズ、而シテ海上ノ權力ハ、全ク「びざー」ニ屬シ「ふろれんす」ハ「ウグをるの」ヲ得テ其海港トナスニ至ル迄ノ間「びざー」ニ依リテ其商業ヲ行ヒシヲ見レハ其航海業甚マ微々タルモノナリシコト明カナリ然レモ外國貿易ニ於テモ、多少之ヲ務メタル事ナキニアラズ、假令ハ千四百廿五年頃、埃及ニ代理人ヲ送リタルガ如キ、又數多ノ船舶ヲ製造シテ航海運搬事業ノ獎勵ヲナシタルガ如キ、者アリシト雖モ、此ノ点ニ於テハ「グえにす」及ビ「せのわ」ニ一步ヲ讓リタリ、而シテ此二國ガ「ふろれんす」ト競争シ得ザリシ者ハ、實ニ其製造業ト銀行事業ナリトス。

製造業及ビ銀行事務

組合

「ふろれんす」ガ其製造業ヲ盛ニナシタルハ、「アーナ」ナル組合ノ効實ニ多キニヨル、此組合タル凡テノ府氏ヲ以テ組織シ、組合ノ資格ヲ以テ政權ニ參與シ、貴族及ビ無職業者ト雖モ之ニ加入セザル可カラザル事トナセリ、而シテ之ヲ上下ノ二種ニ分チ、法律家、銀行者、

毛布及ビ絹布

醫師、商賈、及ヒ毛布、絹布ノ二製造業ヲ以テ大組合トナシ、鍛冶、靴工、大工、石工、及ビ屠人ノ五ヲ以テ小組合トナシ、之ニヨリテ其製造工業ヲ改良進歩セシメタリ、「ふろれんす」ノ製造業中、毛布及ビ絹布ハ最モ要用ナルモノニシテ、殊ニ毛布ニ於テハ二百有余ノ製造家アリ、其製造高ハ毎年八万反ノ多キニ達シ、三万ノ職工ヲ使役セリ、此等ノ製造品ハ金物細工ト共ニ晋チク歐洲全部ニ輸出セラレシガ、又「ふろれんす」ノ染物、就中猩々緋ニ於テハ他ニ比類ヲ見ザル所ニシテ、佛國製布匹ノ如キ此地ニ於テ染揚グルヲ常トセリ、其他金銀及ビ寶石ノ細工物、美術品、漆器、樂器、錦襪、造花、石礮、香油、香水等ノ如キ皆有名ナル産物ナリ、

銀行規模ノ宏大

然リ而シテ「ふろれんす」ガ其巨大ナル富ヲ得タルハ、實ニ銀行事務ニアリ、此都ニ於ケル銀行ハ其規模宏大ニシテ、其數八十有余ニ達シ無數ノ支店及ビ代辦店ヲ歐洲各所ニ設置シ未ダ世界ノ何處ノ人民モ銀行ノ事ヲ知ラザル時、早ク既ニ他ニ率先シテ盛ニ之ヲ行ヒ、一時歐洲ノ財政ヲ其手中掌握シ、各國ノ帝王モ時ニ或ハ巨額ノ負債ヲ之等ノ銀行ニ起シタリ此他「ふろれんす」ニ於テハ醫學大ニ進歩シ、數千人ノ患者ヲ入ル、ニ足ル可キ病院各所ニ

醫學ノ進歩

建設セラレテ、其數三十ノ多キ達シ、教育亦盛ニシテ學校ノ數ハ二百ニ及ビ、技術ヲ獎勵シテ優等ナル彫刻者美術家及ビ畫人等ニ賞碑ヲ授與シタリ、左レバ有名ナル學者技術家輩出シ、豪商富人ハ市府ニ充テ、絹業貴族布匹業貴族等ノ綽名アルニ至リ、政府ノ歲入ハ三
 十萬「フロリン」ノ巨額ニ達シ、其名中世ニ於テ地中海濱ニ喧々タリ

「ダエにす」

紀元五世紀ノ中頃、即チ四百五十二年、彼ノ强悍ナル「ハインズ」人ハ深ク歐洲ニ侵入シ來リ以太利及ビ「あどりやちつく」海濱モ亦其蹂躪スル所トナレリ、此時ニ當リ「あくいりや」ばぢゆわ」等諸小市府ノ市民ハ逃レテ海岸ヲ徘徊シ、一小淺瀬ヲ發見シ之ヲ以テ避難所トナセシガ、逃亡者ハ次第ニ蟬集シテ、此處ニ壹小州ヲ作り、「ゼービ」ト稱スル主權者ヲ撰ビテ以テ共和政府ヲ建設セリ、時ニ紀元六百九十七年ニシテ、之ヲ「ダエにす」ノ起因トス、此地ハ狹長荒蕪ノ砂島ニシテ、沼澤各所ニ散在シ、到底耕作スベカラズ、然レトモ之等ノ小島ハ遂ニ中世ニ於ケル最強最富ノ市府トナリ、百有餘年間地中海ノ帝王トナレリ、
 「ダエにす」ハ此ノ如ク荒蕪ナル砂地ニ陸上一ツノ産物ナク、只マ僅カニ海岸ヨリ鹽ト魚類

市府ノ起因

産物

ヲ出スニ過ギザリシカバ「ダエにす」人ハ始メ此ノ二者ヲ以テ其生業トナシ、之ヲ輸出シテ穀物及ビ其他ノ物品ト交換セリ、蓋シ鹽及ビ魚ノ二品ハ、中世ニ於テ甚ダ要用ナル商品ニシテ、殊ニ鹽ノ如キ其價甚ダ高貴ナリシナリ、之レ全ク宗教上ノ慣習ニ起因スルモノニシテ即チ彼ノ「がぞりつく」教徒ニハ、斷食期間ト稱スル者アリテ、此期間ニ於テハ全ク四足ノ生物ヲ食スル事能ワザリシガ故ニ、其間概テ獸肉ニ代エテ魚類ヲ食シ、以テ魚類ノ需要ヲ甚ダ多カラシメタルト、又當時ハ牧畜ノ業未ダ進マズ、冬期中ハ鮮肉ヲ食スル事能ワザリシガ故ニ、鹽ヲ以テ夏時ヨリ之ヲ保存セザル可カラザルノ必要アリテ大ニ鹽ノ需要ヲ盛ナラシメタルニヨル

鹽業

蓋シ「ダエにす」鹽業ノ甚ダ進歩セルコトハ、六世紀ノ初メニ於テ史書ノ既ニ記載スル所ニシテ、其尤モ盛ナル時ニ於テハ、世界ノ鹽業ヲ獨占シ、嘗ダニ自國ノモノミナラズ、遠ク「ゼるびや」「いすとりや」及ビ「だるまちつく」海岸ヨリ、「しゝりー」及ビ亞弗利加ノ北海岸ニ於ケル製鹽業ヲ其一手ニ引キ受ケタリ、當時歐洲諸國ニ於テ、山鹽或ハ泉鹽ヲ産出スル所アリシト雖モ、如何ニシテ之ヲ精製スルカナ知ラザリシガ故ニ、海鹽ハ殊ニ必要視セラ

沿海貿易ノ
擴張

レタリ、然レトモ後「ぐえにす」人ガ山鹽ヲ精製スルノ法ヲ知ルニ至リ、「ハんがリー」せる
 まん」及ビ「くろあしや」等ノ山鹽ハ、皆「ぐえにす」人ノ手中ニ歸セリ、
 スクシテ「ぐえにす」ハ、製鹽及ビ漁業ノ二者ヲ以テ始メテ其商業ヲ起シ、八世紀及ビ九世紀
 ノ頃ニ至リテハ、佛蘭西「ろんバール」等ノ諸國ト通商條約ヲ結ビシガ、紀元九百九十一
 年第二世「ゴート」ノ時ニ至リテ大陸ニ於ケル一二ノ小港ヲ買ヒ取りタリ、此事タル「ぐえに
 す」ノ商業ニ一大利益ヲ與ヘタルモノニシテ、之ヨリ大ニ其沿海貿易ヲ擴張スル事ヲ得タリ
 此外「ゴート」ハ自國ノ商人ヲシテ諸外國ヨリ輸入税ヲ減額シ、或ハ全ク免除スルノ特權ヲ
 得セシメ、猶ホ「スビゴト」「シリヤ」等ニ公使ヲ派シテ國王ニ面シ、其關係ヲ親密ナラシム
 ル等益通商貿易ノ擴張ニ盡力セリ、

造船及ビ航
海事業

「ぐえにす」ハ其自然ノ境遇ヨリシテ、自國ノ存立ヲ保持センガため、外國貿易ヲ盛ニセザル
 可カラズ、此必要ニヨリテ造船業ハ自然ニ進歩シ、航海術モ亦熟達シ、第十四世紀ニ於テハ
 三千余艘ノ商船ヲ構造シ、水夫ノ數ハ無慮二萬五千ニ達シタリ、此等數多ノ商船ハ數隊ニ
 別レテ、各海上ニ雄飛セリ、而シテ當時ハ海賊各所ニ出沒シ、海上甚ダ危險ナルヲ以テ「ぐえ

にす」ハ四十餘艘ノ軍艦ヲ構造シ、以テ各船隊ノ航路ヲ保護シタリ、此ニ至リテ海軍及ビ航
 海術ノ併進トナリ、其勢力ノ盛ナル「だるまちつく」地方ノ海賊ヲシテ怖逃セシムルニ至リ
 シカ、彼ノ十字軍ノ起ルヤ、此等無數ノ軍艦及ビ商船ヲ以テ、兵士兵糧ノ運搬ニ從事シ大
 ニ利益スル所アリ、此利益ハ管メニ金錢上ニ止マラズ、「ぐえにす」人ノ敏猾機敏ナル、至ル
 所ノ諸港ニ於テ貿易上ノ特權ヲ取得シ、第四十字軍(千二百四年)ノ時ニ當リテハ、其兵士
 ヲ利用シテ「こんすたんちのーぶる」ヲ侵襲シ、其平生相好カラザル、希臘人ノ勢力ヲ黑
 海地方ニ減殺シ、「ペろばんねさす」「さいぶらす」「くりーと」及ビ「あいをにやん」群島ヲ悉
 ク其手中ニ歸セシメ、猶ホ進ンテ黒海及ビ魯西亞ノ南部ニ於ケル商業ヲ壟斷シ、以テ亞細亞
 地方ノ隊商線路ト連絡ヲ通シ、「どん」河ノ河口ニ「たな」(今日ノ「あぞふ」)ト呼ブ市府ヲ建
 設シ、以テ魯國南部ノ商業ヲ獨占セリ、而シテ「ぐえにす」ハ管メニ地中海及ビ黒海ヲ蹂躪セ
 シノミナラズ、進ンテ「ヒぶらるたる」ノ海峡ヲ越エテ、遙カニ其船舶ヲ北氷洋ニ派セリ、
 即チ毎年一回或ハ二回ノ定期船ヲ發シ、東洋ノ貨物ヲ搭載シテ、「しーりー」「あふりか」及ビ
 「すペーん」ノ海岸ニ於ケル諸港ヲ經、「ふらんだーす」及ビ「ハんざ」同盟ノ諸市府ニ航行セ

黒海ニ於ケル競争者

「アフリカ」ニ於ケル「グエニス」ノ勢力

然リト雖モ、黒海ニ於ケル商權ハ永ク「グエニス」人ノ手中ニ存スル事能ワズシテ、千二百六十年ニ至リ、其強敵ナル「セのわ」ハ「びざー」ト力ヲ合せ、名ヲ希臘帝國ノ再興ニ籍リ、屢々希臘ヲ助ケテ「グエニス」ト相争ヒ、「かつふわ」ナル殖民地ヲ建設シテ、以テ「たな」ニ當リ一時ハ双方相對持シテ甲乙ナカリシト雖モ、千四百十年ニ至リ、土耳其人ノ西侵シテ「たな」ヲ奪フニ及ビ、「グエニス」人ハ遂ニ黒海地方ヲ退カザル可カラザルニ至ル、然レモ猶ホ南方「あれつば」ナル一港ヲ取り、「しりや」ノ隊商線路ト連絡ヲ通シ、廣ク亞細亞地方ノ産物ヲ集メ、宏大ナル倉庫ヲ建テ、之ヲ小亞細亞ノ反物、并ニ「わんごら」及ビ「ばらごにや」地方ノ山羊毛等ノ中心市場タラシメタリ、「あれささんどりや」モ亦「グエニス」商船ノ輻湊スル所ニシテ、印度及ビ「あらびや」産物ノ貿易中心トナリ、「グエニス」ヨリ金属、油、材木等ヲ輸出シテ、香料、絹、綿、象牙、菓實、蜂蜜、剪絨、及ビ毛、皮、等ヲ輸入セリ、又亞弗利加ノ北岸ニ於ケル「ちゆにす」ト「どりぼり」あるじや「す」もがどる」及ビ「たんじや」等ノ諸地ニ於テ、宏大ナル倉庫ヲ設ケ、隊商ノ手ヲ經テ内地ヨリ、象牙、砂金、奴

歐洲内地ノ商業

隸、穀物、椰子、羊毛等ヲ得、猶ホ「だるましや」ヨリ木材、酒、油、亞麻、大麻、家畜等ヲ得タリ、更ラニ歐洲ニ就テ觀察スルニ日耳曼及ビ以太利トノ内地貿易モ亦「グエニス」商人ノ盛ニ經營スル所ニシテ、東洋ノ貨物其他巨額ノ物産ハ、初メハ「かりんしや」ヲ經、後「ちろーる」ヲ經テ、日耳曼「いんがりー」「ばへみや」人等此間ニ斡旋シ、普チク各地ニ分配セラレタリ、

工業

當ダニ商業ノミナラズ、其工業モ亦振起セラレ、「グエニス」ハ製造品ニヨリテ益々其富ヲ増スニ至レリ、其最モ重要ナルモノハ、絹布製造ナリトス、蓋シ此ノ製造ハ、「グエニス」ガ「こんすたんちのーぶる」ヲ侵撃シ、希臘ノ一地方ヲ其手裡ニ歸セシメヨリ以後、大ニ進歩セリ、何トナレバ、此ノ地方ニ於ケル絹糸ハ、最良最美ナルモノニシテ、「グエニス」人ハ之ヲ用ヒテ絹布ヲ製造シタルガ故ナリ、之ニ次キテ要用ナルハ、玻璃ノ製造ニシテ、「グエニス」近傍ニ於ケル諸小島ノ土砂ハ、之ガ製造ニ最モ適當セリト云フ、又毛布、綿布等ハ其原料ヲ歐洲、亞細亞及ビ亞弗利加等ノ諸方ヨリ輸入シ紙、革皮、石鹼、染物、鑄物、及ビ眞鍮、鉄等ノ器具ト共ニ盛ニ之ヲ製造セリ、就中「グエニス」ノ武器ハ其牟ト美トニヨリテ最モ有

名ナリシモノトス、

抑モ「うえにす」ノ共和政体ハ、貴族独占ノ政体ニシテ、其外國貿易モ只ダ貴族ノ占有スル特權タリシト雖モ、千二百七十二年ニ至リ、始メテ市民一般ニ自己ノ資格ヲ以テ、商業ヲ行フ事ヲ許シタリ、之ヨリ府民ハ大ニ奮發シテ商業ニ從事シ、從テ亦其外國貿易モ從前ニ於ケルヨリ一層擴張セラレタリ、

全盛

此ノ如クニシテ「うえにす」ハ國益々富ミ、其商業益々盛大トナリ、十五世紀ニ至リテハ、實ニ其頂点ニ達シ、縱令黑海ノ商權ヲ其競争者ニヨリテ侵奪セラレタリト雖モ、一時歐洲ノ一方ニ雄視セリ、當時「うえにす」ガ大陸ニ有スル地領ノ幅員ハ二万方里ノ廣キニ達シ、無數ノ船舶ヲ以テ歐洲中樞要有力ナル運漕者トナリ、其造兵廠ニハ一万余人ノ職工ト、三万六千余人ノ水夫ヲ使用シ、貳十五萬ノ府民ハ「うえにす」ノ一小市府中ニ充滿シ、其初メ一小砂島上ニ建設セシ泥土ノ陋屋ハ、今ヤ宏大莊嚴ナル大理石造ト變シ、貧困寒褸倚ル所ナカリシ漁夫ハ、今ヤ歐洲屈指ノ豪商富人トナリ、其港内ニハ各國ノ商船軍艦林立シ、其府内ニハ外國商人輻湊シ之ガマテ宏大ナル客館ヲ建築シ、彼ノ千三百十九年ニ建設シタル「ムー

ン」ト稱スル者、及ヒ千三百二十四年ニ建築セシ「ホワイト、ライオン」ト稱スル者ノ如キハ、實ニ宏莊美麗ヲ極メタリ、之ヲ歐洲ニ於ケル「ホテル」ノ嚆矢トス、而シテ其府民ハ時ヲ經ルニ從テ増加シ、愈市府ノ境域ヲ廣クシ、全市ノ縱横ニ溝水ノ街道ヲ穿テ、四通八達、美麗ナル花艇ヲ以テ其來往ニ供シ、高樓大廈之ガ兩側ニ併列シ、市民ノ殷富ナル、四千乃至七千「ジュカット」ノ歲入ヲ有スル者、千有余人ノ多キニ達セリト云フ、當時三千「ジュカット」ヲ以テ、一宮殿ヲ購求シ得タリシト云フヲ知ラバ、四千「ジュカット」ハ實ニ巨大ナル額ト云フ可キナリ、且ツ府民ノ豪富ナル者ハ、「ふるれんす」ニ於ケルガ如ク多ク銀行事業ニ從事シ、其信用ノ確實ナル政府之ヲ保証スルニ至ル、又「リアルト」ト稱スル、現時ノ交換所ノ如キ者ヲ設ケ、無數ノ商人此所ニ集マリ、其盛大ナル全歐洲ニ名聲ヲ響カセタリ、加之其外國ニ於ケル所領ハ、「あどりやちつく」海岸及ヒ「いすとりや」「だるまちつく」「ろんばーぢー」諸島ヨリ猶ホ「あつた」ノ河口ニ達シ、第四十字軍ノ時ニ於テ、「ぐりーす」及ビ「ゑーじやん」海ニモ亦無數ノ領地ヲ得、其工藝品ノ精巧ナル、其商業規模ノ宏大ナル、實ニ地中海ニ於ケル帝王ト仰ガレタリ、

「ヴェニス」ノ遠征者

「ラエにす」ハ世界既知ノ小範圍内ニ満足セズシテ、未知ノ世界ヲ發見シ、以テ其通商ヲ擴張セシムコトヲ務メタリシガ、從テ有名ナル遠征者ヲ出ダシ、彼ノ「にころばー」ノ如キハ、十五ヶ年ノ長年月ヲ費ヤシテ、「るじぶト」ペルシヤ「印度支那及ビ韃靼地方ヲ巡行シ、」にころばー」ノ一子「まるこばー」ハ、遙カニ我日本國ニ渡來セリト云フ、其支那ニ來リタル事ハ、彼レノ遠征日記ニヨリ明ニシテ、當時我國ヲ「じやつばんこー」ト呼ビ、金銀寶玉ノ山ヲ以テ充タサレタル邦土ナリト想像セリ、盡シ我國ヲ「じやつばん」ト呼ブハ之ヨリ來リシナリ、其他「ばるてま」「じよせふ、ばるばるー」等、枚舉スルニ暇アラズ、

商業政畧

「ラエにす」ハ其商業政畧トシテ平和ヲ重シ、専ラ保護主義ヲ採リ、通商條約ノ如キモ務メテ自國商人ノ利益ヲ計リ、船舶ノ如キモ其構造ヲ政府ニテ一定シ、且ツ其出帆、航路、滞在日數、輸出入品等ニ至ルマデ、悉ク法律ヲ以テ之ヲ製定シ、船舶ノ外國港ニ滞在中ハ、凡テ領事ノ命令ニ從ヒ、少シモ自由ニ其航路ヲ變更シ、或ハ出帆スル事ヲ得ザラシメ、外國ノ輸入品ニハ重稅ヲ課シテ、以テ内國ノ商業及ビ工業ヲ保護セリ、假令ハ毛布ノ製造ヲ保護センガタメ、佛蘭西及ビ「ふらんたー」地方ノ毛布ニ重稅ヲ課シテ、其輸入ヲ防止シ

タルガ如キ之ナリ、或人曰ク、「ラエにす」ノ商工業ハ寧ロ國家的事業ト云フ可シト、語甚ダ極端ニ走リタル嫌ナキニアラズト雖モ、亦以テ其保護干涉ノ厚カリシ事ヲ窺フニ足ラン。「ラエにす」ノ如キ此ノ保護政畧ヲ以テ當時ノ誤謬トナシ、之ニヨリテ「ラエにす」内外商工業ノ發達進歩ヲ妨ケザリト云フト雖モ、只ダ架空ニ之ヲ論斷スルニ至リテハ、輕卒ノ評タルヲ免ル、事能ワザルナリ、蓋シ自由放任ハ、英國人が常ニ口唱スル所ニシテ、深ク怪ムニ足ラズト雖モ、其自由ト云ヒ保護ト云フモ、時ト場合トニヨリテ其手段ヲ異ニス可ク、只ダ絶體的ニ保護貿易ヲ非トスルハ、寧ロ漠然タル議論ト云ハザル可カラズ、見ヨ英國ト雖モ「くるむゑる」時代ニ於テハ、盛ニ保護稅ヲ課シテ、保護政略ヲ採リタル事實アルニアラズヤ、然レモ余輩ハ決シテ保護論ヲ主張スル者ニアラズ、又「ラエにす」ノ採リタル保護政策ハ絶體的ニ可ナリト云フ者ニアラズ、只ダ保護政策ヲ採リテ、而シテ猶ホ大ニ其國ノ商業ヲ盛大ニナシタル、歴史上ノ實例アル事ヲ述ブルニ過キザルナリ、

「ラエにす」ハ一時其偉大ナル勢力ヲ世界ニ振ヒシト雖モ、黒海ニ於ケル「せのわ」トノ競争ヲ始メシヨリ、其競争年ヲ追フテ激烈トナリ、千三百七十九年ニ至リ遂ニ「せのわ」トノ戦端

「エーグナ
デル」ノ戦争

衰亡ノ大原
因

ヲ開キシガ、下リテ十六世紀ニ至リテ、法王及び佛、獨、西班牙ノ諸帝王「かひふれ」ノ同盟ヲ結び、以テ「グエにす」ニ當リ、千五百九年「えーぐなでる」ノ一戦「グエにす」ハ大敗ヲ取リ、又恢復スル事能ワズ、加之一方ニ於テハ、土耳其人起リテ「くりーと」及ビ「さいぶらす」ヲ奪ヒ、益々「グエにす」ノ商權ヲ減殺セリ、然リ而シテ其衰頹ノ一大原因ハ、千四百九十八年有名ナル「ばすこでがま」ガ、亞弗利加ノ南端ヲ一周シテ印度ニ達スルノ新航路ヲ發見セシ事之ナリ、此ノ時ニ當リテ「りすばん」府ニ駐劄セル「グエにす」ノ公使ハ葡萄牙ノ商船印度ヨリ海路直チニ「たがす」ニ歸着シ、且ツ印度ニ商館ヲ建築シ、所々ニ殖民地ヲ作りタル事ヲ聞クヤ、急報ヲ發シテ之ヲ本國ニ報ジタリシガ、「グエにす」政府ハ蒼惶爲ス所ヲ知ラズ、失望驚愕遂ニ埃及王ニ説キ、共ニ兵ヲ合せ、一舉シテ東洋ニ於ケル葡萄牙ノ殖民地ヲ奪ヒ、以テ自カラ之ニ代ラントセリ、然レモ埃及王ノ纖弱ナル容易ニ之ニ應ズルノ勇氣ナカリシカバ、「グエにす」ハ其共ニ語ルニ足ラザルヲ知リ、即チ葡萄牙王ヲ強迫シテ、東洋ニ於ケル殖民地ヲ撤去スルニアラズンバ、埃及及ビ「パレすたいん」ニ於ケル同國人ヲ悉ク追放セン事ヲ以テセリ、然レドモ葡萄牙ハ少シモ驚ク色ナク、泰然トシテ之ニ應ゼズ、此ニ至

リテ「グエにす」ハ亦如何トモナス事能ワズ、只ダ手ヲ拱シテ自滅ヲ待ツノミ、蓋シ「グエにす」ガ葡萄牙人ノ爲メニ苦メラレタルハ、之レ地理上ノ結果ナリ、時勢ノ變遷ナリ、人力ヲ以テ如何トモナス能ワザル所、之ヨリシテ「グエにす」ノ本據タル地中海ノ商業ハ全ク其中心ヲ轉ジ、東洋トノ陸上貿易ハ今ヤ變ジテ海上ノ貿易トナリタリ、而シテ之レ自由保護何レノ政策ヲ以テスルモ、決シテ救済スル事能ワザルナリ、

「せのわ」

「せのわ」ハ安全ニシテ且ツ廣大ナル良港ヲ有スルガ故ニ、羅馬時代ヨリ既ニ一ツノ輸出場トシテ利用セラレ、内地ヨリ盛ニ木材、陶器、蜂蜜、毛織等ヲ輸出シタリ、八世紀ニ至リテ「さらせん」人ノ侵入セシ時、大ニ海上ノ權力ヲ有シ、當時富強ナル一都府タリシガ、十字軍ノ起ルニ及ンデ、商業上益々要用ナル位置ヲ占メ、他ノ市府ニ於ケルガ如ク又々十字軍ノ爲メニ力ヲ盡シテ利スル所多ク、且ツ「しりや」ニ於テ貿易上ノ特權ヲ得、漸ヤ東洋商業ノ要部ヲ握ルニ至レリ、加之一方ニ於テハ、「しりや」亞弗利加ノ北海岸佛國ノ南方及ビ「ふらんだ」獨乙ヨリ、他方ニ於テハ小亞細亞希臘等ト盛ニ商業ヲ競ヒ、以太利市府

商業範圍

「ヴェニス」
トノ競争

中ニ頭角ヲ顯ワセリ、
其後「せのわ」ハ黒海ニ於ケル商權ヲ握ラント欲シテ、遂ニ「ヴェニス」ト競争ヲ始メ千二百六十二年希臘帝國ヲ再興シ、之ヲ助ケテ以テ「ヴェニス」ニ打テ勝テ、「こんすたんちのーぶ」ヨリ「ヴェニス」人ヲ放逐シテ殆ンド黒海ノ商業ヲ壟斷シ、「かつふわ」ナル殖民市府ヲ建テ東洋貿易ノ中心ヲナシ、堅固ノ城壁ヲ設ケ、其古跡今日猶ホ存セリ、

「ヴェニス」
工業

「せのわ」ノ工業ハ實ニ微々タルモノニシテ、只ダ僅カニ革皮及ビ毛織物ノ製造アリシニ過ギス、之ヲ以テ其營メル所ハ「ヴェニス」ニ於ケルガ如ク仲買的商業ナリキ、之レ「ヴェニス」ト競争スルノ止ムヲ得ザル原因ナラン乎、此仲買的商業ニヨリ、「せのわ」ハ以太利ノ織物、獨乙ノ革皮、「リンチル」、鋼、佛蘭西ノ紙并ニ織物、及ビ西班牙ノ諸産物ヲ東洋ニ輸出シ、又歐洲ニ向テ東洋ノ物産ヲ輸入セリ、

「ヴェニス」
トノ競争

然リ而シテ「ヴェニス」トノ競争ハ、常ニ止ム時ナク、軋轢ノ末遂ニ四年ニ亘ル戦争ヲ生ジ、千三百八十一年一旦和睦ヲ結ビタリト雖モ、之ニヨリテ却テ大ニ其商權ヲ減削セラレ、黒海及ビ地中海ニ於テ「ヴェニス」ニ一步ヲ讓ルニ至ル、此ノ時ニ當リ又「せのわ」國內ニハ黨派

衰滅

ノ紛争アリ、其極途ニ外國ノ保護ヲ受ケン事ヲ願フニ至リ、千三百九十六年佛蘭西王ノ支配ニ歸シ、其後或ハ澳大利或ハ「みらん」ノ勢力ニヨリテ左右セラレ、此ニ至リテ全ク政事上ノ獨立ヲ失ヒ、從テ商業的政策ヲ確定スル事能ハズ、千四百五十二年土耳其人ノ起リテ「こんすたんちのーぶ」ヲ奪フヤ、「せのわ」ハ初メ希臘ヲ助ケテ、土耳其ニ抗セシガ、其勢ノ當ル可カラザルヲ知り、手ヲ収メテ却ツテ土耳其ノ好意ヲ得ン事ヲ務メタリ、蓋シ「せのわ」人ノ敏猾ナル、寧ロ土耳其ノ好意ヲ得テ、以テ「こんすたんちのーぶ」ノ商利ヲ握ラン事ヲ欲セシガ故ナラン、然レドモ土耳其ハ決シテ商業上ノ好得意ニアラズ、千四百七十五年「かつふわ」モ亦土耳其人ノ手ニ落テ、爲メニ黒海ノ商業衰ロヘ、之ニ次ギテ東洋ニ達スル新航路ノ發見アリシヨリ、「ヴェニス」ト同シク全ク其商業ヲ失フニ至レリ、後年「みらん」ノ屬地トナリ多少其權力ヲ恢復セリト雖モ、亦昔日ノ「せのわ」ニアラズ、蓋シ之レ亦止ムヲ得ザル自然的ノ結果ト云フ可キナリ、

「みらん」

「みらん」ハ「ぱー」河ノ河口ニ位シ、土地頗ブル豊饒ニシテ、農業大ニ進歩シ、其製造工業

モ亦盛ニシテ、之ニ因テ國富チ増進セリ、此地ハ羅馬帝國ノ時既ニ有名ナル市府ノ一ナリシ、北狄侵入ノ際ハ強硬ナル反對チナシタリ、而シテ其政權ハ「アーチビヨップ」ノ掌握スル所ナリシガ、「しやーれまん」大王ノ死後ニ至リ、全ク其手中ニ歸セリ、紀元八百九十九年「ハインズ」侵入ノ時ニ當リテ堅固ナル城壁ヲ以テ其市府ヲ繞ラシ、當時封建諸侯ノ間ニ介立シテ、能ク其獨立ヲ保持シタリ、去レハ近隣ノ市民ヨシテ諸侯ノ配下ヲ脱シ、「みらん」ニ來リテ其保護ヲ請フ者多ク、其人口ハ年ヲ追フテ増加シ、府民ハ遂ニ共和政体ヲ組織スルニ至レリ、千八百十三年「こんすたんと」和睦（『ふれでつづくるハスワ』ト法王『あれささんだー』ノ和睦ナリ）ノ後、更ニ其城郭ヲ擴張シ、製造工業モ亦大ニ進歩シテ、莫大ナル富チ得タリ、「みらん」ノ製造業中重要ナル者ハ武器ニシテ、其名實ニ歐州ニ冠タリ、其後商業組合ヲ組織シテ、毛布及ヒ絹ノ製造業ヲ起シ、農業モ亦益々改良進歩セシメタリ、斯ノ如ク「みらん」ハ其農工業ヲ以テ國ヲ立テシガ故ニ、他ノ以太利ノ諸市府ノ如ク、新航路ノ發見ニヨリテ、激變ヲ受ケタル事ナカリシガ如シ、

以太利市府
ノ概論

以上余輩ハ以太利ニ於ケル許多ノ自由市府中、其主要ナル者ニツキテ觀察ヲ下セシガ、以

テ實業社會ノ勢力侮ル可カラザルモノアルヲ証スルニ足ラン乎、實ニ以太利ノ自由市府ハ歐州ニ於テ封建制度盛ニ行ワレ、諸侯ノ壓制激烈ナル時ニ際シ、能ク之ガ禍ヲ脱シテ商業ノ自由境裡ニ奔走シ其巨大ナル富ニヨリ小國ニ似合ハザル勢力チ有シタルモノトス、然レドモ以太利人ノ欠点トシテ、兄弟鬩ニ相闘グノ僻アリ、彼ノ「せのあ」ノ如キハ、自カラ進ンデ他ノ保護ヲ受クルノ淺間數結果チ來スニ至ル、加之十六世紀ノ初メ新航路ノ發見ニヨリ、彼等ノ本陣タル地中海ハ、商業上亦昔日ノ如ク要路ナラザラルニ至タリシカバ、其勢力モ自然衰頽ニ歸シタルハ亦止ムチ得ザルナリ、

抑モ商業ハ國チ富マスノ一大要素ナリト雖モ、商人其人ニシテ、徒ラニ利益ニ吸々トシテ國家的ノ氣象ニ乏シキ時ハ、却ツテ國家ヲ害スル事、余輩實ニ之ヲ以太利中古ノ歴史ニ於テ見ル、

第三章 「ハインズ」同盟市府

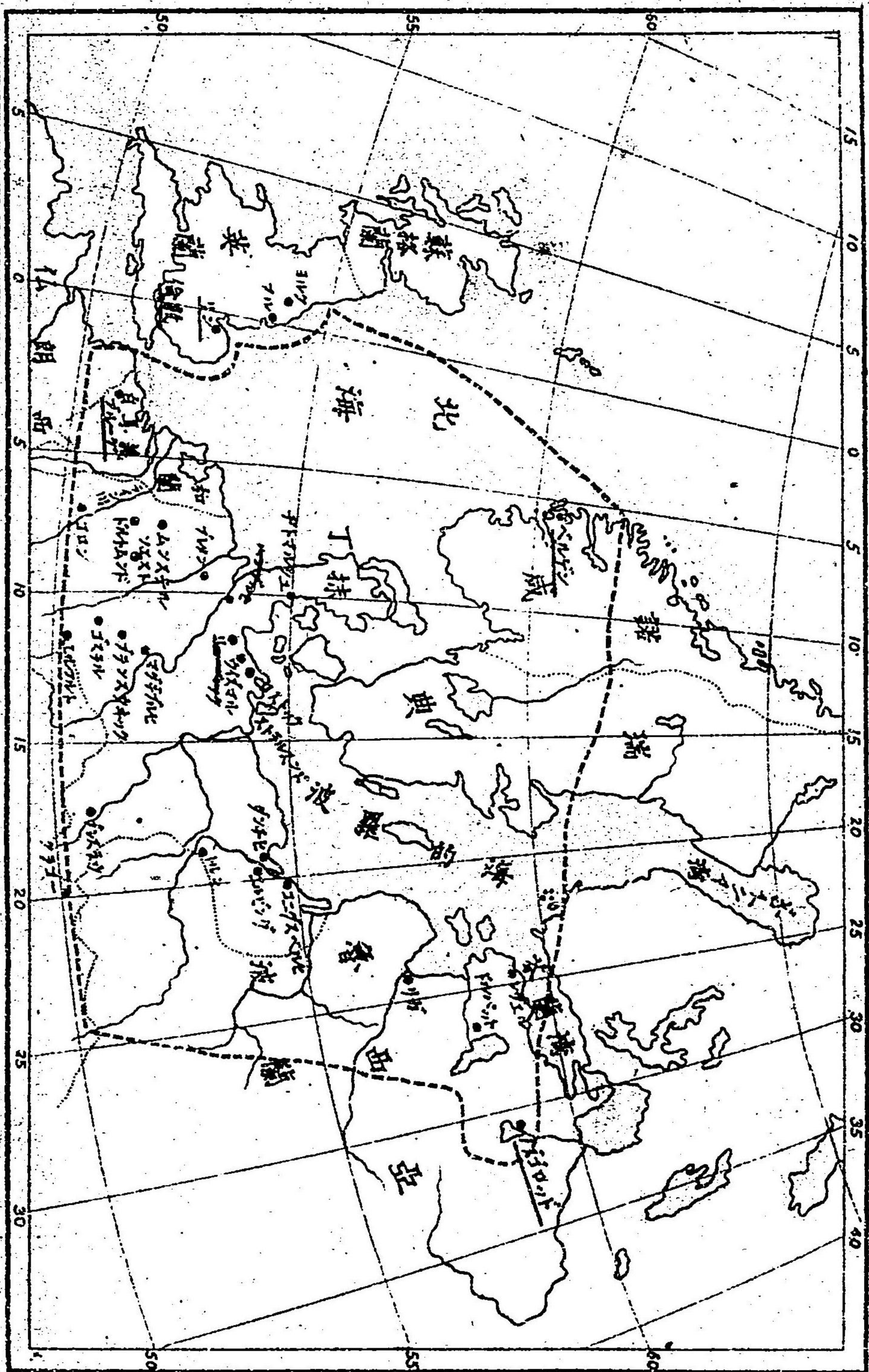
余輩ハ既ニ中世商業ニ於ケルニ大原動力ノ一ナル以太利自由市府ヲ觀察シ終リタレハ、是

同盟ノ目的

ヨリ眼ヲ北方ニ轉シテ「ハインゼ」同盟ノ形跡ヲ研究スル所アラント欲ス、此同盟ノ起因ハ空漠知ルニ由ナシト雖モ、其目的ハ當時日耳曼及ビ波羅的海邊ヲ出沒スル海賊ヲ防禦スルニアリシヲ疑フベカラズ、蓋シ中世ノ始メ頃ニ於テ、歐洲北方ノ人民ハ慄悍猖獗海賊ヲ以テ其常職トナセルモノ多ク、其甚シキニ至テハ「スカンヂナビ」地方ノ貴族輩ニシテ、尙ホ海上ヲ以テ名譽ト富貴ヲ得ルノ公野トナシ、海賊ノ非業ヲ勸キ恬トシテ顧ミザルモノアルニ至レリ、此等ノ輩ハ金錢ヲ貪ルヨリハ寧ロ愉快ト名譽ヲ得ンガ爲ニ、好ンテ此非業ヲ犯セルモノナルガ故ニ、海岸ニ散布スル小市府ノ力ヲ以テ到底孤立シテ之ニ抵抗スルコト能ハズ、爰ニ於テ是等ノ小市府ハ互ニ相合シテ團體ヲ作ルニ至リシガ、外寇ノ刺激ニ依リテ其結合益々鞏固トナリ、終ニ海賊ヲシテ其勢ヲ逞クスルコト能ハズ、去ツテ英、佛ノ海岸ニ逃亡スルニ至ラシメタリ、而シテ十二世紀及ビ十三世紀ノ頃ニ於テハ、猶ホ未ケ全ク海賊ノ侵害ヲ免カルコト能ハザリシト雖モ、同盟ノ強固益々加ハリ、十四世紀ニ至リテハ既ニ政治上ニ大勢力ヲ得、歐洲南部ノ商業ヲモ其掌中ニ握ルニ至レリ、而シテ歐洲北部ノ商業ハ實ニ「ハインゼ」同盟ニヨリテ始メテ起レルモノト云フベキナリ、

同盟ノ發達

ハンゼ同盟ノ範圍



青線ハ漢ゼ同盟ノ範圍
赤線ハ北海ノ範圍

13-15

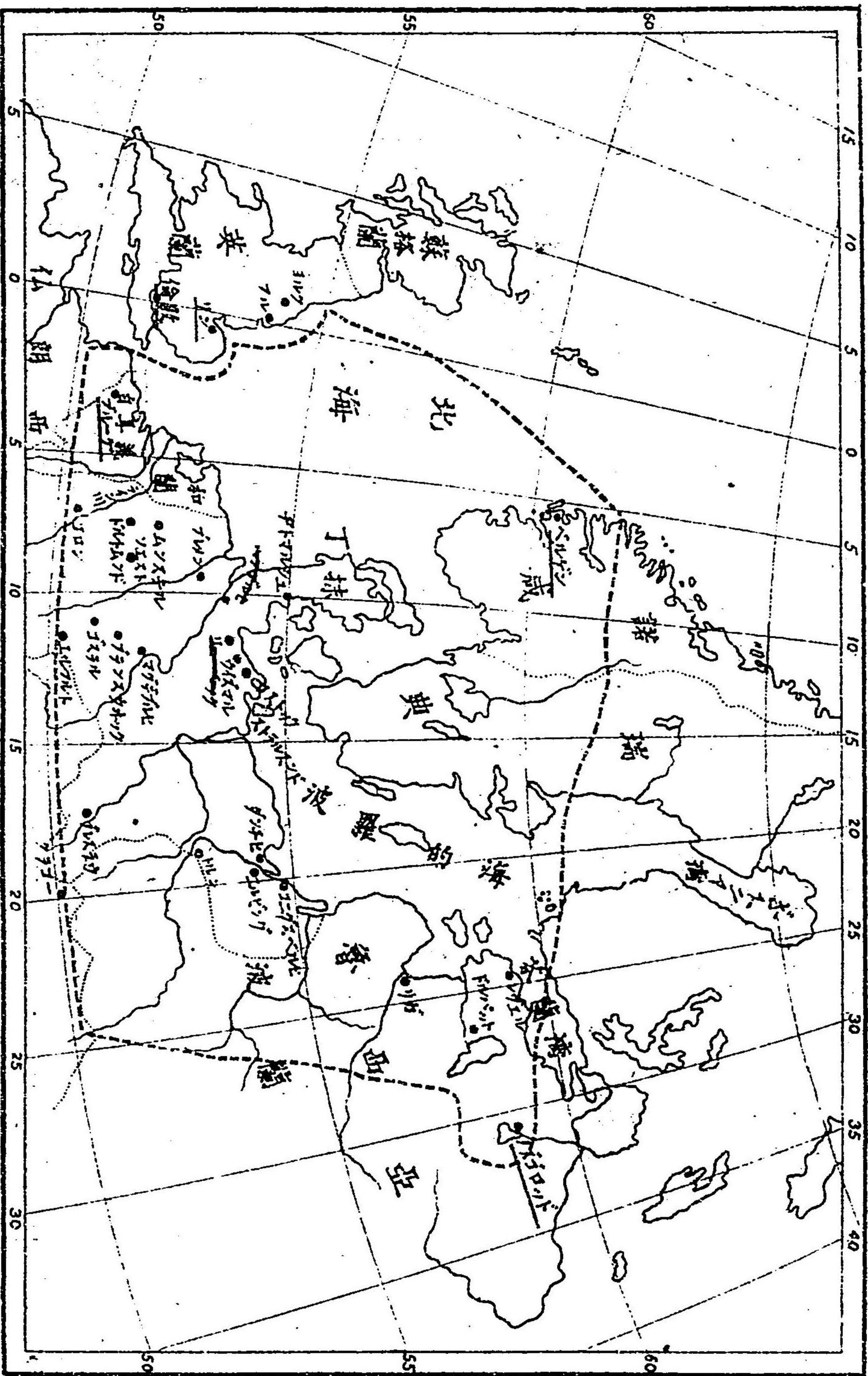
世紀

ハンゼ同盟ノ範圍

同盟ノ目的

ヨリ眼ヲ北方ニ轉シテ「ハーンゼ」同盟ノ形跡ヲ研究スル所アラント欲ス、此同盟ノ起因ハ空漠知ルニ由ナシト雖モ、其目的ハ當時日耳曼及ビ波羅的海邊ヲ出沒スル海賊ヲ防禦スルニアリシヲ疑フベカラズ、蓋シ中世ノ始メ頃ニ於テ、歐洲北方ノ人民ハ慄悍猖獗海賊ヲ以テ其常職トナセルモノ多ク、其甚シキニ至テハ「スカンヂナビウ」地方ノ貴族輩ニシテ、尙ホ海上ヲ以テ名譽ト富貴ヲ得ルノ公野トナシ、海賊ノ非業ヲ働キ恬トシテ顧ミザルモノアルニ至レリ、此等ノ輩ハ金錢ヲ貪ルヨリハ寧ロ愉快ト名譽ヲ得ンガ爲ニ、好ンテ此非業ヲ犯セルモノナルガ故ニ、海岸ニ散布スル小市府ノ力ヲ以テ到底孤立シテ之ニ抵抗スルコト能ハズ、爰ニ於テ是等ノ小市府ハ互ニ相合シテ團體ヲ作ルニ至リシガ、外寇ノ刺激ニ依リテ其結合益々鞏固トナリ、終ニ海賊ヲシテ其勢ヲ逞クスルコト能ハズ、去ツテ英、佛ノ海岸ニ逃亡スルニ至ラシメタリ、而シテ十二世紀及ビ十三世紀ノ頃ニ於テハ、猶ホ未ダ全ク海賊ノ侵害ヲ免カルコト能ハザリシト雖モ、同盟ノ強固益々加ハリ、十四世紀ニ至リテハ既ニ政治上ニ大勢力ヲ得、歐洲南部ノ商業ヲモ其掌中ニ握ルニ至レリ、而シテ歐洲北部ノ商業ハ實ニ「ハーンゼ」同盟ニヨリテ始メテ起レルモノト云フベキナリ、

同盟ノ發達



此圖ハ「ハンゼ」同盟ノ範圍ヲ示スルニ用ヤル
 赤色点線ハ海峽ニ於テ「ハンゼ」同盟ノ勢力ヲ示スルニ用ヤル
 赤色粗線ハ海峽ノ場所ヲ示ス
 13-15 世紀 ハンゼ同盟ノ範圍

同盟創設ノ
期日

「ハインゼ」同盟創設ノ期日ニ就テハ精確ノ調査ヲ得ズト雖モ、十二世紀ニ於テ「ハインゼ」
「リッベック」ノ二市府間ニ、既ニ同盟ノ結ハレタルハ事實ナリトス、漢堡ハ九世紀ニ於テ
「シールレマン」大帝ノ建設セル都府ニシテ、「リッベック」ハ十二世紀ニ起レルモノナリ、而
シテ二市ノ間ニ於ケル同盟締結ノ年月ノ如キモ、或ハ千百六十九年ナリト云ヒ、或ハ千二
百年ナリト云ヒ、或ハ又千二百四十一年ナリト云ヒ、何レヲ信ナリトスベキヤ明カナラズ
ト雖モ、第一ノモノ恐ラシハ信ニ近カラン、該同盟ノ目的ハ即チ海陸交通ノ安全ヲ保護セ
ンガ爲メニシテ、之レチ「ハインゼ」同盟ノ元祖ナリトス、之ヲ基トシテ獨乙北岸ノ諸市及内地
ノ諸府概チ之ニ加入スルニ至レリ、今是等ノ諸市府ヲ數フレハ「リッベック」「ハインゼ」
ヲ始メトシ、「ブレイメン」「ゼルトヒンデ」「ミンズテ」「ブレンスラウ」「マクデフレンヒ」
等アリ、後「ころん」及ビ來因河畔ノ諸市等亦之ニ加ハリ、千三百年ノ頃ニ至リテハ既ニ七
十ノ同盟市府ヲ包括セリ、誰カ其初ハ微々トシテ勢力ナカリシ二三市府ノ團結ガ、後世ニ至
リ北部海上ノ主權ヲ握リテ歐洲政治社會ニ重キヲ置クベシト想像セシモノアランヤ、予輩
乞フ此趣味アル歴史ヲ講究セン、

同盟ノ元祖